

# きべりはむし

第44巻 第1号

2021



「きべりはむし」編集委員会

委員長 池田大  
編集委員 近藤伸一・阪上洸多・末宗安之・中峰空・安岡拓郎

## 兵庫県のナガゴミムシ類 (1)

森 正人<sup>1)</sup>

### はじめに

昨年からはじめられたコロナ騒ぎの終わりが見えず、野外での採集よりもステイホームでの研究や標本作成、あるいは原稿の執筆する方が増えたせいも、本誌への投稿量も多くなっているらしい。久しぶりに掲載できそうなので、県内のナガゴミムシ類の記録や標本データを整理しておきたい。ナガゴミムシ類は分類の困難なグループが含まれており、まだ自身でも十分に認識できていない部分がある。皆様のご指導やご指摘をお願いしたい。

まず、ナガゴミムシ類の上位分類単位である亜科と族の扱いについて、これまでは田中(1985)の分類体系を踏襲することが多かったが、将来の目録作成を念頭に置いて、ここでは基本的にLöbl & Löbl(2017)の分類体系に沿うことにした。また、種の学名についてもこれに準拠したが、配列については出来るだけ田中(1985)に従った。

Löbl & Löbl(2017)では、ハンミョウ類やオサムシ類、ゴミムシ類のほとんどをオサムシ科 Carabidae として位置付け、その下にいくつかの亜科を認めている。田中(1985)の Pterostichinae (ナガゴミムシ亜科)は、ここでは Harpalinae (和名としてはゴミムシ亜科またはゴモクムシ亜科)のなかの Abacetini (ツヤナガゴミムシ族)、Melamchitonini (トックリモドキナガゴミムシ族)、Morionini (クチキゴミムシ族)、及び Pterostichini (ナガゴミムシ族)として位置づけられている。兵庫県産としてはツヤナガゴミムシ族とナガゴミムシ族の2族である。

いつものとおり、掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け、文献記録については記載された県内の記録地名と典拠情報を年代順に明記した。標本記録については、筆者が実検したものや手許にある県内標本のなかから、原則1産地1例とし、採集頭数・採集地・採集データを明記した。採集者については、筆者以外のものは採集者名を明記し、筆者採集のものはこれを省略した。生息環境や生態情報、全国分布、基産地情報などについても知り得た範囲で記述した。

兵庫県産のナガゴミムシ類のうち、山地性の広義ナ

ガゴミムシ亜属については、森(2000)で一応整理されているので、今回はそれ以外の種類の掲載とした。広義ナガゴミムシ亜属については追加種もあるので、次回以降に掲載を予定している。兵庫県産のナガゴミムシ類は以下の2族9属である。

### 各種解説

#### ツヤナガゴミムシ族 Tribe Abacetini

日本産は3属に整理され、兵庫県は次の1属である。なお、兵庫県での記録はまだないが、所属が不安定だったヒラタマルゴミムシ属 *Cosmodiscus* はこの族に位置づけられている。

#### ツヤナガゴミムシ属 Genus *Abacetus*

##### 1. ホソツヤナガゴミムシ *Abacetus leucotelus* Bates, 1873

【文献記録】Kobe city Pond Osara[吉松慎一ほか, 2018].

【標本記録】2exs, 加西市青野ヶ原, 16-VII-1994; 35exs, 加西市段下町, 5-X-2003; 1ex, 加西市野田池, 9-VIII-2003; 1ex, 小野市福岡町女池, 29-VI-2014.

基産地は長崎と中国(揚子江)。日本では本州、九州、南西諸島に分布するが記録は少ない。県内での分布は局地的で、播州平野の丘陵地周辺だけで確認されているが、最近はあまり見られなくなった。生息環境は植生が比較的豊かなため池など止水域の水際に限られるようであるが、体長は4.5mm前後と小さいので、野外ではある種のミズギワゴミムシ類のように見える。

##### 2. ヨツボシツヤナガゴミムシ *Abacetus tanakai* Straneo, 1961

【標本記録】9exs, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018.

基産地は神奈川県平塚。日本特産種で本州、四国、九州に分布している。兵庫県では従来記録が無く、長い間探し求めていたが、県西部の千種川下流域の河畔林脇でようやく見付けることが出来た。

筆者の手元には利根川(茨城県)、揖斐川(岐阜県)、相野谷川(三重県)、紀ノ川、富田川、太田川、熊野川(和歌山県)、仁淀川、四万十川、黒川(高知県)、北川(宮崎県)などの標本があるが、いずれの採集場所も自

<sup>1)</sup> Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

然環境が豊かで比較的規模の大きな河川の河川敷であり、このような環境に強く依存していることが示唆される。船本ほか(2010)は多摩川において、本種を河川敷の池のほとりにあるアズマネザサ群落内や林縁の落葉下から採集し、林床の湿り気が重要である可能性を述べている。また、危険を察知すると土中に潜り込む行動を観察している。また、大塚(2005)は広島県太田川の河川敷の林床にある湿った落葉下で、長期間にわたり多数を観察しており、本種の生息環境事例として報告している。辻(2015)は岩国市御庄川ダム上流での観察結果として、河川敷のモウソウチク林のやや湿り気のある砂地林床で、昼間に活発に歩行する個体を観察し、地表のひび割れや隙間を身を隠す場所として利用すること、夜間は活動していないことを報告している。

筆者の採集経験でも、河畔林の林床や落葉下での確認事例が多いのだが、河畔林はヤナギ林や竹林など様々で特定の植生に依存する様子は感じられなかった。和歌山県太田川では河川敷の開放的な草地環境でも観察している。また、高知県仁淀川では、洪水直後の河畔林内で、他の生きものが流されて全く見られなくなった林床で、本種だけが砂地の落葉下で普通に観察された経験があり、これが強く印象に残っている。攪乱時には、辻(2015)が報告しているように、地表のひび割れや隙間を積極的に利用し、河畔林の土中を垂直方向に避難・移動する可能性もあると推察している。

#### ナガゴミムシ族 Tribe Pterostichini

日本産は8属に整理され、兵庫県ではそのすべてが確認されている。

#### ムネミゾマルゴミムシ属 Genus *Caelostomus*

日本からは1種が知られており、県内にも分布している。

#### 3. ムネミゾマルゴミムシ *Caelostomus picipes* (MacLeay,1825)

【文献記録】氷上郡[山本義丸,1958];川西市大和[仲田元亮,1979];氷ノ山[高橋匡,1982];宝塚市売布ガ丘[小田中健,1993];Tanba Ikusato[吉武ほか,2011].

【標本記録】1ex,朝来市生野白口,23-VII-2007;1ex,神戸市道場生野,3-V-2006;1ex,神戸市道場,4-VII-2006.

日本では北海道(伊藤,1992)、本州、四国、九州、南西諸島に広く分布しているが、県内での生息地や個体数はあまり多くない。樹林性で樹幹の隙間や樹皮下などで見られる。ムネミゾナガゴミムシは異名。*C.japonicus* Tschitscherine,1898は本種のシノニムとされている。

#### ツヤムネマルゴミムシ属 Genus *Oxyglychus*

日本からは1種が知られており、県内にも分布している。

#### 4. ツヤムネマルゴミムシ *Oxyglychus laeiventris* (Bates,1883)

【文献記録】氷上郡[岸田剛二・辻啓介,1975];扇ノ山[高橋匡,1982];川西市大和(ライト)[安井・初宿,2012]

【標本記録】1ex,波賀町赤西,6-VI-1992;1ex,波賀町氷ノ山,23-VII-1989;1ex,養父市杉が沢,1-VI-2012;1ex,宍粟市坂の谷,6-VIII-2016;1ex,丹波市市島町妙高山,16-VIII-2018;2exs,姫路市夢前町我孫子(モミ倒木内),8-III-2008.

日本特産種で、北海道(松本ほか,1988)、本州、四国、九州に広く分布している。本種も樹林性でシデ倒木の樹皮下などで見られる。前種よりもやや標高の高い地域、あるいはより良好な樹林に生息する気がする。ツヤムネナガゴミムシは異名。

#### マルナガゴミムシ属 Genus *Myas*

日本では2種が知られており、県内ではともに記録がある。

#### 5. ムラサキオオゴミムシ *Myas (Trigonognatha) coreanus* Tschitscherine,1895

【文献記録】香住,温泉[高橋匡,1982]

日本では北海道、本州、四国、九州に広く分布している。生息環境はよく把握されておらず、灯火での確認事例が多い種である。県内では少ない種と思われ、筆者は未採集。カクムネマルナガゴミムシは本種の異名。

#### 6. アカガネオオゴミムシ *Myas (Trigonognatha) cuprescens* Motschulsky,1858

【文献記録】篠山町[岸田剛二・辻啓介,1975];神戸町砥峰高原[八木剛ほか,2003];川西市妙見山上[仲田元亮,1979];川西市笹部,妙見山[安井・初宿,2012]

【標本記録】1ex,新温泉町上山高原,2-IX-2016;1ex,豊岡市日高町神鍋高原,11-X-2017;1ex,養父町新津,28-X-1995;2exs,波賀町赤西,2-IX-1995;1ex,養父市氷ノ山800m,24-VII-2004;4exs,大屋町氷ノ山1270m,13-VIII-1995,春沢圭太郎採集;1ex,佐用町ちくさ高原,19-VII-1997;1ex,大屋市新津,28-IX-1997;1ex,相生市三濃山,23-X-1999;1ex,神河町砥峰高原,30-VIII-2005;1ex,神河町千町峠,27-VIII-2005;4exs,篠山町鏝市,24-IX-1995;1ex,川西市一庫ダム,27-IX-2000;1ex,神戸市道場,19-IV-2008.

本州、四国、九州に分布し、樹林性で林床に生息する。県内では広く分布するが、個体数は多くはない。地域による色彩や大きさに変異があり、中部山岳地帯などの高標高地で得られるやや小型で光沢の強いものを、以前はキンイロマルナガゴミムシ *M. aurescens* (Bates,1883) として区別されていたが、現在では本種のシノニムとして扱われている。オオマルナガゴミムシは本種の異名。

オオゴミムシ属 Genus *Lesticus*

日本産は次の1種である。

7. オオゴミムシ *Lesticus (Triplogenius) magnus* (Motschulsky, 1861)

【文献記録】神戸市御影 [関公一, 1934]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 川西市見野, 大和, 笹部, 横地 [仲田元亮, 1979]; 日高町, 出石町 [高橋匡, 1982]; 宝塚市売布ガ丘, 安倉 [小田中健, 1993]; 洲本市先山, 安平町 [高橋寿郎, 1998]; 加美町市原 [兵庫昆虫, 2001]; 川西市大和, 笹部, 見野, 横路, 甲東園, 御影, 神戸道場, 佐用町大撫山, 多可町奥山, 山崎町岩田神社, 猪名川町杉生新田 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】1ex, 香住町小原, 10-VII-2001; 3exs, 加美町妙見山, 8-VIII-1998; 1ex, 新宮町北村, 10-X-2015; 3exs, 新宮町栗栖川, 13-V-2012; 1ex, 社町西古瀬, 7-Feb. 1999; 1ex, 小野市久茂町加古川, 2-X-2011; 1ex, 赤穂市有年, 3-XI-2014; 2exs, 姫路市飾磨, 27-IX-1989; 1ex, 姫路市青山, 16-XI-2018; 1ex, 三木市戸田, 18-XI-2019; 1ex, 神戸市藤原台, 25-VII-1987; 1ex, 姫路市家島本島, 19-VII-1989.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する。やや乾燥した場所に多い印象があり, 離島などでも記録が多い。茅野 (1969) によると, 本種は夜行性でウスカワマイマイを積極的に捕食することが報告されている。

ルイスオオゴミムシ属 Genus *Trigonotoma*

日本産は次の1種である。

8. ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo [Bates: 1873]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 川西市大和, 笹部 [仲田元亮, 1979]; 佐用町大撫山, 山崎町岩田神社, 洲本市先山, 川西市笹部, 大和, 姫路市上砥堀, 龍野市菖蒲谷 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】12exs, 豊岡市日高町神鍋高原, 28-VIII-2011 (N); 1ex, 佐用町大撫山, 1-X-1994; 1ex, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 2exs, 洲本市先山, 30-I-2010.

日本では本州, 四国, 九州に広く分布している。本種も島などの乾燥地に多く, オサ堀りなどで得られることも多い。灯火にもよく飛来する。ルイスナガゴミムシは本種の異名。

キバナガゴミムシ属 Genus *Stomis*

日本産は3種で兵庫県では次の1種である。

9. キバナガゴミムシ *Stomis (Stomis) prognathus* Bates, 1883

【標本記録】1ex, 三田市川原, 10-IV-2021; 1ex, 西宮市武田尾, 23-XI-2000; 1ex, 川西市一庫ダム, 23-V-2004; 1ex, 神戸市道場, 3-I-2005.

原産地は箱根, 日光。本州と四国に分布する。兵庫県産は亜種 *japonicus* Straneo, 1953 (ホソキバナガゴミムシ) とされ, 大阪府箕面が原産地である。樹林性で低山

地から山地の林床やガレ場などで見られる。冬季に, 岩の隙間などから大量に見つかったことがあり, 朽木内でも越冬している。

キンナガゴミムシ属 Genus *Poecilus*

日本産は3種で兵庫県では次の2種である。この属名は *Pterostichus* 属の亜属として扱われることもある。

10. キンナガゴミムシ *Poecilus (Poecilus) versicolor* Sturm, 1824

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 豊岡市 [高橋匡, 1982]; 垂水, 甲東園, 加古川河口, 宝塚 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】1ex, 豊岡市神鍋高原, 13-VIII-2012; 22exs, 養父市ハチ高原 950m, 30-VII-2011; 1ex, 宍粟市音水湖, 11-VIII-2016; 5exs, 御津町 (揖保川) 7-VII-2003; 2exs, 加古川河口, 3-ix-2013; 1ex, 赤穂市千種川河口, 11-X-2014; 5exs, 加古川市神野, 10-IX-2017; 2exs, 川西市一庫, 7-X-2003; 2exs, 三原町鶴鷗羽山, 6-X-2001.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する。日本産本種の種小名の扱いに関しては混乱がみられ, これまでにも *coerulescens* (Linnaeus, 1758) や *encopoleus* Solsky, 1873, *planicollis* (Motschulsky, 1860), あるいは *gatus* Daies, 2004 などが使用され, 現在でも暫定的である。今後も分類学的な検討が必要 (吉松ほか, 2018) とされている。低地では河川周辺に見られるが, 標高の高い養父市鉢伏高原などでは乾燥した草地での個体数が多く, 種として異なるのかもしれない。

11. オオキンナガゴミムシ *Poecilus (Poecilus) fortipes* Chaudoir, 1850

【文献記録】扇ノ山 [高橋匡, 1982]; 神河町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 甲東園 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】1ex, 養父市八鹿町杉ヶ沢高原, 28-VIII-2011; 1ex, 養父市鉢伏高原, 12-VIII-1993; 13exs, 神河町砥ノ峰高原, 25-V-2007.

本種についても学名や和名が混乱している。中根 (1963) では大型の *Poecilus* 属にオオキンナガゴミ *P. fortipes* とエゾキンナガゴミ *P. samurai* の2種を認めているが, 土生・馬場 (1972) は *samurai* を *fortipes* のシノニムとして扱い, その後中根 (1979) もこれに従っている。一方, 田中 (1985) では *samurai* (*Pterostichus* 属として扱う) だけを掲載し, 和名をなぜかオオキンナガゴミとした。また, この種には2種以上が含まれる可能性を指摘しているが, この扱いがその後長く踏襲されている。

県内で得られる個体は, 背面がわずかに金属光沢を含む黒色で, 前胸背の最大幅が後半にあり, 後角がやや角張ること, ♂の後肢脛節の後半途が膨れること, ♀

の上翅に光沢を欠くことなどの特徴から, fortipes であろうと考えられた。

県内では中北部の草地環境で見られるが分布は局地的である。なお, 岡山県や長崎県の草地環境で得られた個体も同じものと判断された。日本では北海道, 本州, 九州に広く分布することになる。北海道では本種と samurai エゾキンナガゴミの少なくとも2種が生息している。

本種の分類検討に関しては, 森田誠司氏(東京)や堀繁久氏(札幌)に比較標本や文献資料を頂き, 大変参考になった。

#### ナガゴミムシ属 Genus *Pterostichus*

大きな属で日本では245種程度, 兵庫県では27種が記録された。亜属の扱いは流動的で安定していない。なお, 山地性の広義ナガゴミムシ亜属については, 次回以降に掲載する。

#### 1 2. ヒロムネナガゴミムシ *Pterostichus (Argutor) dulcis* Bates, 1883

【文献記録】神戸市舞子浜 [安井・初宿, 2012]

日本では北海道, 本州, 九州(西田ほか, 2000)に分布する。関東地方では比較的良好に見られるが, 西日本では生息地が少ない。兵庫県周辺では, 滋賀県の琵琶湖周辺の湿地や放棄水田などで見られ, また岡山県北部の冷涼な湿原地域での採集経験があるが, 県内ではまだ発見できていない。次種に少し似ているがより大型で, 名前のおおりに前胸背が大きく特徴的である。従来は *Eolagarus* 亜属とされていたが, 上記に変更されている。ツノアカナガゴミムシは異名。

#### 1 3. アシミゾナガゴミムシ *Pterostichus (Argutor) sulcitaris* Morawitz, 1862

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 扇ノ山, 氷ノ山 [高橋匡, 1982]; 篠山町笠坊, 川西市大和 [安井・初宿, 2012]

【標本記録】4exs, 新温泉町古市岸田川, 2-IX-2016; 2exs, 宍粟市音水湖, 29-VII-1991; 2exs, 神戸町峰山高原, 10-V-2014; 2exs, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 1ex, 明石市大久保, 7-IV-1991; 1ex, 三田市羽束山, 17-VI-1990; 1ex, 神戸市八多, 18-V-1989; 2exs, 神戸市道場武庫川, 26-VI-1991; 1ex, 神戸市道場, 22-IV-1995; 1ex, 神戸市藍那, 7-VI-2002; 2exs, 三原町論鶴羽山, 6-X-2001; 2exs, 三原町上田池, 6-X-2001。

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布し, 各地で個体数が多く普通に見られる。水辺の草間に多いが他の環境にも出現する。以前は *Lagarus* 亜属とされていたが, 上記に変更された。

#### 1 4. トックリナガゴミムシ *Pterostichus (Badistrinus) haptoderoides japonensis* Lutshnik, 1922

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 猪名川町 [安井・初宿, 2012]

【標本記録】10exs, 養父市ハチ高原, 28-IV-2012; 1ex, 青垣町(加古川), 2-X-2010; 5exs, 御津町(揖保川), 7-VII-2003; 12exs, 加古川市野口町, 21-V-2007; 3exs, 加古川市八幡町(加古川), 14-VII-2011; 10exs, 稲美町六軒屋池, 6-X-2007。

名義タイプ亜種は極東や韓国, 中国北部に分布し, 日本産は上記亜種として区別されている。日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。北日本では個体数が多いが, 県内では比較的少なく, 分布がやや局地的となる。主に河川周辺で見られる。従来は *Eurythoracana* 亜属とされていたが, 上記に変更されている。

#### 1 5. ナガサキヒメナガゴミムシ *Pterostichus (Badistrinus) procephalus* Bates, 1873

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 氷ノ山 [高橋匡, 1982]; 三原郡福良ほか [高橋寿郎, 1998]; 神河峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 多可郡中町 [松尾隆人, 2003]; 川西市大和, 神戸市東垂水, 甲東町砥園, 猪名川町馬場, 川西市笹部 [高橋敏, 2012]; Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018]。

【標本記録】1ex, たつの市揖保川, 5-IV-2016; 1ex, 加古川市加古川河口, 4-IX-2011; 1ex, 加古川市神野(加古川), 10-IX-2017; 1ex, 姫路市家島町家島本島, 5-IV-2019。

日本特産種で, 本州西部や九州などで記録されているが, 沖縄本島(笠原, 1985)や東京都多摩川(山本ほか, 2007)の記録も存在する。県内では播州地域で時折見つかる程度である。従来は *Pledarus* 亜属とされていたが, 上記に変更されている。本種に近縁な種として *Plutschniki* Jedlicka, 1962(オオサカヒメナガゴミムシ)が淀川原産で記載されているが, 本種との関係がよくわからない。

#### 1 6. コホソナガゴミムシ *Pterostichus (Phonias) longinquus* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo [Bates, 1873]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 淡路三原町, 一庫, 神戸市舞子, 高砂市加古川, 宝塚市, 川西市大和 [安井・初宿, 2012]; Tanba Ikusato [吉武ほか, 2011]; Kakogawa Shinzaike [吉松ほか, 2018]

【標本記録】11exs, 城崎町桃島池, 8-VII-1998; 3exs, 上郡町千種川, 3-XI-2014; 2exs, 加古川市, 20-Jan.1996; 2exs, 稲美町, 4-IV-1999; 2exs, 姫路市の形海岸, 18-IX-2011; 8exs, 稲美町六軒屋池, 6-X-2007; 5exs, 加西市段下町, 2-X-2011; 4exs, 小野市来住町, 10-VI-2012; 1ex, 吉川町, 9-IX-1994; 1ex, 小野市青野ヶ原, 29-IX-2013; 1ex, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 2exs, 三田市香下, 6-X-2000; 2exs, 洲本市柏原山, 11-XI-2001。本州, 四国, 九州に広く分布し, 個体数も一般に多

い。河川やため池などの水辺周辺に見られる。従来は *Argutor* 亜属とされていたが、上記に変更されている。

### 1 7. オオナガゴミムシ *Pterostichus (Platysma) eschscholtzii* Germar, 1823

【文献記録】川西市大和 [仲田, 1973]; 津名郡津名町大町 [高橋寿郎, 1998]; 甲東園 [安井・初宿, 2012]

【標本記録】8exs, 養父市八鹿町宿南 (円山川), 24-IX-2011; 2exs, 籠野市籠野橋 (揖保川), 7-II-2009; 2exs, 三木市美囊川, 13-III-1998; 4exs, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 30exs, 加古川市上荘町, 4-JAN.2009; 3exs, 揖保川町野田 (揖保川), 16-X-2011; 2exs, 御津町 (揖保川) 7-VII-2003; 9exs, 赤穂市中山 (千種川), 9-XII-2000; 1ex, 加古川市神野, 10-IX-2017.

大型種で本州, 四国, 九州に分布し, 河川周辺で見られる。従来使用されていた *fortis* Morawitz, 1862 は *eschscholtzii* のシノニムとされている。

### 1 8. オオクロナガゴミムシ *Pterostichus (Eosteropus) japonicus* (Motschulsky, 1861)

【文献記録】Hiogo [Bates, 1873, *P. tropidurus* として]; 豊岡市ほか [高橋匡, 1982]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 洲本市安乎町 [高橋寿郎, 1998]; 甲東園, 加古川, 猪名川 [安井・初宿, 2012]; Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018].

【標本記録】2exs, 加西市段下町, 5-X-2003; 1ex, 尼崎市善法寺町, 13-X-2012; 2exs, 小野市 (加古川), 15-VIII-2012; 3exs, 御津町 (揖保川) 7-VII-2003; 1ex, 加古川市神野, 10-IX-2017.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。ながらく *P. prolongatus* Morawitz, 1822 とされていたが, Morita (2007) によって上記の種小名に変更されている。県下では平地から丘陵地の河川周辺などで確認されている。

### 1 9. ヒメホソナガゴミムシ *Pterostichus (Pseudomaseus) rotundangulus* Morawitz, 1862

【標本記録】2exs, 加古川市 (加古川), 4-IV-1993; 10exs, 稲美町六軒屋池, 6-X-2007; 1ex, 御津町 (揖保川), 7-VII-2003.

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布するが, 県下では少ない。河川やため池周辺で見つかっている。従来, *Melanius* 亜属に含まれていたが, 現在は表記の亜属として扱われている。

### 2 0. ムナビロヒメナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) straneoi* Habu, 1958

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 扇ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 川西市舎羅林山, 宝塚市雲雀ヶ丘, 佐用町大撫山, 川西市笹部 [安井・初宿, 2012]. (以上はマルムネヒメナガゴミムシ *P. latemarginatus* として記録されている)。

【標本記録】1ex, 豊岡市日高町蘆武岳, 1-IX-2016; 1ex, 篠山

市後川新田, 5-III-2017; 1ex, 夢前町坪, 25-IV-1999; 1ex, 姫路市雪彦山, 24-XII-1984; 1ex, 西宮市武田尾, 25-X-1997; 1ex, 神戸市丹生山, 30-III-2003; 4exs, 三原町論鶴羽山 250m, 30-X-1999; 1ex, 洲本市柏原山 400m, 27-X-2001; 1ex, 洲本市由良立川, 13-III-2011, 新居悟採集; 2exs, 南あわじ市沼島, 8-IV-2017.

マルムネヒメナガゴミムシ *P. latemarginatus* (Straneo, 1936) とされた種類は, 本種のシノニムとして扱われている。本種は福岡県産で記載された種で, 本州, 四国, 九州に分布するとされる。なお, 本種以降の *Rhagadus* 亜属は分類が難解で, 今後も分類変更の可能性が高い。

### 2 1. アワジヒメナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) ishii* Morita, Kurosa & Mori, 2009

【文献記録】Mt. Yuzuruha-san, Mt. Mikuma-yama, Mt. Kashiwarayama (Awaji-Shima) [Morita et al., 2009]

【標本記録】3exs, 三原町論鶴羽山, 30-X-1999.

基産地は淡路島の論鶴羽山系で, 次種とよく似ている。

### 2 2. ニセフトクビナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) thorectoides* Jedlicka, 1958

【文献記録】Mont Roko Kobe [Jedlicka, 1958]

【標本記録】1ex, 豊岡市日高町蘆武岳, 1-IX-2016; 4exs, 朝来市和田山町岡, 8-III-2012, K. Ito Leg; 2exs, 多可町千ヶ峰 700m, 29-III-2008; 2exs, 多可町千ヶ峰, 29-III-2008; 1ex, 夢前町坪, 25-IV-1999; 1ex, 小野市来住, 30-XI-2008; 3exs, 加西市青野ヶ原, 21-V-1994; 1ex, 宝塚市西谷, 15-IX-2008; 1ex, 神戸市淡河, 4-III-2007; 11exs, 姫路市家島町家島, 9-IV-2019. 本州西部に分布。

### 2 3. コガシラナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) microcephalus* (Motschulsky, 1861)

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 多可郡中町 [松尾隆人, 2003]; 淡路 Atsuhama, 神戸甲東園, 明石市松江浜, 美方町高丸山, 鉢伏山, 加古川, 篠山市笠坊, 川西市笹部, 神戸市本山 [安井・初宿, 2012]; Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018].

【標本記録】5exs, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 5exs, 夢前町坪, 25-IV-1999; 3exs, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 2exs, 加古川市加古川, 4-IV-1993; 1ex, 南あわじ市沼島, 8-IV-2017.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 主に開放的な河川敷環境などに生息するが, 林内で見られることもある。各地で個体数が多い。

### 2 4. マルコガシラナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) nimbatidius* (Chaudoire, 1878)

【文献記録】Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018].

本州に分布. この種はよく認識できていない.

25. ヨリトモナガゴミムシ *Pterostichus (Lyrothorax) yoritomus* Bates, 1873

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 三原郡論鶴羽山 [高橋寿郎, 1998]; 扇ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 川西市笹部, 東畦野 [安井・初宿, 2012] 【標本記録】 2exs, 新温泉町上山高原, 2-IX-2016; 3exs, 香美町ハチ北高原, 5-V-2009; 5exs, 豊岡市蘇武林道, 1-IX-2016; 5exs, 養父市氷ノ山スキー場, 2-VI-2007; 2exs, 宍粟市音水湖, 11-VIII-2016; 2exs, 宍粟市赤西溪谷, 20-VIII-2016; 1ex, 波賀町音水溪谷, 11-XI-1987; 1ex, 加美町篠ヶ峰, 8-VIII-1998; 1ex, 一宮町暁晴山 950m, 25-VII-1999; 2exs, 相生市三濃山, 16-VII-2000; 2exs, 八千代町笠形山, 6-VII-2002; 1ex, 夢前町坪, 5-V-1998; 3exs, 神河町千町峠, 16-VI-2007; 2exs, 神戸市淡河, 5-V-2016; 4exs, 神戸市道場, 4-V-2014; 4exs, 洲本市鮎屋川, 20-IX-1998.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 県内では各地に普通で, 丘陵地から標高の高い場所まで分布し, 通常は樹林の林床に生息する.

最後に, 日頃からご指導を頂いている森田誠司さん, 資料を提供して頂いた堀繁久さん, 標本を提供して頂いた新居悟さん, 春澤圭太郎さんに厚くお礼を申し上げる.

引用文献

- Bates, H.W., 1873. On the Geodephagos Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Soc. London, Part II, 219-322.
- 土生昶申・馬場金太郎, 1972. 新潟県の歩行虫科 (オサムシ族を除く). 越佐昆虫同好会会報, 4(1):1-58.
- 伊藤勝彦, 1992. 北海道初記録のゴミムシ 1 種. 甲虫ニュース, (97):7.
- 茅野敏英, 1969. ゴミムシ類の食性. 昆虫と自然, 4(9):7-9.
- 笠原須磨生, 1985. 沖縄島のゴミムシ数種の記録. 甲虫ニュース, (79):6.
- 岸田剛二・辻啓介, 1975. 兵庫県多紀郡篠山町附近の歩行虫. きべりはむし, 4(1/2):16-25.
- 船本大智・加賀芳恵・渡辺恭平, 2010. 東京都多摩川におけるヨツボシツヤナガゴミムシの追加記録および生息環境. Kanagawa-Chuho, (172):41-42.
- 兵庫昆虫同好会事務局, 2001. 多可郡の甲虫相. きべりはむし, 29(1):10-27.
- Löbl, I. & D. Löbl, 2017. Catalogue of Palaearctic Coleoptera. 1443pp.
- 松本英明・松本俊信, 1988. ゴミムシ類 5 種の分布記録. 甲虫ニュース, (83/84):12.
- 森正人, 2000. 兵庫県のナガゴミムシ類. ねじればね, (88):6-10.
- Morita, S., 2007. Notes on the Pterostichine subgenus *Eosteropus* (Coleoptera, Carabidae) from Japan. Elytra, 35(2):407-432.
- Morita, Kurosa & Mori, 2009. *Pterostichus (Rhagadus) thorectoides* Jedlicka (Coleoptera, Carabidae) and its new relative from southwest Japan. Elytra, 37(2):207-214.
- 中根猛彦, 1963. ゴミムシ科. 原色昆虫大図鑑 II (甲虫編), 北隆館:31-36.
- 中根猛彦, 1978-1983. 日本の甲虫 (54-63). 昆虫と自然, 13(12)-18(8).
- 仲田元亮, 1978. 「能勢の昆虫」その後 1. きべりはむし, 7(1):15-17.
- 西田光康・大塚健之, 2000. 飯田高原と九粋峡で得られた甲虫類. 北九州の昆虫, 47(2):141-148.
- 小田中健, 1993. 宝塚の昆虫 II. 宝塚市.
- 大塚健志, 2005. 広島県におけるヨツボシツヤナガゴミムシ. 月刊むし, (408):43.
- 関公一, 1934. 御影町附近産の甲虫目録. 昆虫界, II(7):41-43.
- 高橋匡, 1982. 但馬地方昆虫目録 (予報第 7 報). Iratsume, 6:57-76.
- 高橋寿郎, 1998. 淡路島産甲虫目録 (1). Parnassius, 47:1-9.
- 田中和夫, 1985. ナガゴミムシ亜科. 原色日本甲虫図鑑.:105-122. 保育社.
- 辻雄介, 2011. 岩国市のヨツボシツヤナガゴミムシの記録及び生息環境. 山口のむし, (14):80-82.
- 安井通宏・初宿成彦, 2012. ゴミムシ類 -PartA-. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (2). 大阪市立自然史博物館, (44):6-36.
- 八木剛ほか, 2003. 砥峰高原の昆虫相. きべりはむし, 31(1):1-9.
- 山本周平・渡辺恭平, 2007. 東京都多摩川でナガサキヒメナガゴミムシを採集. 甲虫ニュース, (158):21-22.
- 山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録, 氷上の自然第 3 集. 兵庫県立柏原高等学校生物教室.
- 吉松慎一・伊藤昇・中谷至伸・吉武啓, 2018. 農業環境変動研究センター所蔵の田中和夫コレクション (昆虫綱; コウチュウ目) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (39).
- 吉武啓・栗原隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 研究資料農業環境技術研究所所蔵の土生永申コレクション (昆虫綱; コウチュウ目; オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (28).





1. ホソツヤナガゴミムシ



2. ヨツボシツヤナガゴミムシ



3. ムネミヅマルゴミムシ



4. ツヤムネマルゴミムシ



5. ムラサキオオゴミムシ



6. アカガネオオゴミムシ



7. オオゴゴミムシ



8. ルイスオオゴミムシ



9. キバナゴゴミムシ



10. キンナゴゴミムシ



11. オオキンナゴゴミムシ



12. ヒロムネナガゴゴミムシ



13. アシミゾナガゴミムシ



14. トックリナガゴミムシ



15. ナガサキヒメナガゴミムシ



16. コホソナガゴミムシ



17. オオナガゴミムシ



18. オオクロナガゴミムシ



19. ヒメホソナガゴミムシ



20. ムナビロヒメナガゴミムシ



21. アワジヒメナガゴミムシ



22. ニセフトクビナガゴミムシ



23. コガシラナガゴミムシ



25. ヨリトモナガゴミムシ

## 宝塚市の緑地公園の昆虫相 —2010年～2020年の昆虫の記録—

宇野 宏樹<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

筆者は主に2014年～2020年において、宝塚市南西部のゆずり葉台緑地公園及びその周辺で昆虫類の調査を行った。このうち、蛾類については(宇野, 2019a), (宇野, 2020a), (宇野, 2020b)でそれぞれ報告したので、本報告では主に蛾類以外の分類群について報告したい。なお、一部報告しそびれていた蛾類についても報告した。

### 2. 採集地の環境および本記録の内容について

ゆずり葉台緑地公園の周囲の環境は主に自然林に近い二次林が最も採集地に近く、二次林がその周りを覆っている状態であることが宝塚市(2012)から読み取れる。本記録での採集地はすべてゆずり葉台緑地公園の内部及びその周辺(宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目にまたがったエリア、檜ヶ峰登山道の一部を含む)であり、標本はすべて筆者が採集・保管している。なお、本調査は前述のとおり2014年～2020年にかけて行ったが、一部2010年の記録も報告した。本記録中には、兵庫県での記録が少ないと思われる種には◎印を、レッドリスト掲載種には◇印を、近年の外来種には▲印を付記した。また、新型コロナウイルス流行時は、採集地への移動はほぼすべて自転車でいき、公共交通機関は使用しなかったことは付け加えておきたい。

### 各種解説

#### 直翅目

#### バッタ科

*Parapodisma* 属の一種

1ex, 2. XI. 2019.

イボバッタ *Trilophidia japonica*

1ex, 5. VIII. 2019.

ツマグロバッタ *Stethophyma magister*

1ex, 8. IX. 2019.

クルマバッタ *Gastrimargus marmoratus*

1ex, 23. VII. 2017.

クルマバッタモドキ *Oedaleus infernalis*

1ex, 8. IX. 2019.

ヒナバッタ *Glyptobothrus maritimus*

1ex, 14. V. 2020.

ショウリョウバッタモドキ *Gonista bicolor*

1ex, 21. VIII. 2019.

#### オンブバッタ科

オンブバッタ *Atractomorpha lata*

1 ♀, 8. IX. 2019.

#### マツムシ科

アオマツムシ *Trujalia hibinonis*

1 ♂, 26. VIII. 2017.

マツムシモドキ *Aphonoides japonicus*

1ex, 3. IX. 2016.

#### ツユムシ科

ツユムシ *Phaneroptera falcata*

1ex, 31. VII. 2019.

ホソクビツユムシ *Shirakisotima japonica*

1ex, 4. VII. 2019.

*Holochlora* 属または *Phaulula* 属の一種

1ex, 21. VIII. 2019.

#### コロギス科

コロギス *Prosopogryllacris japonica*

1ex, 4. VII. 2019.

<sup>1)</sup> Hiroki UNO 兵庫県西宮市

キリギリス科

ホシササキリ *Conocephalus maculatus*

1ex, 5. VIII. 2019.

クビキリギス *Euconocephalus varius*

1 ♀, 23. V. 2020; 1 ♀, 27. V. 2020.

カネタタキ科

カネタタキ *Ornebius kanetataki*

1ex, 3. IX. 2016.

コオロギ科

エンマコオロギ *Teleogryllus emma*

1ex, 8. IX. 2019.

*Loxoblemmus* 属の一種

1ex, 23. X. 2019.

*Velarifictorus* 属の一種

1ex, 21. VIII. 2019.

これらの他に、目撃したが詳細な日付を記録できていない直翅目昆虫として、トノサマバッタ *Locusta migratoria*, ツチイナゴ *Patanga japonica*, ショウリョウバッタ *Acrida cinerea*, *Gampsocleis* 属の一種 (ニシキリギリスまたはヒガシキリギリス), *Tettigonia* 属の一種, ケラ *Gryllotalpa orientalis* がある。

ナナフシ目

トビナナフシ科

タイワントビナナフシ *Sipyloidea sipyulus*

1ex, 8. IX. 2016.

蠨螂目

カマキリ科

ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera*

2 ♂, 15. IX. 2014; 1 ♀, 21. IX. 2015.

コカマキリ *Statilia maculata*

1 ♂, 26. VIII. 2017.

オオカマキリ *Tenodera aridifolia*

1 ♀, 31. X. 2019.

ヒメカマキリ科

サツマヒメカマキリ *Acromantis australis*

1 ♂, 20. VI. 2015; 1 ♂, 22. VI. 2015

蜚蠊目

チャバネゴキブリ科

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica*

1ex, 21. VIII. 2019; 1ex, 15. V. 2020.

ヒメクロゴキブリ科

ヒメクロゴキブリ *Chorisoneura nigra*

1ex, 2015年6月※

この他に、目撃したが詳細な日付を記録できていない蜚蠊目昆虫にクロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa* が挙げられる。

革翅目

クギヌキハサミムシ科

エゾハサミムシ *Eparchus yezoensis*

1ex, 21. VI. 2016; 2exs, 23. VII. 2017.

オオハサミムシ科

オオハサミムシ *Labidura riparia*

1ex, 23. X. 2019.

半翅目

アメンボ科

アメンボ *Aquarius paludum*

1ex, 5. IV. 2020.

コセアカアメンボ *Gerris gracilicornis*

1ex, 5. IV. 2020.

マルウンカ科

マルウンカ *Gergithus variabilis*

1ex, 19. V. 2020.

ワタフキカイガラムシ科

オオワラジカイガラムシ *Drosicha corpulenta*

2exs(撮影), 19. V. 2020.

ヨコバイ科

ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea*

1ex, 22. IV. 2020; 2exs, 13. V. 2020.

アオバハゴロモ科

アオバハゴロモ *Geisha distinctissima*

1ex, 31. VII. 2019.

セミ科

ハルゼミ *Terpnosia vacua* ◇



図1 シロヘリツチカメムシ



図2 フタテンカメムシおよびシロヘリツチカメムシの生息環境

1ex(鳴き声), 14. V. 2020.

兵庫県版レッドリスト 2012 で「要注目」に指定されているセミで、松の生えている近くで鳴き声を聴いた。

ヒグラシ *Tanna japonensis*

1ex, 26. VI. 2016.

チッチゼミ *Cicadetta radiator*

1ex, 15. X. 2015.

ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*

1ex, 31. VII. 2019.

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*

1ex, 5. VIII. 2019.

アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata*

1ex, 31. VII. 2019.

#### ハナカメムシ科

*Authocoris* 属の一種

1ex, 23.VI. 2019.

#### オオホシカメムシ科

オオホシカメムシ *Physopelta gutta*

1ex, 25. VI. 2019.

ヒメホシカメムシ *Physopelta parviceps*

6exs, 31. VII. 2019.

#### マルカメムシ科

マルカメムシ *Megacopta punctatissima*

1ex, 13. VIII. 2018 ; 1ex, 13. V. 2020.

#### ツチカメムシ科

ヨコヅナツチカメムシ *Adrisa magna*

1ex, 13. IX. 2014 ; 1ex, 13. V. 2016.

ツチカメムシ *Macroscytus japonensis*

1ex, 31. VII. 2019.

シロヘリツチカメムシ *Canthophorus niveimarginatus* ◇

2exs(図1), 9. VI. 2020.

2頭のうち1頭は幼虫である。環境省レッドリスト 2020 で準絶滅危惧種に指定されているツチカメムシで、本個体は園内を流れる逆瀬川で得た。採集地の環境を図2に示す。

#### ツノカメムシ科

フトハサミツノカメムシ *Acanthosoma crassicaudum* ◎

1♂(図3). 8. IX. 2019.

灯火に飛来した個体を採集した。兵庫県での記録は多くないと思われる。

セアカツノカメムシ *Acanthosoma denticauda*

1ex, 2. VI. 2020.

エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii*

1ex, 18. VII. 2015 ; 1ex, 23. VII. 2017.

モンキツノカメムシ *Sastragala scutellata*

1ex, 14. V. 2020 ; 2exs, 19. V. 2020 ; 3exs, 29. V. 2020.

#### カメムシ科

ウズラカメムシ *Aelia fieberi*

1ex, 12. V. 2020 ; 1ex, 14. V. 2020.

シロヘリカメムシ *Aenaria lewisi*

1ex, 13. V. 2020.



図3 フトハサミツノカメムシ

ウシカメムシ *Alcimocoris japonensis*

1ex, 26. III. 2016; 1ex, 13. V. 2020.

キマダラカメムシ *Erthesina fullo*

2exs, 18. VII. 2015.

フタテンカメムシ *Laprius gastricus* ©

2exs, 23. VII. 2017; 2exs, 31. VII. 2019; 4exs, 5. VIII. 2019;  
3exs, 13. V. 2020; 2exs, 8. VI. 2020.

筆者は(宇野, 2019b)で兵庫県での本種の記録を「県内の記録は見つけられなかった」と書いたが, 堀田(1978)で洲本市の記録が報告されていたので, 訂正して再掲する. また, 2017年・2019年の記録は灯火に飛来した個体ばかりであったが, 2020年には園内を流れる逆瀬川(図2の環境)で本種を計5頭確認したので本地が発生地の可能性のあるものとして追加で報告する.

クサギカメムシ *Halyomorpha halys*

1ex, 26. VIII. 2017; 1ex, 19. V. 2020.

ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus*

1ex, 23. VII. 2017; 1ex, 25. IV. 2020.

チャバネアオカメムシ *Plautia stali*

1ex, 23. VII. 2017; 1ex, 25. IV. 2020.

トホシカメムシ *Lelia decempunctata*

1ex, 26. VIII. 2017.

イネクロカメムシ *Scotinophara lurida*

1ex, 31. VII. 2019.

#### ナガカメムシ科

ヒゲナガカメムシ *Pachygrontha antennata*

1ex, 12. V. 2020.

ヒメジュウジナガカメムシ *Tropidothorax belogolowi*

1ex, 15. VI. 2020.

ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon*

1ex, 15. V. 2020.

イシハラナガカメムシ *Pylorgus ishiharai*

2exs, 15. V. 2020.

オオメナガカメムシ *Piocoris varius*

1ex, 25. IV. 2020.

#### ノコギリカメムシ科

ノコギリカメムシ *Megymenum gracilicorne*

1ex, 17. VI. 2017.

#### ヘリカメムシ科

ハリカメムシ *Cletus rusticus*

2exs, 12. V. 2020; 1ex, 13. V. 2020

ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus*

2exs, 24. IV. 2016.

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* ▲

3exs, 17. X. 2015; 1ex, 23. X. 2019.

LEDの灯火に飛来していた計4頭を得た. 数多く見まわったが, 水銀灯に飛来している個体は見なかった. 集まる光の波長が決まっている可能性もあると思われる.

#### ホソヘリカメムシ科

ホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris*

1ex, 4. IV. 2019.

クモヘリカメムシ *Leptocoris achinensis*

1ex, 2. VII. 2020.

ニセヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius vulgaris*

1ex, 29. V. 2020.

#### エビイロカメムシ科

エビイロカメムシ *Gonopsis affinis*



図4 ミナミホソサシガメ

1ex, 13. V. 2020; 4exs, 14. V. 2020

マキバサシガメ科

アカマキバサシガメ *Gorpis brevilineatus*

1ex, 15. V. 2020.

サシガメ科

オオトビサシガメ *Isyndus obscurus*

3exs, 2015年10月※

シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis*

1ex, 25. VI. 2019; 1ex, 21. V. 2020.

ヒゲナガサシガメ *Serendiba staliana*

1ex, 25. VII. 2015; 1ex, 2015年9月※

ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* ▲

10exs(程度, 幼虫)5. IV. 2020; 1ex, 19. V. 2020.

近年でも多く見られ, 定着しているようである.

アカサシガメ *Cydnocoris russatus*

1ex, 21. V. 2020.

ミナミホソサシガメ *Pygolampis foeda* ©

1ex(図4), 23. V. 2020.

灯火に飛来していた個体を採集した. 兵庫県の記録は多くないと思われるが, 過去の記録はホソサシガメ *Pygolampis bidentata* と本種を混同しているケースもあると思われ, 詳しいことはよくわからない.

カスミカメムシ科

ガマカスミカメ *Coridromius bufo*

1ex, 23. VI. 2019; 1ex, 5. IV. 2020.

ケブカキベリナガカスミカメ *Dryophilacorix miyamotoi*

1ex, 12. V. 2020.

ヒラタカメムシ科

イボヒラタカメムシ *Usingerida verrucigera*

6exs, 22. IV. 2018.

トビイロオオヒラタカメムシ *Neuroctenus castaneus*

6exs, 22. IV. 2018; 1ex, 14. V. 2020.

*Aneuris* 属の一種

1ex, 22. IV. 2018.

ヨコバイ科

コミミズク *Ledropsis discolor*

1ex, 13. V. 2016; 1ex(幼虫), 7. XI. 2019.

ミミズク *Ledra auditura*

2exs, 27. IX. 2014.

この他に, 目撃したが採集・記録できていない半翅目昆虫にミンミンゼミ *Hyalessa maculaticollis* が挙げられる.

鞘翅目

クワガタムシ科

スジクワガタ *Dorcus striatipennis*

1♂, 13. VIII. 2018.

ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*

1♂, 1. VII. 2015.

チビクワガタ *Figulus binodulus*

1ex, 21. VI. 2016.

コガネムシ科

ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*

1ex, 4. VIII. 2014; 1ex, 7. VII. 2015; 2exs. 31. VII. 2019.

コガネムシ *Mimela splendens*

1ex, 17. VI. 2015.

*Mimela* 属の一種

1ex, 2. VII. 2020.

チビサクラコガネ *Anomala schoenfeldti* ©

1ex, 9. VI. 2015; 1ex, 17. VI. 2015; 1ex, 21. VI. 2016; 1ex, 2. VII. 2019; 1ex, 4. VII. 2019; 1ex, 31. VII. 2019.

宝塚市では初記録かもしれない。県下では神戸市、西宮市の記録が報告されている(高橋, 1985; 伊藤, 1993; 新家, 1983)。本種はシバ草原に生息するコガネムシとして知られている(岡島・荒谷, 2012)。本公園には同じくシバ草原に見られるフタテンカメムシも生息しており、特徴的な環境になっている可能性が考えられる。

ドウガネブイブイ *Anomala cuprea*

1ex, 9. VI. 2015; 1ex, 17. VI. 2015

コイチャコガネ *Adoretus tenuimaculatus*

1ex, 20. V. 2016; 1ex, 25. VI. 2019.

セマダラコガネ *Exomala orientalis*

1ex, 2. VI. 2020.

ウスチャコガネ *Phyllopertha diversa*

6exs, 23. IV. 2020.

コフキコガネ *Melolontha japonica*

1ex, 2. VII. 2020.

コクロコガネ *Holotrichia picea*

1ex, 5. VIII. 2019.

カナブン *Pseudotorynorhina japonica*

1ex, 13. VIII. 2018.

キョウトアオハナムグリ *Protaetia lenzi* ◇

1ex, 13. VIII. 2018.

兵庫県版レッドリスト 2012 において要注目に指定されているハナムグリで、樹液に来ていた個体を確認した。筆者は記録が多くないと思われる西宮市からも本種を採集しているので併せて報告しておきたい。

1 ♂, 兵庫県西宮市門戸岡田町, 20. VI. 2010. 筆者採集保管.

1 ♀, 兵庫県西宮市門戸岡田町, 27. VI. 2010. 筆者採集保管.

1 ♂, 兵庫県西宮市門戸岡田町, 5. VII. 2010. 筆者採集保管.

ハナムグリ *Cetonia pilifera*

1ex, 8. V. 2020.

ヒメトラハナムグリ *Lasiotrichius succinctus*

1ex, 2. VI. 2020.

カブトムシ *Trypoxylus dichotomus*

1 ♂, 22. VII. 2016.

タマムシ科

ヤマトタマムシ *Chrysochroa fulgidissima*

1ex, 4. VIII. 2014; 1ex, 15. IX. 2014; 1ex, 25. VI. 2016; 1ex, 25. VI. 2019.

ウバタマムシ *Chalcophora japonica*

1ex, 5. IX. 2010; 1ex, 30. VII. 2015.

ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea*

1ex(灯火), 31. VII. 2019.

夜間灯火の下を活発に歩いていた個体を採集した。本種が灯火に飛来した記録は多くないと思われる。なおタマムシ類が灯火に飛来した例として、進藤(2020)でシリグロナカボソタマムシの記録が報告されている。

アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis*

1ex(死骸), 5. IV. 2020; 4exs, 2. VI. 2020.

ヒシモンナガタマムシ *Agrilus discalis*

1ex, 25. IV. 2020.

クロナガタマムシ *Agrilus cyaneoniger*

1ex, 2. VI. 2020.

ヒメヒラタタマムシ *Anthaxia proteus*

1ex, 21. V. 2020.

*Trachys* 属の一種

1ex, 12. V. 2020.

ネスイムシ科

アナバケデオネスイ *Mimemodes cribratus*

1ex, 22. IV. 2018.

オオキシムシ科

ヨツボシオオキシムシ *Helota gemmata*

4exs, 13. VIII. 2018.

ケシキシムシ科

コヨツボシケシキシムシ *Librodor ipsoides*

2exs, 31. VII. 2019; 1ex, 21. V. 2020; 2exs, 28. IV. 2020.

ツツオニケシキシムシ *Glischrochilus subcylindricus*

2exs, 31. X. 2019.



ナガコゲチャケシキスイ <i>Amphicrossus lewisi</i> 1ex, 13. VIII. 2018.	1ex, 5. IV. 2020.
オオキマダラケシキスイ <i>Soronia fracta</i> 1ex, 23. X. 2019.	サクラサルハムシ <i>Cleoporus lateralis</i> 1ex, 23. VI. 2019.
キマダラケシキスイ <i>Soronia grisea</i> 1ex, 23. X. 2019.	アオバネサルハムシ <i>Basilepta fulvipes</i> 1ex, 23. VII. 2017 ; 1ex, 9. VII. 2019.
クロヒラタケシキスイ <i>Ipedia variolosa</i> 1ex, 5. IV. 2020.	マダラアラゲサルハムシ <i>Demotina fasciculata</i> 1ex, 10. XI. 2019 ; 1ex, 13. V. 2020.
コメツキムシ科	<i>Pyrrhalta</i> 属の一種 1ex, 21. VI. 2016.
サビキコリ <i>Agrypnus binodulus</i> 1ex, 23. VII. 2017 ; 2exs, 31. VII. 2019.	クロウリハムシ <i>Aulacophora nigripennis</i> 2exs, 13. V. 2020.
コガタノサビコメツキ <i>Lacon parallelus</i> 1ex, 22. IV. 2018.	クワハムシ <i>Fleutiauxia armata</i> 1ex, 13. V. 2020.
フタモンウバタマコメツキ <i>Cryptalaus larvatus</i> 1ex, 13. IX. 2014 ; 1ex, 13. V. 2020.	<i>Demotina</i> 属の一種 1ex, 23. VI. 2019 ; 3exs, 25. VI. 2019.
ウバタマコメツキ <i>Cryptalaus berus</i> 1ex, 6. VII. 2019.	キイロナガツツハムシ <i>Smaragdina nipponensis</i> 1ex, 14. V. 2020.
マダラチビコメツキ <i>Drasterius agnatus</i> 1ex, 7. XI. 2019.	キボシツツハムシ <i>Cryptocephalus perelegans</i> 1ex, 23. VI. 2019 ; 1ex, 9. VII. 2019.
<i>Limoniscus</i> 属の一種 1ex, 30. IV. 2020.	クロボシツツハムシ <i>Cryptocephalus signaticeps</i> 1ex, 14. V. 2020.
オオキノコムシ科	バラルリツツハムシ <i>Cryptocephalus hyacinthinus</i> 1ex, 14. V. 2020.
セモンホソオオキノコ <i>Dacne picta</i> 1ex, 22. IV. 2018.	ヨツモンクロツツハムシ <i>Cryptocephalus nobilis</i> 2exs, 12. V. 2020.
アカハバビロオオキノコ <i>Neotriplax lewisii</i> 2exs, 23. X. 2019 ; 1ex, 21. V. 2020.	ヨモギハムシ <i>Chrysolina aurichalcea</i> 1ex, 27. IX. 2014 ; 1ex, 14. V. 2020.
タイショウオオキノコ <i>Episcapha morawitzi</i> 1ex, 2015年5月※ ; 1ex, 9. VII. 2015 ; 2exs, 31. X. 2019 ; 1ex, 21. V. 2020.	ツバキコブハムシ <i>Chlamisus lewisii</i> 3exs, 2. XI. 2019.
ヒメオビオオキノコ <i>Episcapha fortunei</i> 1ex, 23. V. 2020 ; 1ex, 27. V. 2020.	キバネマルノミハムシ <i>Hemipyxis flavipennis</i> 7exs, 13. V. 2020.
ハムシ科	セモンジンガサハムシ <i>Cassida versicolor</i>
イタドリハムシ <i>Gallerucida bifasciata</i>	

1ex, 9. VI. 2020.

オサゾウムシ科

クワイサビゾウムシ *Dryophthorus sculpturatus*  
3exs, 22. IV. 2018.

オオゾウムシ *Sipalinus gigas*

1ex, 23. VII. 2017 ; 1ex, 31. VII. 2019.

ゾウムシ科

クスアナアキゾウムシ *Pimelocerus hylobioides*  
1ex, 1. VIII. 2015.

*Pimelocerus* 属の一種

1ex, 9. VII. 2015.

*Pseudocneorhinus* 属の一種

1ex, 26. VIII. 2017 ; 1ex, 21. V. 2020.

*Rhadinomerus* 属の一種

1ex, 21. VIII. 2019.

*Phyllobius* 属の一種

3exs, 25. VI. 2019.

*Orchestes* 属の一種

4exs, 23. VI. 2019.

ヒゲナガゾウムシ科

ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons*  
1ex, 9. VII. 2019 ; 1ex, 27. V. 2020.

シリジロメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia confinis*

1ex, 7. XI. 2019.

*Anthribus* 属の一種

1ex, 22. IV. 2020 ; 1ex, 25. IV. 2020.

カッコウムシ科

ツマグロツツカッコウムシ *Tenerus hilleri*  
1ex, 7. VII. 2015 ; 1ex, 30. VII. 2015 ; 1ex, 26. VIII. 2017.

クロダンダラカッコウムシ *Stigmatium nakanei*

1ex, 21. VIII. 2019.

チビヒラタムシ科

キボシチビヒラタムシ *Laemophloeus submonilis*

1ex, 22. IV. 2018.

キノコムシダマシ科

ヨツボシヒメナガクチキ *Holostrophus lewisi*  
2exs, 22. IV. 2018.

ニセクビホソムシ科

*Pseudoloterus* 属の一種

1ex, 23. VI. 2019.

オサムシ科

エゾカタビロオサムシ *Calosoma chinense*  
1ex, 15. IX. 2014 ; 1ex, 11. VIII. 2015 ; 1ex, 12. VIII. 2015

オオオサムシ *Carabus dehaanii*

1ex, 2. VI. 2020 ; 2exs, 21. V. 2020.

オオゴモクムシ *Harpalus capito*

1ex, 27. IX. 2014 ; 1ex, 7. X. 2015.

ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola*

1ex, 13. V. 2016 ; 3exs, 25. VI. 2016 ; 2exs, 26. VI. 2016 ;  
9exs, 19. V. 2020.

セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*

1ex, 21. IX. 2014 ; 1ex, 23. V. 2020.

アトワアオゴミムシ *Chlaenius virgulifer*

1ex, 21. IX. 2014 ; 1ex, 25. VI. 2016 ; 1ex, 23. VII. 2017.

アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger*

1ex, 2. VII. 2019.

メダカアトキリゴミムシ *Orionella lewisii*

1ex, 21. V. 2020.

フタホシアトキリゴミムシ *Lebia bifenestrata*

1ex, 12. V. 2020.

ジュウジアトキリゴミムシ *Lebia retrofasciata*

1ex, 24. IV. 2016.

ホシハネビロアトキリゴミムシ *Lebia calycophora*

1ex, 23. VI. 2019 ; 1ex, 31. VII. 2019 ; 1ex, 15. V. 2020.

コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striata*

6exs, 31. X. 2019.

キノコゴミムシ *Lioptera erotyloides*

1ex, 9. VII. 2015 ; 1ex, 29. V. 2020.

コキノコゴミムシ *Coptodera japonica*

1ex, 21. VIII. 2019.

ハギキノコゴミムシ *Coptodera subapicalis*

4exs, 31. X. 2019 ; 1ex, 28. IV. 2020.

オオスナハラゴミムシ *Diplocheila zeelandica*

1ex, 9. VI. 2015.

オオマルガタゴミムシ *Amara gigantea*

1ex, 10. XI. 2019.

ナガマルガタゴミムシ *Amara macronota ovalipennis*

1ex, 7. XI. 2019.

ナミハンミヨウ *Cicindela japonica*

1ex, 9. VII. 2015.

ニワハンミヨウ *Cicindela japana*

1ex, 27. V. 2020 ; 1ex, 2. VI. 2020.

ツツキノコムシ科

ケナガナガツツキノコムシ *Nipponocis longisetosus*

10exs, 31. X. 2019.

ツチハンミヨウ科

キイロゲンセイ *Zonitis japonica*

1ex, 11. VIII. 2015.

ツマグロキゲンセイ *Zonitis cothurnata*

1ex, 23. VII. 2017 ; 1ex, 31. VII. 2019 ; 1ex, 2. VIII. 2019.

ハナノミ科

クリイロヒゲハナノミ *Macrotomoxia castanea*

1ex, 30. VII. 2015 ; 5exs, 31. VII. 2019.

シテムシ科

オオモモフトシテムシ *Nicrodes asiaticus*

1ex, 21. IX. 2014.

クロシテムシ *Nicrophorus concolor*

1ex, 6. VIII. 2015 ; 1ex, 11. VIII. 2015.

ヨツボシモンシテムシ *Nicrophorus quadripunctatus*

1ex, 20. V. 2016.

ヨツボシヒラタシテムシ *Dendroxena sexcarinata*

1ex, 13. V. 2016.

ベッコウヒラタシテムシ *Calosilpha brunneicollis*

6exs, 6. VIII. 2015.

ハネカクシ科

オオハネカクシ *Creophilus maxillosus*

5exs, 6. VIII. 2015.

*Scaphidium* 属の一種

2exs, 10. XI. 2019.

ホタル科

ゲンジボタル *Luciola cruciata*

1ex, 28. V. 2016.

オバボタル *Lucidina biplagiata*

1ex, 2. VI. 2020.

ジョウカイモドキ科

ツマキアオジョウカイモドキ *Malachius prolongatus*

1ex, 30. IV. 2020 ; 1ex, 19. V. 2020.

ジョウカイボン科

クロニンフジョウカイ *Asiopodabrus malthinoides*

1ex, 13. V. 2016.

*Lycocerus* 属の一種

1ex, 13. V. 2020.

キンイロジョウカイ *Themus episcopalis*

1ex, 13. V. 2016.

カミキリムシ科

キバネニセハムシハナカミキリ *Lemula decipiens*

13exs, 22. IV. 2020.

セスジヒメハナカミキリ *Pidonia amentata*

2exs, 22. IV. 2020 ; 1ex, 12. V. 2020.

ツマグロハナカミキリ *Leptura modicenotata*

1ex, 21. V. 2020.

オオシロカミキリ *Olenecamptus cretaceus*

1ex, 25. VII. 2015.

トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudata*

- 1ex, 31. VII. 2019.
- アトジロサビカミキリ *Pterolophia zonata*  
1ex, 2. VI. 2020.
- センノキカミキリ *Acalolepta luxuriosa*  
1ex, 2. VII. 2015.
- ヒシカミキリ *Microlera ptinoides*  
1ex, 19. V. 2020.
- ビロウドカミキリ *Acalolepta fraudatrix*  
1ex, 1. VII. 2015.
- ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca*  
1ex, 1. VII. 2015.
- ニセノコギリカミキリ *Prionus sejunctus*  
1ex, 25. VII. 2015.
- マツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus*  
1ex, 30. VII. 2015.
- キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris*  
1ex, 14. V. 2020.
- キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes*  
1ex, 21. V. 2020.
- ホソキリンゴカミキリ *Oberea infranigrescens*  
1ex, 2. VI. 2020.
- ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella*  
2exs, 10. VI. 2020.
- シロスジカミキリ *Batocera lineolata*  
1ex, 20. VI. 2015 ; 1ex, 9. VII. 2015 ; 1ex, 26. VI. 2016.
- クワカミキリ *Apriona japonica* ◇  
1ex, 9. VII. 2015.  
兵庫県版レッドリスト 2012 において要調査に指定されている。詳しい日時は記録できていないが、筆者は 2011~2012 年の夏に兵庫県西宮市角石町でも本種を 1 頭確認していることも書き留めておきたい。
- ウスバカミキリ *Aegosoma sinicum*  
1ex, 18. VII. 2015.
- キマダラミヤマカミキリ *Aeolesthes chrysotrix*  
1ex, 23. V. 2020.
- アカアシオオアオカミキリ *Chloridolum japonicum*  
1ex, 5. VIII. 2019.
- ミドリカミキリ *Chloridolum viride*  
1ex, 29. V. 2020.
- ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta*  
2exs, 22. IV. 2020 ; 1ex, 15. V. 2020.
- トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis*  
1ex, 30. IV. 2020.
- エグリトラカミキリ *Chlorophorus japonicus*  
1ex, 29. V. 2020.
- キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*  
1ex, 9. VI. 2020.
- コジマヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra kojimai*  
1ex, 22. IV. 2020.
- ヒゲナガモモブトカミキリ *Acanthocinus orientalis*  
1ex, 23. VII. 2017.
- ニイジマチビカミキリ *Egesina bifasciana*  
1ex, 23. VI. 2019.
- テツイロヒメカミキリ *Ceresium sinicum*  
1ex, 25. VII. 2015.
- ヒゲナガヒメカミキリ *Ceresium longicorne*  
1ex, 6. VII. 2019.
- セミスジコブヒゲカミキリ *Rhodopina lewisii*  
1ex, 17. VI. 2017.
- ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*  
1 ♂ 1 ♀, 9. VII. 2019.
- サビカミキリ *Arhopalus coreanus*  
1ex, 21. IX. 2014 ; 1ex, 13. IX. 2014.
- クロカミキリ *Spondylis buprestoides*  
1ex, 2. VIII. 2019.

タイワンメダカカミキリ *Stenhomalus taiwanus*

1ex, 10. XI. 2019.

カミキリモドキ科

アオカミキリモドキ *Xanthochroa waterhousei*

1ex, 31. VII. 2019.

キバネカミキリモドキ *Xanthochroa luteipennis*

1ex, 5. VI. 2016.

ゴミムシダマシ科

クリノウスイロクチキムシ *Allecula simiola*

1ex, 23. VI. 2019.

ホンドクロオオクチキムシ *Upinella fuliginosa*

2exs, 23. X. 2019.

ナミクチキムシ *Upinella melanaria*

1ex, 7. XI. 2019.

フジナガハムシダマシ *Macrolagria rufobrunnea*

1ex, 13. V. 2020.

*Uloma* 属の一種

1ex, 15. V. 2020.

ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydema subfascia*

1ex, 10. XI. 2019.

*Platydema* 属の一種

7exs, 10. XI. 2019.

ホソモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema pictipenne* ©

4exs, 29. V. 2020.

立ち枯れのスプレーイングで得た。兵庫県からの記録は少ないかもしれない。

ルリゴミムシダマシ *Derosphaerus subviolaceus*

1ex, 5. VIII. 2019 ; 1ex, 23. X. 2019 ; 1ex, 19. V. 2020.

コツヤホソゴミムシダマシ *Menepihilus lucens*

1ex, 26. VI. 2016.

ホンドニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus paykullii*

1ex, 26. VIII. 2017.

ヒメナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta*

1ex, 10. XI. 2019.

スジコガシラゴミムシダマシ *Heterotarsus carinula*

1ex, 27. IX. 2014 ; 1ex, 12. VIII. 2015 ; 1ex, 21. VIII. 2019 ; 1ex, 23. V. 2020.

モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi*

1ex, 10. XI. 2019.

ヒゲブトゴミムシダマシ *Luprops orientalis*

1ex, 5. VIII. 2019 ; 1ex, 2. VI. 2020.

アラメヒゲブトゴミムシダマシ *Luprops cribrifrons*

1ex, 10. XI. 2019.

*Lagria* 属の一種

1ex, 23. VI. 2019.

ミツノゴミムシダマシ *Toxicum tricorntutum*

1ex, 22. IV. 2018.

フトヒメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus morii* ◇

3exs, 21. VIII. 2019 ; 3exs, 8. IX. 2019 ; 2exs, 30. IV. 2020.

兵庫県版レッドリスト 2012 で要調査に指定されているゴミムシダマシで、2019 年の記録は灯火に飛来した個体を、2020 年の記録は立ち枯れにいた個体を、それぞれ採集したものである。

ニホンキマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus*

1ex, 30. VII. 2015.

ホソクビキマワリ *Stenophanes mesostena*

2exs, 1. VIII. 2015.

コマルキマワリ *Amarygmus curvus*

1ex, 23. VII. 2017 ; 1ex, 19. V. 2020.

ニシズビロキマワリモドキ *Gnesis haagi*

1ex, 23. VII. 2017.

ナガシンクイムシ科

セマダラナガシンクイ *Lichenophanes carinipennis*

1ex, 4. VII. 2019.

ムキヒゲホソカタムシ科

サビマダラオオホソカタムシ *Dastarcus helophoroides*

1ex, 26. VIII. 2017 ; 1ex, 5. IV. 2020.

アトキツツホソカタムシ *Teredolaemus guttatus* ©

3exs(図5), 31. X. 2019.

兵庫県下での記録は多くないと思われる。3個体とも、キクイムシの穿孔した太い広葉樹の立ち枯れから得た。

#### コブゴミムシダマシ科

ルイスホソカタムシ *Gempylodes ornamentalis* ◎

1ex(図6), 31. X. 2019; 1ex, 28. IV. 2020.

兵庫県下での記録は多くないと思われる。前種と同じく、太い広葉樹の立ち枯れから得た。

ナガセスジホソカタムシ *Bitoma siccana*

2exs, 22. IV. 2018.

ノコギリホソカタムシ *Endophloeus serratus*

3exs, 22. IV. 2018.

ヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus brevicollis*

1ex, 19. V. 2020.

ツヤナガヒラタホソカタムシ *Penthelispa vilis*

3exs, 22. IV. 2018.

ツヤケシヒメホソカタムシ *Microprius opacus*

3exs, 22. IV. 2018.

ベニモンヒメヒラタホソカタムシ *Microsicus rufosignatus*

◎

3exs, 22. IV. 2018.

兵庫県からの記録は多くないと思われる。まだ枯葉のついた細くて固い広葉樹の落枝のビーティングで得た。ヨコモシヒメヒラタホソカタムシ *Microsicus bitomoides* が太い立ち枯れをニッチにするのに対し、本種はこのような環境で得られることが多いように感じる。



図5 アトキツツホソカタムシ

#### カクホソカタムシ科

ムネビロカクホソカタムシ *Cautomus hystriculus*

1ex, 22. II. 2019.

#### ガムシ科

コガムシ *Hydrochara affinis* ◇

1ex, 21. VIII. 2019.

灯火に飛来していた個体を得た。本種は環境省レッドリスト 2020 では情報不足 (DD) に指定されている。

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes*

1ex, 2. VIII. 2019.

#### エンマムシ科

ルリエンマムシ *Saprinus speciosus*

1ex, 6. VIII. 2015.

キノコアカマルエンマムシ *Notodoma fungorum*

1ex, 13. VIII. 2018.

#### ゲンゴロウ科

ハイイロゲンゴロウ *Eretes sticticus*

1ex, 18. VII. 2015.

#### テントウムシ科

カメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota*

1ex, 2015年5月※



図6 ルイスホソカタムシ

ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica*  
2exs, 14. V. 2020.

*Harmonia* 属の一種  
1ex, 11. VIII. 2015.

ナミテントウ *Harmonia axyridis*  
1ex, 7. XI. 2019.

ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*  
1ex, 14. V. 2020 ; 1ex, 19. V. 2020.

シロトホシテントウ *Calvia decemguttata*  
1ex, 30. VI. 2016.

キイロテントウ *Illeis koebelei*  
1ex, 13. V. 2020.

ダンダラテントウ *Cheilomenes sexmaculata*  
1ex, 12. V. 2020.

モンクチビルテントウ *Platynaspidius maculosus* ▲  
2exs( 図 7), 12. V. 2020.

中国,台湾,ベトナムに生息分布する外来種で,兵庫県  
の記録は無いが,あっても少ないと思われる.園内  
を流れる逆瀬川(図2の環境付近)で植物体をスイー  
プすることで上記の2個体を得た.筆者は西宮市でも  
本種を採集しているので併せて報告しておきたい.ま  
た,大阪府高槻市鶴殿のヨシ原でも本種は時々見られ,  
2019年2月7日には淀川横の樹種不明の木の皮の下で  
30exsほどの本種が冬越ししているのを確認したことが  
あるので,こちらも併せて報告しておきたい.本種はヨ  
シの生えた川辺で得られることが多いように感じるの  
で,このような環境を注意して探せば,今後兵庫県から追加  
で発見されるかもしれない.

1ex,兵庫県西宮市塩瀬町名塩武田尾,20.V.2020.筆者採集保  
管.

1ex,大阪府高槻市鶴殿淀川,28.VIII.2018.筆者採集保管.

30exs(程度・目撃,うち2頭採集),大阪府高槻市鶴殿淀川,7.  
II.2019.筆者採集保管.

これらの種の他に,目撃したが詳細な日付を記録で  
きていない鞘翅目昆虫として,コクワガタ *Dorcus rectus*,  
コアオハナムグリ *Gametis jucunda*, ラミーカミキリ  
*Paraglenea fortunei* がある.

膜翅目

アナバチ科

*Ammophila* 属の一種

1ex, 14. V. 2020 ; 2exs, 21. V. 2020.

ツチバチ科

キオビツチバチ *Scolia oculata*

1ex, 9.VI. 2020 ; 1ex, 15. VI. 2020.

ドロバチ科

エントツドロバチ *Orancistrocerus drewseni*

1ex, 2. VI. 2020.

ミカドトックリバチ *Eumenes micado*

1ex, 2. VI. 2020.

スズメバチ科

ムモンホソアシナガバチ *Parapolybia indica*

1ex, 9. VI. 2020.

キボシアシナガバチ *Polistes nipponensis*

1ex, 9. VI. 2020.

キアシナガバチ *Polistes rothneyi*

1ex, 2. VI. 2020.

ハバチ科

ハチガタハバチ *Tenthredo matsumurai*

2exs, 13. V. 2020.

*Rhogogaster* 属の一種

2exs, 23. IV. 2020.



図7 モンクチビルテントウ

ミフシハバチ科

ルリチュウレンジ *Arge similis*

2exs, 27. X. 2019.

コンボウハバチ科

ヒメコンボウハバチ *Zaraea lewisii*

1ex, 23. IV. 2020.

ミツバチ科

キムネクマバチ *Xylocopa appendiculata*

1ex, 30. IV. 2020.

*Ceratina* 属の一種

1ex, 8. V. 2020.

コマルハナバチ *Bombus ardens*

3exs, 8. V. 2020.

ニッポンヒゲナガハナバチ *Eucera nipponensis*

1ex, 28. IV. 2020.

アリ科

*Aphaenogaster* 属の一種

1ex, 4. VII. 2019.

キイロシリアゲアリ *Crematogaster osakensis*

2exs, 23. X. 2019.

チクシトゲアリ *Polyrhachis moesta*

1ex, 7. XI. 2019.

ムネアカオオアリ *Camponotus obscuripes*

1ex, 29. V. 2020.

上記の他, 目撃したが詳細な日付を記録できていない種にクロヤマアリ *Formica japonica*, クロオオアリ *Camponotus japonicas*, オオハリアリ *Brachyponera chinensis* がある.

鱗翅目

セセリチョウ科

ミヤマセセリ *Erynnis montanus*

1 ♀, 22. IV. 2018.

イチモンジセセリ *Parnara guttata*

1ex, 8. VI. 2020.

シロチョウ科

モンキチョウ *Colias erate*

1ex, 24. X. 2010.

モンシロチョウ *Pieris rapae*

1ex, 8. VI. 2020.

キタキチョウ *Eurema hecabe*

1ex, 10. VI. 2020.

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus*

1ex, 23. IV. 2020.

シジミチョウ科

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

1ex (目撃), 9. VII. 2019.

ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

2exs (うち 1 個体はイエローパントラップ) 7. XI. 2019

クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*

1 ♀, 24. X. 2010.

ツバメシジミ *Everes argiades*

1ex, 18. IX. 2010.

ベニシジミ *Lycaena phlaeas*

1ex, 2. IX. 2014.

ヤマトシジミ *Zizeeria maha*

1 ♀, 13. V. 2020.

ルリシジミ *Celastrina argiolus*

1ex, 8. VI. 2020.

アゲハチョウ科

ナミアゲハ *Papilio xuthus*

1ex, 3. V. 2015; 1ex, 10. VI. 2020.

ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous*

1ex, 3. V. 2015.

クロアゲハ *Papilio protenor*

1ex, 21. V. 2020.

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

1ex, 21. V. 2020.

カラスアゲハ *Papilio bianor*

1ex, 21. V. 2020.



オナガアゲハ *Papilio macilentus*

1ex, 14. V. 2020.

モンキアゲハ *Papilio helenus*

2exs(目撃), 21. V. 2020.

タテハチョウ科

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

1ex, 1. VIII. 2015.

コジャノメ *Mycalesis francisca*

1ex, 12. V. 2020.

クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

1ex, 24. X. 2010.

*Neope* 属の一種

1ex, 1. VIII. 2015.

テングチョウ *Libythea celtis*

3exs(目撃), 2. VI. 2020.

ゴマダラチョウ *Hestina persimilis*

1ex(目撃), 21. V. 2020.

イチモンジチョウ *Limenitis camilla*

1ex, 30. VII. 2015.

ホシミスジ *Neptis pryeri*

1ex, 10. VI. 2020.

キタテハ *Polygonia c-aureum*

1ex, 23. IV. 2020.

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

1♂, 10. VI. 2020.

マダラガ科

ホタルガ *Pidorus glaucopis*

2exs(幼虫・目撃のみ), 19. V. 2020.

メイガ科

ナカアカスジマダラメイガ *Nephotrix bicolorella*

1ex, 21. VI. 2016.

ここで紹介した以外に, 目撃したが詳細な日付を記録できていない鱗翅目昆虫にヒオドシチョウ *Nymphalis*

*xanthomelas*, アカタテハ *Vanessa indica*, ルリタテハ *Kaniska canace* がある. 筆者が小学生だった 2003 年頃にはアサマイチモンジ *Limenitis glorifica* やジャノメチョウ *Minois dryas* を見た記憶もあるが, 近年は見していない.

蜻蛉目

トンボ科

ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum* ◇

2exs, 13. VIII. 2018.

兵庫県版レッドリスト 2012 で C ランクに指定されているアカネで, 少なくとも 2018 年にはまだ確実に見られたが, 2000 年代初期と比べるとやはり少し減っているように感じる.

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum*

2exs, 13. VIII. 2018.

ヤンマ科

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani*

1ex, 7. VII. 2015.

ギンヤンマ *Anax parthenope*

1ex(目撃), 2. VI. 2020.

ここで紹介した以外に, 目撃したが詳細な日付を記録できていない蜻蛉目昆虫にウスバキトンボ *Pantala flavescens*, シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* がある.

長翅目

シリアゲムシ科

*Panorpa* 属の一種

1ex, 12. V. 2020.

双翅目

キアブモドキ科

*Xylomya* 属の一種

1ex, 14. V. 2020.

デガシラバエ科

オオハチモドキバエ *Eupyrgota luteola*

1ex, 26. VI. 2016.

ミツモンハチモドキバエ *Paradapsiliatrinotata*

1ex, 3. VI. 2016.

ヒロクチバエ科

ヒゲナガヒロクチバエ *Lamprophthalma japonica*

1ex, 2. VI. 2016.

クロバエ科

ツマグロキンバエ *Stomorhina obsoleta*  
3exs, 27. X. 2019.

アブ科

*Tabanus* 属の一種 (a)  
1ex, 9. VII. 2015.

*Tabanus* 属の一種 (b)  
2exs, 9. VI. 2020.

ツリアブ科

ビロードツリアブ *Bombylius major*  
2exs, 5. IV. 2020.

ムシヒキアブ科

オオイシアブ *Laphria mitsukurii*  
1ex, 25. VI. 2019; 2exs, 2. VI. 2020.

アオメアブ *Cophinopoda chinensis*  
1ex, 9. VII. 2019.

シオヤアブ *Promachus yesonicus*  
1 ♀, 8. VI. 2020.

ツマグロヒゲボソムシヒキ *Cyrtopogon pictipennis*  
1ex, 23. IV. 2020.

ハナアブ科

オオハナアブ *Phytomyia zonata*  
1ex, 21. V. 2020.

コガシラアブ科

*Oligoneura* 属の一種  
2exs, 13. V. 2020.

ガガンボ科

ホリカワクシヒゲガガンボ *Ctenophora bifascipennis*  
1ex, 23. VII. 2017.

スネプトクシヒゲガガンボ *Ctenophora nohirae*  
1ex, 9. VI. 2020.

ベッコウガガンボ *Ctenophora pictipennis*  
1ex, 3. VI. 2020.

*Tipula* 属の一種  
1ex, 25. IV. 2020.

脈翅目

カマキリモドキ科

ヒメカマキリモドキ *Mantispa japonica*  
1ex, 13. IX. 2014; 1ex, 2. VII. 2015; 1ex, 30. VI. 2016.

ツノトンボ科

ツノトンボ *Ascalohybris subjacens*  
1ex, 10. VII. 2015; 1ex, 18. VII. 2015; 1ex, 1. VIII. 2015.

オオツノトンボ *Protidricerus japonicus*  
1ex, 17. VI. 2015; 2exs, 10. VII. 2015.

ラクダムシ科

ラクダムシ *Inocellia japonica* ◇  
1ex(幼虫), 7. XI. 2019; 1ex(幼虫), 10. XI. 2019.  
兵庫県版レッドリスト 2012 で C ランクに指定されている。腕くらいの太さの枯れ木を強く叩くと、多数のヒメヒラタカメムシの仲間とともに計 2 頭が得られた。宝塚市ではほかに西谷西部などで記録がある(宝塚市, 1994)。

広翅目

ヘビトンボ科

ヘビトンボ *Protohermes grandis*  
1ex, 17. VI. 2015.

ヤマトクロスジヘビトンボ *Parachauliodes japonicus*  
1ex, 17. VI. 2015.

トビケラ目

マルバネトビケラ科

マルバネトビケラ *Phryganopsyche latipennis*  
1ex, 7. XI. 2019.

なお, ※を付記している記録は, 採集したが, 日付の詳細を忘れてしまったため, ラベルには年月しか表記することができなかった標本である。これは反省したい。

参考文献

- 青木淳一, 2012. 日本産ホソカタムシ類図説. 92pp. 昆虫文献六本脚.  
青木淳一, 2013. ホソカタムシの誘惑 第 2 版; 日本産ホソカタムシ全種の図説. 211pp. 東海大学出版会.  
秋田勝己・益本仁雄, 2016. 月刊むし・昆虫大図鑑シリーズ 9 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 304pp. むし社.  
荒谷邦雄・岡島秀治, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444pp. 学研教育出版.  
林 匡生・森本 桂, 1984. 原色日本甲虫図鑑 IV. 438pp.

- 保育社.
- 平野幸彦, 2009. 日本産ヒラタムシ上科図説第1巻ヒメキノコムシ科・ネスイムシ科・チビヒラタムシ科, 63pp. 昆虫文献六本脚.
- 平嶋義宏・森本 桂 (監修), 2008. 新訂原色昆虫大図鑑Ⅲ. トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目. 654pp. 北隆館.
- 堀田 久, 1975. 淡路島のカメムシ類について. *Parnassius*, 14: 4-6.
- 堀田 久, 1978. 淡路島のカメムシ類について (II). *Parnassius*, 19: 1-3.
- 兵庫県, 2012. 兵庫県版レッドリスト 2012, 種リスト. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/3-5.html>.
- 石川 忠・高井幹夫・安永智秀, 2012. 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 576pp. 全国農村教育協会.
- 伊藤 武, 1993. 西宮市におけるチビサクラコガネの追加記録. *きべりはむし*, 21(2): 51.
- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>.
- 三田村敏正, 平澤 桂, 吉井重幸, 北野 忠, 2017. タガメ・ミズムシ・アメンボハンドブック (水生昆虫 2). 132pp. 文一総合出版.
- 内藤親彦・篠原明彦・原 秀穂・伊藤ふくお, 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑. 552pp. 北海道大学出版会.
- 進藤健朗, 2020. 「夜間照明」に飛来したシリグロナカボソタマムシ, *月刊むし* No.598:14.
- 新家 勝, 1983. 西宮市内におけるチビサクラコガネの採集記録. *きべりはむし*, 11(2): 60.
- 多田内 修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑, 479pp, 文一総合出版.
- 高橋寿郎, 1985. 兵庫県のスジコガネ (追記) 兵庫県甲虫相資料・142. *IRATSUME*. 8-9: 72.
- 宝塚市, 1994. 宝塚の昆虫 VI シミ・カゲロウ・カワゲラ・シロアリ・チャタテムシ・シラミ・アザミウマ・アミメカゲロウ・シリアゲムシ・トビケラ・ハエ. 231pp. 宝塚市教育委員会.
- 宝塚市, 2012. 宝塚市生態系レッドデータブック. [https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/025/676/seitaikei\\_rdb.pdf](https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/025/676/seitaikei_rdb.pdf) (2021年4月閲覧)
- 宇野宏樹, 2019a. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I, *きべりはむし*, 42(2): 32-39.
- 宇野宏樹, 2019b. 宝塚市におけるフタテンカメムシの採集例. *きべりはむし*, 42(2): 62.
- 宇野宏樹, 2020a. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II, *きべりはむし*, 43(1):18-28.
- 宇野宏樹, 2020b. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 III, *きべりはむし*, 43(2): 21-25.
- 安永智秀・山下 泉・川沢哲夫・高井幹夫・川村 満, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 360pp. 全国農村教育協会.
- 安永智秀・中谷 至伸・高井幹夫・川沢哲夫, 2001. 日本原色カメムシ図鑑第2巻. 350pp. 全国農村教育協会.

## 芦屋市の昆虫調査報告 III

### — 芦屋市のその他の昆虫について —

神吉 正雄<sup>1)</sup>・篠原 弘<sup>2)</sup>・篠原 忠<sup>3)</sup>・石川 佳史<sup>4)</sup>

#### 1. はじめに

兵庫県芦屋市のチョウとオサムシについて本誌で報告してきた。その調査時にチョウとオサムシ以外で649種を確認している。そのうち種名の確定が出来たものの中で、芦屋市域に生息する昆虫として注目しておくべき種、特異な形態や生態の種、北上種ないし外来種、クワガタムシについてここで報告しておく。

調査期間は2016年4月1日から2020年3月31日までである。本調査の2017～2019年は芦屋市の生物調査委託事業を兼ねて実施した。調査に当たっては西宮自然保護協会の諸氏、西宮オサムシグループの諸氏の協力を得た。また、調査時には地元の方々の厚意で神社社叢、私有地への立ち入りなど多くの協力を得ている。

#### 2. 注目種について

芦屋市のチョウとオサムシ以外で、今回の調査で確認したその他の昆虫の中で、環境省レッドリスト（2015年）と兵庫県版レッドリスト（2012年）に掲載されている種を中心にし、一部それ以外の種を付加してここでその採集記録等を報告する。本文では、環境省レッドリスト（2015年）は環境省RL、兵庫県版レッドリスト（2012年）は兵庫県RDと略して記述する。

・ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* (兵庫県RD-Bランク)  
 湿原・湿地や河川源流部で見られるがやや少ない種である。芦屋市においては多くはないが登山道や湧水場所で確認できた。蛇谷、高座の滝道では登山道を飛翔しているところを、黒越谷、いもり谷では湧水場所で確認できた。

[採集記録] いもり谷:2016(5/17・5/26), 奥池南町:2016(6/1), 高座の滝道:2017(5/12), 黒越谷:2016(5/25・6/3)

・ルリボシヤンマ *Aeshna juncea* (兵庫県RD-Cランク)  
 少ない種である。今回の調査では成虫、幼虫共にいもり池・いもり谷で確認することができたが、他の場所での確認はできなかった。

[採集記録] いもり池湿原・いもり谷:2015(9/23), 2016(5/26・6/5・10/6・10/12), 2017(7/30・9/18・9/19)

・オオルリボシヤンマ *Aeshna crenata*

ルリボシヤンマに比べ広くしかも多く生息している。石島池で産卵行動をとるメスとその周囲を飛ぶオスをよく見かけた。いもり池では幼虫も確認できた。

[採集記録] いもり池・いもり谷:2015(9/23), 2016(5/26), 2018(7/26・9/2), 石島池:2017(8/28・9/15・9/19), 高座の滝道:2016(7/3),

・タカネトンボ *Somatochlora uchidai* (兵庫県RD-要注目種)

芦屋市でもやや少ない種であるが、椿谷の北にある樹林に囲まれた小さな猿丸池(仮称)では飛翔するオスや産卵行動をするメスをよく見かけた。蛇谷ではクモの巣にかかっていたもの、椿谷と高座の滝付近ではテリトリーを張っている本種を確認した。

[採集記録] 芦屋川:2015(8/23), 2016(5/31), 椿谷:2018(8/8), 猿丸池:2018(8/28・9/15), 蛇谷:2017(8/5)

・ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* (兵庫県RD-要注目種)

全国的に少ない種であり、芦屋市でも少ないが、いもり池湿原や石島池ではよく見かけることができた。

[採集記録] いもり池湿原:2016(5/18・5/26), 2017(5/10), 石島池:2018(6/3)

・タイリクアカネ *Sympetrum striolatum imitoides*

学校のプールなどで本種のヤゴを見かけるが、野外で見かけることは少ないと言われている。今回の調査では山麓部の前山公園で確認できた。

[採集記録] 前山公園:2017(6/17)

・ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* (兵庫県RD-要注目種)

湿地環境の減少で少なくなっている。芦屋市においては、石島池と隣接する奥池湿地(仮称)や黒越谷、い

<sup>1)</sup> Masao KAMIYOSHI 兵庫県宝塚市; <sup>2)</sup> Hiroshi SHINOHARA 兵庫県西宮市; <sup>3)</sup> Tadashi SHINOHARA 兵庫県西宮市;

<sup>4)</sup> Yoshihumi ISHIKAWA 兵庫県西宮市

もり池湿原, 高座の滝道ではかなり生息していることが確認できた. いもり池湿原ではヤゴの確認もできた.

[採集記録] いもり池湿原: 2016 (7/30・9/2・10/6・10/12・11/2), 2017 (6/28・7/30・8/8・9/19), 黒越谷: 2016 (9/2), 石島池と奥池湿地: 2016 (9/14), 2017 (8/24・8/28), 2018 (10/2), 猿丸池: 2018 (8/28), ツルベ谷: 2016 (7/24), 岩園町 46: 2016 (10/4)

・ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum* (兵庫県 RD -C ランク)

全国的には少ない種であるが, 芦屋市, 西宮市, 宝塚市の河川流域には多く見られる. 芦屋市では六甲山地尾根筋から奥池, 山麓部, 芦屋川流域など全市域で多く確認できた.

[採集記録] 六甲山地尾根筋: 2018 (8/2), ごろごろ岳: 2016 (7/27), 奥池: 2016 (8/10・8/18・9/1), いもり池湿原: 2017 (9/19), 奥池南町: 2016 (10/2), 石島池: 2017 (8/28), ツルベ谷: 2016 (7/27), 高座の滝道: 2016 (9/11), 六麓荘西緑地: 2016 (7/24), 山手町 12: 芦屋川河川敷: 2016 (10/7)

・アキアカネ *Sympetrum frequens* (兵庫県 RD - 要注目種)

全国的には稲作の技法の変化や農薬の関係で減少している種である. 芦屋市でも多くはないが, 六甲山地の尾根筋, 東おたふく山, 蛇谷, 椿谷など山地の中腹以上の比較的標高の高いところで多く確認できた.

[採集記録] 六甲山地尾根筋: 2017 (8/18), 2018 (8/2・9/19), 椿谷: 2017 (9/3), 東おたふく山: 2017 (9/3), 蛇谷: 2017 (9/3)

・ヤスマツトビナナフシ *Micadina yasumatsui* (兵庫県 RD - 要注目種)

以前は九州に生息する種とされていた. 現在は阪神間でも見られるようになってきているが少ない. 今回の調査では調査協力者の平田登志子が黒越谷で確認した.

[採集記録] 黒越谷: 2018 (7/21)

・オオキンカメムシ *Eucorysses grandis*

やや少ない美しい種である. その生態に未知な部分があり観察を必要とする種である. 冬季は温暖地で集団越冬し春季から北上していく. 芦屋市でも時々見られる種で, 今回の調査において, ツルベ谷では食樹のアブラギリで発生しており, 幼虫と成虫を確認することができた. 芦屋浜埋立地では越冬のためかカシワの樹上で小集団を作っているところを確認した.

[採集記録] ツルベ谷: 2016 (9/17), 2018 (6/29・8/17 幼虫), 会下山: 2018 (9/18), 芦屋浜: 2016 (9/25)

・コオイムシ *Appasus japonicus* (環境省 RL - 準絶滅危

惧種)

オスの背中に卵を乗せる姿が特徴的である. 以前は池や水田で見られたが, 農薬や水質悪化のために激減した. 芦屋市ではいもり池湿原のみで確認できた.

[採集記録] いもり池湿原: 2016 (4/10)

・ミズスマシ *Gyrinus japonicus* (環境省 RL - II 類, 兵庫県 RD - C ランク)

池沼や水田で普通に見られていた種であるが, 水質悪化などで近年急減している. 今回の調査ではいもり池湿原や猿丸池で生息を確認できた.

[採集記録] いもり池湿原: 2016 (4/10), 2017 (5/2・5/10), 猿丸池: 2016 (7/30), 2018 (8/28・9/2・9/15), 高座の滝道: 2016 (9/11)

・ヘイケボタル *Luciola lateralis* (兵庫県 RD - 要調査種)

止水性の本種は, 池沼の水質や水田の環境悪化などで減少している. 芦屋市では水田や池沼などの止水環境の減少が著しく, 見られなくなっている. その中で, 岩園町の極楽地太一氏の所有地内にある水田とその周辺部でかなり発生していた. 同氏が生息環境を維持しているが狭い範囲であるため, 現在の環境が守られないと絶滅する可能性がある.

[採集記録] 岩園町 39: 2017 (6/10)

・ヤマトオサムシダマシ *Blaps japonensis* (環境省 RL - 準絶滅危惧種)

以前は古民家や農具小屋などで少ないが見られていたが, 近年は建築様式の変化や農具小屋などの構造物の変化で激減している. 芦屋市でも農耕地の減少や古民家の減少で見られなくなっていたが, 岩園町で里山環境を保存されている極楽地太一氏の所有地の林地に囲まれた古い農具小屋とその周辺で生息を確認することができた. この場所での確認は, オサムシ調査用に仕掛けたピットフォールトラップ (ベイトはサナギ粉) に偶然 7 頭が落下した. 後日, 農具小屋内の調査を里見太輔氏の協力を得て行い, 2 頭の死骸を確認した. 2017 年 6 月 23 日から 7 月 14 日まで仕掛けたオサムシ用トラップにも 1 頭落下した.

岩園町の本場所の環境保護が継続する間は貴重な生息地となる.

[採集記録] 岩園町 39: 2016 (8/16 ~ 10/27 トラップに 7 頭落下・11/4 農具小屋内調査, 2 頭死骸を確認), 2017 (6/23 ~ 7/14 トラップに 1 頭落下)

・クワカミキリ *Apriona japonica* (兵庫県 RD - 要注目種)

兵庫県ではクワの減少等でやや少なくなっているが, 阪神間では時々見かける. 芦屋市の今回の調査ではツル

べ谷で確認できた。

[採集記録] ツルべ谷: 2016 (7/24)

・ホシベニカミキリ *Eupromus ruber*

本種は本州・四国・九州・南西諸島の太平洋側の温暖地域で見られる。芦屋市では芦屋浜の総合公園に植えられた食樹のタブノキで多く発生しており、食害のためタブノキを枯死ないし、枝を枯らすなどの被害をもたらしていた。

[採集記録] 芦屋浜: 2017 (5/14・5/15), 2018 (5/20)

・カツラネクイハムシ *Donacia katsurai* (兵庫県 R D - B ランク)

1980年に奥池の湿原で桂孝次郎により新種発見された種である。今回の調査ではいもり池湿原で2016年5月26日3頭, 6月5日7頭の生息確認ができた。6月27日, 2017年5月31日にも生息の確認をした。

筆者らも参加し2016年に西宮自然保護協会が行ったいもり池湿原調査では、湿原の一部にはヘドロ状のものが溜まり、周辺の樹木が湿原の一部への日光を遮るなど湿原環境が以前に比し悪化してきている。しかし、まだ食草のヤチカワズスゲの成育が見られ、本種の生息も確認できた。いもり池湿原はサギスゲを始めとする植生面でも貴重であるだけに環境改善が急がれる。

[採集記録] いもり池湿原: 2016 (5/26・6/5・6/27), 2017 (5/31)

・オオヒゲナガハナアブ *Chrysotoxum grande*

大型のハナアブでやや少ない種である。本種の生態はまだ明らかにされていないが、アリの巣の近くで幼虫や蛹が見つかっており(槐, 2017)、アリとの何らかの関係があるのではないかと見られている。今後、調査・観察が必要な種である。今回の調査では椿谷で確認している。

[採集記録] 椿谷: 2018 (9/18)

### 3. 特異な生態や形態の種について

今回の調査確認種の中で、その生態や形態において特異的な6種を確認することができたのでここに記録しておく。

・ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia*

大型のカワトンボである。♂は♀に腹の先端部の白色部を見せて誘う行動をとることや、♀が水中に長時間潜り産卵行動をとる特異な種である(山本, 2009)。芦屋市では少ない種で、奥池町の芦屋川上流に当たる小河川で雌雄を確認することができた。

[採集記録] 奥池町1: 2018 (7/13)

・マツモムシ *Notonecta triguttata*

腹を上面にして泳ぐ姿が特徴的である。かつてはコオイムシなどと共に池沼でよく見られた種であるが近年減少しているようである。芦屋市ではいもり池湿原や猿丸池で見られた。

[採集記録] いもり池湿原: 2016 (4/10・5/26・5/27), 2017 (5/2), 猿丸池: 2018 (8/28・9/2)

・ルイスジンガサハムシ *Thlaspidia lewisii*

カメノコハムシ類の幼虫は腹端の突起に自身の脱皮殻あるいは糞を付着させ、特異な外見をしたものが多い。本種の幼虫は脱皮殻と糞の両方を腹端の突起に付着させ、老熟した幼虫はそれらを付けたまま葉上で蛹化する(木元・滝沢, 1994)。幼虫は糞によって一部の天敵から身を守っていると考えられている(Olmstead, 1994)。芦屋市ではいもり谷のマルバアオダモで蛹を確認した。

[採集記録] いもり谷: 2016 (7/30)

・ツバキシギゾウムシ *Curculio camelliae*

ゾウムシは口吻が長い種が多いが、本種は特に長大な口吻を持つ。メスの口吻は体長よりも長い。このメスの長い口吻でツバキの実に孔をあけ、中の種子に産卵するので、口吻の長さでツバキの実皮の厚さとの関係があると考えられている(岡本, 1998)。芦屋市では黒越谷や奥池南町のツバキで多く発生していることが確認できた。

[採集記録] 黒越谷: 2017 (6/27), 2018 (7/10), 奥池南町: 2018 (7/13)

・キカマキリモドキ *Eumantispia harmandi*

上半身がカマキリに似ており、下半身はハチに似る。奇妙な姿をしていることと、幼虫時の生態もヤチグモの卵囊に寄生する特異な生態の昆虫である(槐, 2017)。少ないが蛇谷で飛翔中の本種を確認できた。

[採集記録] 蛇谷: 2017 (9/2)

### 4. 北上種ないし外来種について

近年の温暖化などの影響で分布を北上させた種と、外来種のうち芦屋市で確認できた主な種について述べておく。なお、外来種(侵入種)については国立環境研究所の「侵入生物データベース」と大阪市立自然史博物館の「外来生物調査プロジェクト」およびカメムシ研究会「分布を拡げる外来カメムシの情報ページ」にリストアップされている種、およびTuda & Morimoto (2004)のエンジュマメゾウムシを取り上げた。また、大阪自然史博物館とカメムシ研究会には、対象昆虫の新生息地を確認した場合、これまでもデータ協力を行ってきている。アカハネオンブバッタ、マツヘリカメムシ、クスベニヒ

ラタカスミカメの生息確認地については本誌で既に報告した。

・タイワンウチワヤンマ *Ictinogomphus pertinax*

以前は九州から四国南部で見られていたが、近年は北上し阪神間でも見られるようになってきている。今回の調査時では芦屋浜陽光緑地と岩園町の仲の池で確認できた。

[採集記録] 芦屋浜陽光緑地：2016 (8/11), 岩園町仲の池：2018 (7/26)

・アオマツムシ *Trujalia hibinonis*

明治頃に中国大陸から日本に入ってきた種である。近年急速に広がり、阪神間の市街地などで、樹上で大きな声でリーリーとなく声が聞かれるようになった。芦屋市でも山麓部から市街部などでよく聞かれる。

[採集記録] 山芦屋町：2018 (10/2)

・アカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis*

南西諸島に分布していたが、2012年大阪湾の埋め立て地で発見された。大阪自然史博物館等がその分布域を調査したところ既に大阪周辺部にまで広がっていることが確認された。阪神間では武庫川以西の詳細な調査が行われていなかったため、筆者が西宮市・芦屋市・宝塚市南部の調査をし、本誌で報告した(神吉, 2019b; 2019c)。芦屋市では奥池まで北上していることが確認できたが、南部の海岸部に行くほど在来種のオンブバッタ *Atractomorpha lata* より本種が優占種となっている。

[採集記録] 奥池：2018 (10/22), 芦屋山手町12 (9/23・10/16), 岩園町：2018 (10/8), 芦屋川：2018 (9/23・10/16), 翠ヶ丘町：2018 (10/9), 呉川町：2018 (10/9), 高浜町：2018 (10/19), 若葉町：2018 (10/2), 浜風町：2018 (10/19・11/9) 芦屋浜：2018 (9/23・10/19・11/5)

・マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis*

北米大陸西部の原産種であるが、2008年に東京に侵入し分布を拡大させている。クロマツの実や新芽を食害する。芦屋市では蛇谷とごろごろ岳の施設の壁に止まっているものを確認した。芦屋浜などのクロマツをピーティングしたが確認できなかった。

[採集記録] 蛇谷：2016 (10/26), ごろごろ岳：2018 (10/22), 山手町：2016 (11/8)

・クスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomic*

中国原産のカメムシである。2015年に関西で確認され、急激に分布を拡大させている。クスノキの葉を加害するため、前山公園、山麓公園と岩園町46番地の畑でクスノキのピーティングにより確認できた。市内に広く発生していると考えられる。

[採集記録] 前山公園：2019 (11/19), 山麓公園：2018 (12/18), 岩園町46：2018 (12/18)

・ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrua dohrni*

中国から東南アジアの原産種であるが、1930年代九州へ、1990年代関東に侵入し分布を拡大して行った。芦屋市でも定着し、広く見かけることができる。

[採集記録] 奥池：2016 (5/14), ごろごろ岳：2016 (5/18), 岩園町46：2018 (6/29), 高座の滝道：2018 (5/11)

・キマダラカメムシ *Erthesina fullo*

台湾から東南アジア原産のカメムシであるが、1770年に長崎で、2008年に東京に侵入し、分布を拡大させて定着している。芦屋市でも山麓部から海岸部までよく見かける。特に、市街部のサクラ、ケヤキなどの樹木で多く見かけ、冬季に越冬のため人家に侵入するため市民も良く見かけるカメムシとなった。

[採集記録] 城山：2018 (4/30), 山手町26：2017 (11/7), 岩園町仲の池：2018 (9/6), 阪急芦屋川駅前：2016 (6/10), 浜風町東浜公園：2018 (9/6), 芦屋浜：2016 (5/20・8/11・9/14), 2017 (9/14), 2018 (7/12・8/21)

・チャゴマフカミキリ *Mesosa perplexa*

原産地は中国から東南アジアであるが、明治以前に侵入したらしい。関西では神戸市東灘区から芦屋市で発生した。モモやサクラやネムノキなどを食害するが、芦屋市では南部の公園の藤棚で確認されている。今回の調査では広く山麓部から南部の公園の状況を調査したが芦屋浜のみで確認できた。芦屋市では初期発生後生息個体数の増大と分布拡大は見られないようである。

[採集記録] 芦屋浜：2017 (7/1)

・ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*

本種は原産地が中国からインドシナで、1860年から70年代に長崎、1990年代に対馬で初記録された。現在は分布を拡大し関東以西でやや普通に見られる。芦屋市でも芦屋浜のムクゲなどについているものを確認した。

[採集記録] 芦屋浜：2016 (5/20・5/29・6/30), 奥池：2019 (7/17)

・エンジュマメゾウムシ *Megabruchus sophorae*

本種は中国原産のエンジュとともに日本に持ち込まれた移入種である可能性が指摘されている(Tuda & Morimoto, 2004)。幼虫はエンジュの種子内で育ち、秋季に新成虫が羽脱するようである。芦屋市では芦屋浜のエンジュで確認した。

[採集記録] 芦屋浜：2018 (9/14)

・キベリハムシ *Oides bowringii*

原産地は中国であるが、明治時代に神戸市に侵入したと言われる。1933年に六甲山で採集された記録が残っている。その後、分布の拡大は遅いが、現在は兵庫県南部から中部まで広がり、更に岡山県、京都府、大阪府の一部まで広がっている。

芦屋市では、特に、芦屋川水系の椿谷、蛇谷、黒越谷、山手町には食草のサネカズラが多く成育しており冬季の卵塊の確認、夏季には多くの成虫の確認ができた。

[採集記録] 蛇谷：2016 (7/10), 奥池南町：2016 (6/30), 椿谷：2018 (8/8), 黒越谷：2017 (3/28 卵塊), ツルベ谷：2016 (11/29 卵塊), 前山公園：2017 (7/14・7/19), 2018 (7/16), 山手町 26：2017 (1/11 卵塊)

### 5. 芦屋市のクワガタムシについて

クワガタムシは、市民からも親しまれている昆虫である。地元の農家の方に聞き取りをすると、岩園町に畑地が広く残っていた時は、畑周囲のクヌギの樹液にはミヤマクワガタやノコギリクワガタなどの大型のクワガタも生息していた。しかし、近頃では時にカブトムシを見かける程度であるとのことであった。

山地部や里山などで見られるクワガタムシは、芦屋市の昆虫生息環境の一つの指標ともなると考えた。そこで、クワガタムシの愛好家である西宮オサムシグループの吉田有岐氏の協力も得て調査を行ったのでその報告をしておく。

・ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

本種は山地性で、広葉樹の樹液に集まる。芦屋市では奥池周辺や奥山のキャンプ場跡のコナラの樹液などで確認できた。

[採集記録] 奥池南町：2016(7/21), 東おたふく山：2017(7/3 ~ 8/5 トラップへ落下), 奥山キャンプ場跡：2017 (7/19), 2018 (7/26)

・ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*

本種は低地に多く、広葉樹の樹液に集まる。芦屋市では、地元昆虫愛好家などから近年本種の姿を見なくなっていたとのことと重点的に調査を試み、冬季に高座の滝道の広葉樹の立ち枯れの根部で多くの幼虫を確認することができた。なお、幼虫は吉田有岐氏が飼育し羽化させた。

[採集記録] 高座の滝道：2017 (3/10 立ち枯れ木中の幼虫採集)

・コクワガタ *Dorcus rectus*

本種は最も普通に見られる種で広葉樹の樹液に集まる。芦屋市では山地の広範囲で広葉樹の樹液や樹皮下、

オサムシ用トラップなどで確認できた。

[採集記録] 黒越谷：2017 (3/28), 荒地山：2018 (6/27 ~ 7/16 トラップ), 椿谷：2018 (7/13) ツルベ谷：2016 (8/3・11/29), 前山公園：2016 (7/16), 高座の滝道：2016 (11/2), 2018 (6/7), 岩園緑地：2016 (7/4)

・スジクワガタ *Dorcus striatipennis*

本種は低地から山地まで広い範囲で見られる種で、広葉樹の樹液に集まる。芦屋市では奥池周辺、奥山キャンプ場跡、前山公園のコナラの樹液や樹皮下などで確認でき、高座の滝道では立ち枯れのエノキの根部で確認できた。

[採集記録] 奥池南町：2016 (7/2), 前山公園：2017 (7/6), 奥山キャンプ場跡：2017 (7/17・8/24), 2018 (7/26), 高座の滝道：2017 (3/10)

・ヒラタクワガタ *Dorcus titanus*

本種は低地から山地まで広い範囲で見られる種で、広葉樹の樹液に集まる。芦屋市では個体数は少なく、前山公園で1頭の死骸を確認できたのみであった。

[採集記録] 前山公園：2016 (10/31)

### 6. 芦屋市のハッチョウトンボについて

ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* (兵庫県 R D - B ランク)

芦屋市のハッチョウトンボは、いもり谷にある湿原部(現在はフェンスで囲い湿原保護区としている)で、かつては多く発生していたが、2005年頃に周辺木の大幅な伐採が行われ急激にその環境が悪化したために間もなく絶滅したとのことである(地元昆虫研究家古市景一氏談)。写真ページに掲載したハッチョウトンボは、2007年6月17日に同氏が撮影した本種で、絶滅する直前の写真である。

いもり谷保護湿原以外で生息可能性のあるいもり池湿原は以前から生息は確認されていなかった。奥山の石島池に隣接する奥山湿地にも生息していたとの情報もあるが定かでない。

芦屋市のハッチョウトンボの生息に関しては以上の如く悲観的な情報が多くある。しかし、現在生息していないのかを確認するために、筆者らを含む西宮自然保護協会で調査を2018年まで行った。その調査を筆者らが引き継ぎ2020年春季まで調査を継続して実施した。

その結果は、残念ながら生息している確認はできなかった。以前の発生地であるいもり谷内の湿原保護地区は、周囲が住宅ないし企業の保養所などに囲まれており、しかも湿原自体の環境もハッチョウトンボが好む地表面を浅く清流が流れ、水草が生えた場所が狭小化しておりハッチョウトンボは確認できなかった。ただ湧水的な場



所ではムカシヤンマを確認することができた。

いもり池湿原は、現在も沼状でハッチョウトンボの発生環境ではなく、今回の調査でも確認できなかった。池沼性のヨツボシトンボを始めとするトンボの多くの種は確認できた。

奥山湿地は、開放された尾根線にある湿地であり、現在もハッチョウトンボが多く発生している西宮市の剣谷湿原に近く、しかも、以前ハッチョウトンボを見たという情報もあり、生息の期待をして調査を繰り返したが確認することはできなかった。この湿地は乾燥期になると水脈が乏しくなり湿地の様態を示さなくなっている時期があった。ハッチョウトンボ以外ではヒメアカネなどの生息は確認できた。

以上の結果から、芦屋市でのハッチョウトンボの生息の可能性は極めて低いと考える。

### 謝辞

芦屋市におけるチョウ・オサムシを除く昆虫の調査にあたり、芦屋市教育委員会、環境課の協力でもいもり池湿原等の保護地区の調査立ち入りを始め市域の調査に対し協力を頂いた。調査時には西宮自然保護協会の能登康夫・大谷洋子・塚本千鶴の各氏の全般にわたる協力、地元極楽地太一、朝比奈洋、朝比奈皓の各氏を始めとする方々の長期に及ぶ私有地ないし神社内への立ち入り等の協力で貴重なフィールド調査が可能になった。また、池田大、上木岳、桂孝次郎、黒田剛弘、新村捷介、田中勇、谷幸三、西隆広、平田登志子、古市景一の各氏からの助言、資料提供、同定の協力を得た。厚くお礼を申し上げる。

調査時には、調査員として同行の労を取って頂いた大畑良也、木下陽平、木下翔太郎、久保隆弘、里見太輔、笹倉武流、成川央庸、吉田有岐の各氏の協力により調査を充実させることができた。感謝する。

本報告で使用した写真は、筆者神吉正雄、篠原忠の撮影写真に、能登康夫、大谷洋子、平田登志子、古市景一各氏の提供写真を使用し構成した。各氏にお礼を申し上げる。

### 参考文献

芦屋市環境づくり推進会議, 2010, 仲の池の自然, 芦屋市。  
 芦屋市環境づくり推進会議, 2014, 芦屋川・宮川の自然, 芦屋市。  
 槐真史 (編著), 2013a. ポケット図鑑日本の昆虫 1400 ①チョウ・バッタ・セミ. 319pp. 文一総合出版, 東京。  
 槐真史 (編著), 2013b. ポケット図鑑日本の昆虫 1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ. 319pp. 文一総合出版, 東京。

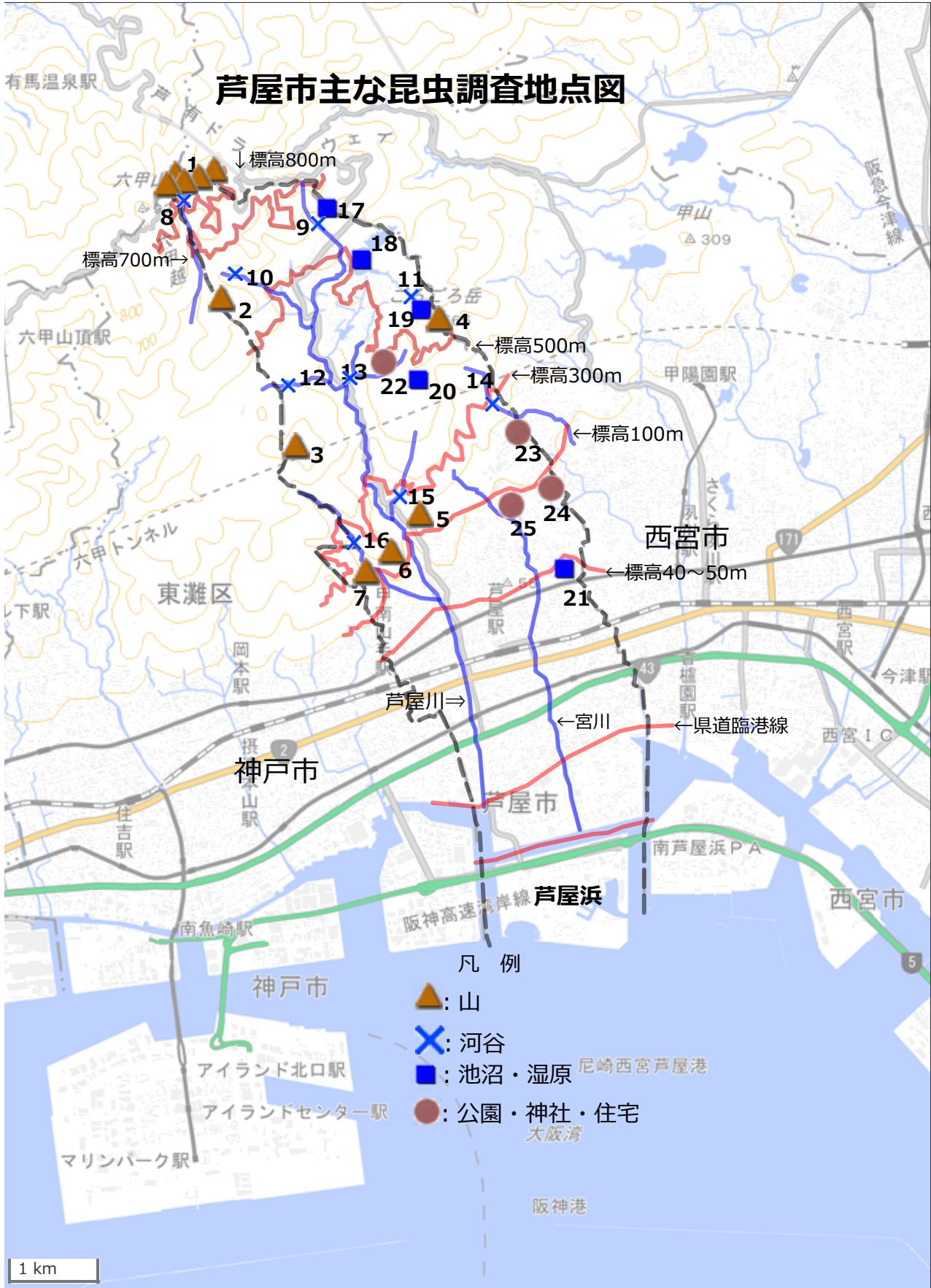
井上清・谷幸三, 2017. 新装改訂版 トンボのすべて 増補 世界のトンボ. 183pp. トンボ出版, 大阪。  
 神吉正雄, 2017. ヤマトオサムシダマシ探索記, 箴頭, No.16; 22-23。  
 神吉正雄, 2019a. 関西で再度クロカタビロオサムシ多量発生, 昆虫と自然 54 (12): 25-28。  
 神吉正雄, 2019b. アカハネオンブバッタとオンブバッタの生息状況 (1), きべりはむし 41 (2): 16-22。  
 神吉正雄, 2019c. アカハネオンブバッタとオンブバッタの生息状況 (2), きべりはむし 42 (1): 78-83。  
 神吉正雄・石川延寛, 2014・15・16. 関西でクロカタビロオサムシ大発生 (1) ~ (5) 昆虫と自然, 2014 (9): 28-33, 2015 (1): 27-30, (2): 31-35, 2016 (5): 29-31, (6): 29-31。  
 神吉正雄・石川佳史, 2019. 阪神間におけるカメムシ 2 種の記録, きべりはむし 41 (2): 52。  
 環境省, 日本の外来種対策 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html> (2018.9 アクセス)  
 木元新作, 1981, 日本産ネクイハムシ類についての新知見 (鞘翅目: ハムシ科), Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 34: 23-26。  
 桐谷圭治・湯川純一, 2010. 地球温暖化と昆虫, 全国農村教育協会。  
 国立環境研究所, 侵入生物データベース」 <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive> (2018.9 アクセス)。  
 松本吏樹郎, 2017. アカハネオンブバッタの移入・拡散の実態と在来オンブバッタに与える影響の解明 (概要), 大阪自然史博物館 (KAKEN 実績報告書)  
 村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 452pp. 北海道大学出版会, 北海道。  
 日本環境動物昆虫学会 (編), 2005. トンボの調べ方. 305pp. 文教出版, 東京。  
 西宮自然保護協会, 2018. 芦屋市いもり池湿原およびいもり谷周辺調査報告書, 芦屋市環境課。  
 岡本素治, 2018. 近畿地方におけるクスベニヒラタカスミカメの季節消長, きしわだ自然資料研究報告 5: 27-35。  
 岡本素治, 1988. ヤブツバキと種子食害者ツバキシギゾウムシの相互関係, Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, No.43: 15-37  
 Olmstead K., 1994. Waste products as chrysomelid defenses. In: Jolivet P, Cox M, Petitpierre E. (Eds.) Novel aspects of the biology of Chrysomelidae. Kluwer Academic, Dordrecht.  
 Tuda, M., Morimoto, K., 2004. A new species Megabruchidius sophorae (Coleoptera, Bruchidae),

feeding on seeds of *Styphnolobium* (Fabaceae) new  
to Bruchidae. *Zoological Science*, 21(1): 105-110.

山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明, 2009. 近  
畿のトンボ図鑑. 239pp. いかだ社, 東京

山崎一夫・高倉紘一・今井長兵衛, 2016. 大阪港湾部  
におけるアカハネオンブバッタの侵入時期について,  
*環動昆* 27 (1) : 17-20.

表1 芦屋市主な昆虫調査地点図.



1. 注目種 (絶滅危惧種を中心に)



ムカシヤンマ (いもり谷湿地)



ルリボシヤンマ (いもり池湿原)



オオルリボシヤンマ (石島池)



タカネトンボ (樫谷)



ヨツボシトンボ (いもり池湿原)



タイリクアカネ (前山公園)



ヒメアカネ (いもり池湿原)



ミヤマアカネ (石島池周辺)



アキアカネ (樫谷)



ヤスマツトビナナフシ (黒越谷)



オオキンカメムシ (芦屋浜)



コオイムシ (いもり池湿原)



ミズスマシ (いもり池湿原)



ヘイケボタル (岩園町)



ヤマトオサムシダマシ (岩園町)



ホシベニカミキリ (芦屋浜)

2. 特異な生態や形態をした種



カツラネクイハムシ (いもり池湿原)



オオヒゲナガハナアブ (樫谷)



ミヤマカワトンボ (奥池町1)



マツモムシ (石島池周辺)



ルイスジンガサハムシ (いもり谷)



ツバキシギゾウムシ♀ (奥池南町)



キカマキリモドキ (蛇谷)

3. 北上種・外来種 (移入種)



台湾ウチワヤンマ (仲の池)



アオマツムシ (山芦屋町)



左オンプバッタ (在来種) (打出小槌町)  
右アカハネオンプバッタ (外来種) (岩園町)



マツヘリカメムシ (ゴロゴロ岳)



クスベニヒラタカスミカメ (山麓公園)



ヨコツナサシガメ (奥池)



キマダラカメムシ (芦屋浜)



チャゴマフマミキリ (芦屋浜)



ラミーカミキリ (奥池~石島池)



エンジュマメゾウムシ (芦屋浜)



キベリハムシ (前山公園)

4. 芦屋市のクワガタムシ



樹液に集まるクワガタムシ (奥山キャンプ場跡)



ミヤマクワガタ (♂♀)  
(♂奥山キャンプ場跡、♀東おたふく山)



ノコギリクワガタ (♂♀)  
(高座の溝道)



コクワガタ (♂♀) (♂奥池♀榎谷)



スジクワガタ (♂♀)  
(奥山キャンプ場跡)

<芦屋市で見られなくなったハッチョウトンボ>



2007.6.17 いもり谷湿原 (現保護地区)  
古市景一氏提供

## 井吹台谷口公園の昆虫類と虫こぶ (付録：神戸市の虫こぶの文献記録)

池田 健一<sup>1)</sup>

井吹台谷口公園は兵庫県神戸市西区井吹台西町に位置し、新興住宅地に道路を挟んで隣接しており、住宅地側にあたる南東側は公園用に施工された芝生が広がっており、施工以前から残されていると思われるクリ *Castanea crenata* Siebold & Zucc. やマルバヤナギ *Salix chaenomeloides* Kimura などの樹木とモミジバフウ *Liquidambar styraciflua* L. やエノキ *Celtis sinensis* Pers. のような街路樹が少数見られる。ただし、施工後手入れが行われていない芝生の一部はイネ科草原へと遷移している。反対の北西側は施工以前から残されていると思われるコナラ *Quercus serrata* Murray が少数混じった照葉樹林がある。これまで筆者は何度か公園内で動植物を撮影してきており、既にマメイタイセキグモについて報告している (池田, 2020)。だが、同地点の生物相に関する報告は筆者が確認する限り、これを除いて殆ど無いものと思われる。2016年8月9日と11日に目視で簡易な観察を行った所、昆虫および虫こぶ (虫瘤, 虫えい, 虫瘻) について網羅性はないが、ある程度まとまった記録になったのでこの2日分についてここに報告する。大部分が同地点内の記録であるが、オヒシバクロアブラムシとコクロハバチは公園外である。カジリムシ目・カメムシ目の分類・学名・配列は日本昆虫目録編集委員会 (2016)、バッタ目の分類・学名・配列は日本直翅類学会 (2016)、ゾウムシ科の分類・学名は鈴木 (2020)、ハバチ科の分類・学名は内藤ら (2020)、タマバチ科の分類・学名は日本昆虫目録編集委員会 (2020)、チョウ目の分類・学名は神保 (2020)、日本昆虫目録編集委員会 (2013) による。文献上、兵庫県初記録の可能性のある種には学名の末尾に \* をつけた。記録は本研究で発見された「データ」の項では、確認个体数、撮影年月日を示した。撮影は全て筆者である。「文献記録」の項では、筆者が確認した、県内で記録がある文献の地点を示した。確認できたものはできるだけ含めたが、地域目録のようなインターネット上未公開で閲覧困難な文献などは参照できていないので、網羅は出来てない可能性が高い。「備考」の項では同定の根拠や生態を示した。兵庫県既記録種は詳細な同定根拠や、写真は省略した。フ

ジ葉下面に虫こぶを形成する未同定のタマバチ科の一種及び兵庫県初記録の可能性のある種では県外およびインターネット上の記録も示し、種の分布情報の整理に努めた。

### カジリムシ目 (咀嚼目) Psocodea

1. オオウロコチャタテ *Stimulopalpus japonicus* Enderlein, 1907\* (ウロコチャタテ科 Amphientomidae) (図1)

【データ】1ex., 2016.08.11., 側溝側面のコンクリート上

【文献記録】なし?

【備考】同科には2種いるが (日本昆虫目録編集委員会, 2016), オオウロコチャタテにみられる頭部に1対の淡黄褐色の円斑を (伊藤, 1977; 吉澤, 2000), 肉眼で確認していることと、伊藤 (1977) の標本と暗褐色の地に灰白色の斑紋が類似していることから、本種とした。ただし、筆者は同科の日本未同定種と思われる個体を大阪で確認している (池田, 未発表), 留意する必要がある。県外では Johnson et al. (2020) 及び筆者が確認する限り、東京都 (伊藤, 1977; 吉澤, 2000), 愛知県 (間野, 2018), 奈良県 (奈良県レッドデータブック改訂委員会, 2017), 岡山県 (Enderlein, 1907: この記録は岡山県野生動物調査検討会 (2020) の分布記録整理に含まれていない), 四国県不明 (富田・芳賀, 1992), 福岡県 (吉澤, 2016) で記録がある。インターネット上では、2012年8



図1 オオウロコチャタテ。

<sup>1)</sup> Kenichi IKEDA 生態情報



図2 ナガケチャタテ.

月 10 日に明石公園の記録がある (おちゃたてむし, 2012 投稿).

2. ナガケチャタテ *Mepleres suzukii* (Okamoto, 1910)\* (ニセケチャタテ科 Pseudocaeciliidae) (図 2)

【データ】 1ex., 2016.08.11., ヤブツバキ *Camellia japonica* L. 葉下面

【文献記録】 なし?

【備考】 同属には 2 種いるが (日本昆虫目録編集委員会, 2016), ナガケチャタテでは, 区分された褐色の斑紋を伴った前翅持ち, 本州~九州で確認されることから (Yoshizawa, 2000), 本種とした. Johnson et al.(2020) 及び筆者が確認する限り, 京都府 (Okamoto, 1910: この記録は京都府自然環境保全課 (2015) の分布記録整理に含まれていない), 東京都, 千葉県, 愛知県, 高知県, 福岡県 (Yoshizawa, 2000: この記録は間野 (2018) の分布記録整理に含まれていない), 東京都 (吉澤, 2000), 奈良県 (奈良県レッドデータブック改訂委員会, 2017) の記録を確認したが, 兵庫県の記録はなかった. インターネット上では, 2010 年 1 月中旬に明石公園の記録がある (おちゃたてむし, 2010 投稿).

カメムシ目 (半翅目) Hemiptera

3. ヌルデシロアブラムシ *Schlechtendalia chinensis* (Bell, 1851) (アブラムシ科 Aphididae)

【データ】 ヌルデ *Rhus javanica* L. var. *chinensis* (Mill.) 葉の多数の虫こぶ (=ヌルデミミフシ), 2016.08.09. 目撃のみ

【文献記録】 神戸市 (井手, 1928; 広瀬, 1986), 西宮市 (吉田, 2019)

4. アキニレヨスジワタムシ *Tetraneura akinire* Sasaki, 1904 (アブラムシ科 Aphididae)

【データ】 アキニレ *Ulmus parvifolia* Jacq. 葉の多数の虫こぶ (=アキニレハフクロフシ), 2016.08.09.

【文献記録】 神戸市 (吉田, 2019)

5. オヒシバクロアブラムシ *Hysteroneura setariae* (Thomas, 1878)\* (アブラムシ科 Aphididae) (図 3)



図2 オヒシバクロアブラムシ.

【データ】 多数の無翅型, 2014.09.09., 公園外, オヒシバ *Eleusine indica* (L.) 茎; 多数の無翅型, 2016.08.09., 公園外, オヒシバ茎

【文献記録】 なし?

【備考】 オヒシバクロアブラムシではイネ科に寄生し, 体は暗褐色~黒色で角状管も黒色, 尾片は白色, 脛節は体に比べて淡色であることから (松本, 2008), 本種とした. 高橋・稲泉 (1988) が日本初記録の外来種で, 県外では筆者が確認する限り, 茨城県 (松本, 2008), 東京都 (松本, 2000; 杉本, 2003), 静岡県 (廣森ら, 2002: この記録は静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 (2020) の分布記録整理に含まれていない), 岡山県 (岡山県野生動物調査検討会, 2020), 島根県 (吉富・安達, 2013), 愛媛県 (安達・吉富, 2012), 沖縄県 (中谷ら, 2016) で記録がある. インターネット上では 2009 年 11 月に淡路島で記録がある (uni2, 2020 最終更新).

6. シラカシトガリキジラミ *Trioza* sp. (トガリキジラミ科 Triozidae)

【データ】 シラカシ *Quercus myrsinifolia* Blume 葉の多数の虫こぶ (=シラカシハクボミフシ), 2016.08.09.

【文献記録】 神戸市, 西宮市 (吉田, 2019)

7. アミガサハゴロモ *Pochazia albomaculata* (Uhler, 1896) (ハゴロモ科 Ricianiidae)

【データ】 1ex., 2016.08.09., アオキ *Aucuba japonica* Thunb. var. *japonica* 葉上面

【文献記録】 神戸市 (広瀬, 1986), 三田市 (片岡ら, 2019), 洲本市 (広地ら, 1977)

8. トサカゲンバイ *Stephanitis takeyai* Drake & Maa, 1955 (ゲンバウムシ科 Tingidae)

【データ】 1ex., 2016.08.09.

【文献記録】 高橋 (1990) の整理によると県内広域で記録あり

バッタ目 (直翅目) Orthoptera

9. ヤブキリ *Tettigonia orientalis* Uvarov, 1924 (キリギリ

ス科 Tettigoniidae)

【データ】1ex., 2016.08.09.

【文献記録】神戸市 (広瀬, 1986; 近藤, 2015; 吉田ら, 2020), 佐用町 (久保, 2019)

10. セスジツコムシ *Ducetia japonica* (Thunberg, 1815) (ツコムシ科 Phaneropteridae)

【データ】1 ♂ 幼虫, 2016.08.09., クズ *Pueraria lobata* (Willd.) 葉上面

【文献記録】尼崎市 (荒木ら, 2016), 神戸市 (近藤, 2015), 三木市 (植田・近藤, 2011)

ハエ目 (双翅目) Diptera

11. フジ葉下面に虫こぶを形成する未同定のタマバエ科の一種 *Cecidomyiidae* Gen. sp. (図 4)

【データ】フジ *Wisteria floribunda* (Willd.) の葉の 2 虫こぶ, 2016.08.09.

【文献記録】なし

【備考】ヤマフジハフクレフシは、フジの葉の下面にも形成され、半球形で、表面は平滑で黄緑色～緑褐色を呈する点は (中渡瀬, 1992), 類似しているが、明らかに葉からの突出が見られることから、別種であると考えられた。そのような虫こぶは湯川・榊田 (1996) にも記載がなく、調査した所、インターネット上で湯川 (2017 投稿) に「フジハウラタマフシ」と仮称されている虫こぶと同じものであるように思われた。関西で広く確認される可能性があると考え (湯川, 2018 投稿), まだ正式に記載されていないため、形態の比較などはできないが、重要だと思われるので先んじて公表しておく。

コウチュウ目 Coleoptera

12. カシワクチプトゾウムシ *Nothomylloceris griseus* (Roelofs, 1873) (ゾウムシ科 Curculionidae)

【データ】1ex., 2016.08.09.

【文献記録】高橋 (1998; 1999), 兵庫昆虫同好会事務局 (2000) の整理によると県内広域で記録あり。多可町 (兵庫昆虫同好会事務局, 2001), 市島町 (現丹波市) (稲畑, 2004)



図 4 フジ寄生の未記載タマバエ虫癭.

13. マルキバネサルハムシ *Pagria ussuriensis* Moseyko & Medvedev, 2005 (ハムシ科 Chrysomelidae)

【データ】1ex., 2016.08.11., コバノミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* D.Don ex G.Don 葉上面

【文献記録】加古川市 (今坂・南, 2008), 磯輪 (2012) には記録なし

ハチ目 (膜翅目) Hymenoptera

14. ナラメカイメンタマバチ *Aphelonyx acutissimae* Monzen, 1953 (タマバチ科 Cynipidae)

【データ】クヌギ *Quercus acutissima* Carruth. 葉の多数の虫こぶ (=クヌギハマルタマフシ), 2016.08.11.

【文献記録】神戸市 (井手, 1928; 吉田, 2019), 西宮市 (吉田, 2019)

15. コクロハバチ *Macrophya timida* Smith, 1874 (ハバチ科 Tenthredinidae)

【データ】1 幼虫, 2016.08.09., 公園外, ヨウシュイボタ *Ligustrum vulgare* L. 葉上面

【文献記録】県内広域 (内藤, 2004), 伊丹市 (後北ら, 2012; 井上, 2018), 宝塚市 (Shinohara, 2015), 太子町 (内藤ら, 2020)

チョウ目 (鱗翅目) Lepiptera

16. カキアシブサホソガ *Cuphodes diospyrosella* (Issiki, 1957)\* (ホソガ科 Gracillariidae) (図 5)

【データ】1 幼虫, 2016.08.11., カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 葉上面

【文献記録】なし?

【備考】カキアシブサホソガの幼虫ではカキノキに寄生し、ボート型の繭をつくり、繭表面に多数の泡粒上の顆粒をのせることから (久万田ら, 2013), 本種とした。高島 (2004) でホソガ科の兵庫県記録種が 3 種であるとされているが、その内訳について筆者は確認できなかった。県外では筆者が確認する限り、石川県, 福岡県 (鈴木, 2018 最終更新: ただしこの記録出典



図 5 カキアシブサホソガ幼虫.



元は記載がないため筆者未確認), 長野県(久万田ら, 2013), 東京都(大和田ら, 2000; 大和田ら, 2005), 静岡県(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 2020), 愛知県(間野, 2016), 奈良県(小田ら, 1974: この記録は奈良県レッドデータブック改訂委員会(2017)の分布記録整理に含まれていない)で記録があるが, 兵庫県(兵庫県の記録は確認できなかった。記録はその他にも「誘蛾燈」誌上などに含まれる可能性があるが膨大なため本稿では検討できなかった。インターネット上では2006年9月1日に洲本市(鈴木, 2018 最終更新), 2010年8月19日に明石公園(おちゃたてむし, 2010 投稿)で記録がある。

17. キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C. Felder & R. Felder, 1864 (アゲハチョウ科)  
 【データ】1 幼虫, 2016.08.09., セリ *Oenanthe javanica* (Blume) 上  
 【文献記録】県内広域(佐々木, 1976; 広畑・近藤, 2007)

付録 神戸市の虫こぶの文献記録

本稿執筆中, 井手(1928)という文献を確認した。

これは湯川・榎田(1996)が引用しているが, 吉田(2019)でも言及がなく, 埋没している文献だと思われる。この文献は神戸市の「背の山地」(六甲山?)であること以外の地点の記述がないことや, 湯川・榎田(1996)以降の現代的な虫こぶ名及び標準和名の記載がなく, 不備もあるが, 今後の虫こぶ県内記録の精査や兵庫県野生生物目録の作成などで重要だと思われるので, ここに湯川・榎田(1996)における虫こぶ名及び形成者の標準和名とともに記載しておく(表1)。「井手(1928)の虫こぶ名」の項の括弧内は井手(1928)で併記されていた虫こぶの特徴を要約したものである。\*は吉田(2019)で記録がないものがあるが, クヌギエダイガタマバチのみ井上(2018)で記録があるため, つけていない。なお, 湯川・榎田(1996)は井手(1928)を引用しているものの, 県の表記がなく鹿児島市と神戸市の記録の対応が不明なため, 筆者が井手(1928)の表記から推測しており, 対応は確定的なものではない。井手(1928)の標本が残っているかは不明であり, 有識者に更なる井手(1928)の記録の検討と現代的な追加記録の報告を望むものである。

表1 井手(1928)と湯川・榎田(1996)を対応させた虫こぶリスト。

井手(1928)の番号	井手(1928)の虫こぶ名	湯川・榎田(1996)の虫こぶ名	湯川・榎田(1996)で示された形成者
2.	イノコヅチの茎が膨れる虫こぶ	イノコヅチクキマルズイフシ*, 寄主がヒナタイノコヅチと区別されているかは不明	イノコヅチウロコタマバエ <i>Lasioptera achyranthii</i> Shinji, 1939*
5.	ヤマアザミの茎が膨れる虫こぶ(双翅目)	湯川・榎田(1996)に候補がなく不明	不明
6.	ヒサカキの茎が膨れる虫こぶ	ヒサカキエダコブフシ*	ヒサカキエダタマバエ(学名未決定)*
7.	ナワシロイチゴの茎が膨れる虫こぶ	イチゴクキコブフシ*	イチゴウロコタマバエ <i>Lasioptera rubi</i> (Schrank, 1803)*
8.	ヨモギの茎が膨れる虫こぶ(鱗翅目?)	ヨモギクキツフシ*	トビモンシロヒメハマキ <i>Eucosma metzneriana</i> (Treitschke, 1830)*
10-1.	コナラの茎上に生じる虫こぶ(大球果状)	ナラメイガフシ*	ナラメイガタマバチ <i>Andricus mukaigawae</i> (Mukaigawa, 1913)*
10-2.	クヌギの茎上に生じる虫こぶ(大球果状)	クヌギエダイガフシ*	クヌギエダイガタマバチ <i>Trichagalma serratae</i> (Ashmead, 1904)*
11.	コナラの茎上に生じる虫こぶ(梅果実大, 柔らかく, 開花期)	ナラメリンゴフシ*	ナラメカイメンタマバチ <i>Aphelonyx glanduliferae</i> Mukaigawa, 1920
12.	ウツギの茎上に生じる虫こぶ	湯川・榎田(1996)に候補がなく不明	不明
13.	ヨモギの茎上に生じる虫こぶ(長い白毛)	ヨモギクキワタフシ*	ヨモギワタタマバエ <i>Rhopalomyia giralddii</i> Kieffer & Trotter, 1900*
14.	ヨモギの茎上に生じる虫こぶ(むかご状)	ヨモギクキコブフシ*	ヨモギクキコブタマバエ <i>Rhopalomyia struma</i> Monzen, 1937*
15.	コナラの茎上に生じる虫こぶ(膨れた枝に出る小球)	ナラエダムレタマフシ*	ナラエダムレタマバチ <i>Callirhytis hakonensis</i> Ashmead 1904*

井手 (1928) の番号	井手 (1928) の虫こぶ名	湯川・榎田 (1996) の虫こぶ名	湯川・榎田 (1996) で示された形成者
16.	ヤマシロギクの茎上に生じる虫こぶ (栗の雌花状に密生, 葉にも出る)	ヤマシロギクキツトフシ *	タマバエ科の一種 *
19.	イスノキの葉の両面に生じその両面に突出する虫こぶ	イスノキハタマフシ	ヤノイスアブラムシ <i>Neothoracaphis yanonis</i> (Matsumura, 1917)
20.	ウツギの葉の両面に生じその両面に突出する虫こぶ	ウツギハフクレフシ *	タマバエ科の一種 *
21.	フジの葉の両面に生じその両面に突出する虫こぶ	ヤマフジハフクレフシ *	タマバエ科の一種 *
22.	クズの葉の両面に生じその両面に突出する虫こぶ (双翅目)	クズハトガリタマフシ	クズトガリタマバエ <i>Pitydiplosis pueariae</i> Yukawa, Ikenaga & Sato, 2011
23.	クリの葉の両面に生じその両面に突出する虫こぶ (粟粒大)	クリハイボフシ *	クリフシダニ <i>Eriophyes japonicus</i> (Huang, 1971)*
30.	アラカシの葉の片面に生ずる虫こぶ (饅頭形二室)	不明	不明
31.	アラカシの葉の片面に生じる虫こぶ (杯状一室)	カシハサカズキタマフシ *	カシハサカズキタマバチ (学名未決定) *
32.	クズの葉の片面に生じる虫こぶ	クズハウラタマフシ *	タマバエ科の一種 *
33.	ミズナラの葉の片面に生じる虫こぶ	候補が多数あり不明	不明
34-1.	アベマキの葉の片面に生じる虫こぶ (球形, 膜翅目)	候補が多数あり不明	不明
34-2.	クヌギの葉の片面に生じる虫こぶ (球形, 膜翅目)	候補が多数あり不明	不明
35.	クヌギの葉の片面に生じる虫こぶ (偏球状, 蛇の目状, 黄褐色の毛がある)	クヌギハケツボタマフシ	クヌギハケツボタマバチ <i>Neuroterus nawai</i> Ashmead, 1904
36.	エノキの葉の片面に生じる虫こぶ	候補が多数あり不明	不明
37.	ヨモギの葉の片面に生じる虫こぶ (円錐形)	ヨモギハヒメエボシフシ * またはヨモギハエボシフシ *	ヨモギヒメタマバエ <i>Rhopalomyia</i> sp.* またはヨモギエボシタマバエ <i>Rhopalomyia yomogicola</i> (Matsumura, 1931)*
38.	オノオレカンバ?の葉の片面に生じる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく不明, 県内にオノオレカンバは分布しない	不明
39.	フジの葉の片面に生じる虫こぶ	ヤマフジハイボフシ *	タマバエ科の一種 *
40.	ヨモギの葉の片面に生じる虫こぶ (球形一室)	ヨモギハシロケタマフシ *	ヨモギシロケフシタマバエ <i>Rhopalomyia cinerarius</i> Monzen, 1937*
41.	ナワシロイチゴの葉の片面に生じる虫こぶ	ナワシロイチゴハケフシ *	フシダニ科の一種 *
42-1.	コナラの葉の片面に生じる虫こぶ (中肋上の黒紅色球体)	ナラハヒラタマルタマフシ *	ナラハヒラタマルタマバチ (学名未決定) *
42-2.	アベマキの葉の片面に生じる虫こぶ (中肋上の黒紅色球体)	クヌギハマルタマフシ	クヌギハマルタマバチ <i>Aphelonyx acutissisimae</i> Monzen, 1953
44.	ナナミノキ?の葉に生じる虫こぶ (双翅目)	ナナミノキハフクレフシ *	タマバエ科の一種 *
45.	ネジキの葉に生じる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく不明	不明
46-1.	ノジギクの葉に生じる虫こぶ (徳利状)	ノジギクメナガツボフシ *	ヨモギタマバエ属の一種 <i>Rhopalomyia</i> sp.*
46-2.	ヨモギの葉に生じる虫こぶ (徳利状)	ヨモギメナガツボフシ *	ヨモギナガツボタマバエ <i>Rhopalomyia longitubifex</i> (Shinji, 1938)*
47.	ヨモギの葉に生じる虫こぶ (扁桃状)	ヨモギハベリマキフシ? 扁桃状と表現するのは疑問	ヨモギクダナシアブラムシ <i>Cryptosiphum artemisiae</i> Buckton, 1879 ?

井手 (1928) の番号	井手 (1928) の虫こぶ名	湯川・榎田 (1996) の虫こぶ名	湯川・榎田 (1996) で示された形成者
50.	イノコヅチの花托を膨大させる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
51.	ガマズミの果実を膨大させる虫こぶ	ガマズミミケフシ* またはガマズミ ミフクレフシ*	ガマズミミケフシタマバエ <i>Pseudasphondylia rokuharensis</i> Monzen, 1955* またはタマバエ科の一種*
52.	コックバネウツギ?の梢端に生じる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
53.	マルバハギの梢端に生じる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
54.	イスノキの特異な虫こぶ (葉が袋状に木化, 内部は空洞, イスフシの寄生)	イスノキエダチャイロオオタマフシ*	モンゼンイスアブラムシ <i>Nipponaphis monzeni</i> Takahashi, 1958
55.	ヌルデの特異な虫こぶ (小葉の中肋から突起, 珊瑚状に分岐)	ヌルデハサンゴフシ* またはヌルデ ハベニサンゴフシ*	ハナフシアブラムシ <i>Nurudea shiraii</i> (Matsumura, 1917)* またはヤノハナフシアブラムシ <i>Nurudea yanoniella</i> (Matsumura, 1917)*
56.	ヌルデの特異な虫こぶ (葉の中軸から突出し不整形瘤状, 多少分岐)	ヌルデミミフシ	ヌルデンシロアブラムシ <i>Schlechtendalia chinensis</i> (Bell, 1851)
57.	ハギの寄生虫が植物体外にある虫こぶ (新小葉が莢果状)	ヤマハギハトジタマゴフシ*	ハギハトジコブタマバエ (学名未決定)*
58.	テリハノイバラの寄生虫が植物体外にある虫こぶ (新芽膨大)	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
59.	カマツカの寄生虫が植物体外にある虫こぶ (葉面が所々陥落, 反対はツツジもち病状のものが突出)	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
補 1.	ヨツバムグラの茎が膨れる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
補 2.	クヌギの葉に生じる虫こぶ (クヌギイボフシバチ)	現在の標準和名と学名の対応が不明	不明
補 3.	ヒキオコシの葉に生じる虫こぶ	湯川・榎田 (1996) に候補がなく 不明	不明
補 4.	クヌギの茎上に生じる虫こぶ (小球果状)	クヌギエダイガフシ? 10-2. との違い不明	クヌギエダイガタマバチ?

引用文献

安達修平・吉富博之, 2012. 愛媛県のアブラムシ. 愛媛県総合科学博物館研究報告, 17: 29-47.  
 荒木竜平・本郷岳・山岡大悟・鳥生大祐・山内拳史郎, 2016. 尼崎市緑地におけるバッタ類の環境選好性・共生のひろば, 11: 190.  
 Enderlein, 1907. The scaly winged Copeognatha (Monograph of the Amphientomidae, Lepidopsocidae, and Lepidillidae in relation to their morphology and taxonomy). Spolia Zeylanica, 4: 39-122.  
 広地昇・奈良隆史・木戸和伸, 1977. 三熊山の昆虫について. Parnassius, 17: 5-28.

廣森創・吉見麻由・廿日出正美, 2002. シバに寄生するアブラムシ類 2 種の摂食および寄主選好性に関する研究. 芝草研究, 30(2): 115-122.  
 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶, 岩峰社. 東京.  
 広瀬重夫, 1986. 神戸の自然 15 生田川の自然をさぐる, 121pp. 神戸市立教育研究所. 神戸.  
 兵庫昆虫同好会事務局, 2000. 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録 (4) 故高橋寿郎氏遺稿集 No.3. きべりはむし, 28(1): 32-41.  
 兵庫昆虫同好会事務局, 2001. 多可郡の甲虫相 故高橋寿郎氏遺稿集 No.9. きべりはむし, 29(1): 10-27.  
 井手清治, 1928. 鹿児島県及び神戸産虫癭目録. 博物同志會會報 1: 54-57.

- 池田健一, 2020. 兵庫県神戸市におけるマメイタイセキグモの記録. くものいと, 53: 1.
- 今坂正一・南雅之, 2008. 日本産 Pagria (キバネサルハムシ属) について一付. 東南アジア産数種の記録 - 佐賀の昆虫, 44: 253-263.
- 稲畑憲昭, 2004. 氷上郡市島町の昆虫 2. きべりはむし 31(2): 14-21.
- 井上治彦, 2018. 伊丹市のハチ. 伊丹市昆虫館研究報告, 6: 23-35.
- 磯輪亮太, 2012. 日本産キバネサルハムシ属 (ハムシ科, サルハムシ亜科) の地理的分布. さやばね ニューシリーズ, 7: 13-17.
- 伊藤修四郎, 1977. チャタテムシ目. pp.88-92. 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇 (編) 原色日本昆虫図鑑 下全改訂新版. 保育社. 大阪.
- 神保宇嗣, 2020.12.30. List-MJ 日本産蛾類総目録 [version 3]. <http://listmj.mothprog.com/>
- Johnson, K. P., Smith, V. S. & Hopkins, H. H., Last updated 2020. Psocodea Species File Online. Version 5.0/5.0. [retrieval date]. <http://Psocodea.SpeciesFile.org>
- 片岡義方・秋山重信・金子留美子・桜井正臣・竹川應仁・西岡 稔・平田登志子・山本由紀子・芳川雅美, 2019. 有馬富士公園の昆虫相 -2018年の昆虫調査-. きべりはむし, 42(1): 57-73.
- 近藤伸一, 2015. 鳴く虫の記録 -みんなで調べよう番外編 2012~2014-. きべりはむし, 37(2): 70.
- 久保弘幸, 2019. こんちゅうかんブログの生き物たち. きべりはむし, 42(1): 27-33.
- 久万田敏夫・小林茂樹・広渡俊哉, 2013. ホソガ科. 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則, 日本産蛾類標準図鑑 IV, 553pp. 学研教育出版. 東京.
- 京都府自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 別冊 京都府自然環境目録, 415pp. 京都府自然環境保全課. 京都.
- 間野隆裕, 2016. チョウ目 (ガ類). pp.223-354. 豊田市生物調査報告書作成委員会 (編) 豊田市生物調査報告書<分冊その2>. 豊田市. 豊田.
- 間野隆裕, 2018. グリーンデータブックあいち 2018 昆虫編. D-1-151. 愛知県の生物多様性 グリーンデータブックあいち 2018. 哺乳類・鳥類・爬虫類編, 両生類編, 汽水・淡水魚類編, 昆虫編, クモ編, 苔類・ツノゴケ類編, 愛知県環境部自然環境課. 名古屋. <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/greendatabook.html>
- 松本嘉幸, 2000. 皇居のアブラムシ. 国立科学博物館 専報, 36: 83-98.
- 松本嘉幸, 2008. アブラムシ入門図鑑, 239pp. 全国農村教育協会. 東京.
- 中渡瀬亜紀, 1992. ヤマフジの葉に形成されるタマバエの虫えい. 鹿児島県立博物館研究報告, 11: 5-8.
- 内藤親彦, 2004. 兵庫県におけるハバチ類の種多様性. 兵庫県立人と自然の博物館自然環境モノグラフ, 1: 1-85.
- 内藤親彦・篠原明彦・原秀穂・伊藤ふくお, 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑, xvi, 530pp. 北海道大学出版会. 札幌.
- 中谷至伸・吉松慎一・吉武啓・宮崎昌久, 2016. 農業環境技術研究所所蔵の宗林正人アブラムシ科 (昆虫綱: カメムシ目) コレクション標準目録. 農業環境技術研究所報告, 37: 57-132.
- 奈良県レッドデータブック改訂委員会, 2017. 奈良県野生生物目録, 422pp. 暮らし創造部景観・環境局景観・自然環境課. 奈良.
- 日本直翅類学会, 2016. 日本産直翅類標準図鑑, 384pp. 学研プラス. 東京.
- 日本昆虫目録編集委員会, 2013. 第7巻 鱗翅目 第1号 セセリチョウ上科 - アゲハチョウ上科, xxv, 119pp. 権歌書房. 福岡.
- 日本昆虫目録編集委員会, 2016. 日本昆虫目録 第4巻 準新翅類, xxxiii, 629pp. 権歌書房. 福岡.
- 日本昆虫目録編集委員会, 2020. 日本昆虫目録 第9巻 膜翅目 第2部 細腰亜目寄生蜂類, xxvi, 693pp. 権歌書房. 福岡.
- 小田道宏・浅田幸男・上住泰, 1974. カキ害虫の新防除体系に関する研究. 奈良県農業試験場研究報告, 6: 76-86.
- Okamoto, H., 1910. Die Caeciliiden Japans. Annales historico-naturales Musei nationalis Hungarici, 8: 185-212.
- 岡山県野生動物調査検討会, 2020. 岡山県野生生物目録 2019, 516pp. 岡山県環境文化庁自然環境課. 岡山.
- 大和田守・有田豊・岸田泰則・池田真澄・神保宇嗣, 2000. 皇居の蛾類, 国立科学博物館 専報, 36: 115-168.
- 大和田守・有田豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・新津修平・慶野志保子, 2005. 赤坂御用地の鱗翅類. 国立科学博物館 専報, 39: 55-120.
- 佐々木方, 1976. 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録 (その1) アゲハチョウ科. シロチョウ科. ひろおび, 1: 1-11.
- Shinohara, A., 2015. Japanese sawflies of the genus *Macrophya* (Hymenoptera, Tenthredinidae), taxonomic notes and key to species. Bulletin of the National Science Museum, Series A, Zoology, 41(4):

- 225-251.
- 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 2020. 静岡県野生生物目録 2020, 255pp. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課. 静岡. <http://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-070/wild/mokuroku.html>
- 杉本俊一郎, 2003. 埋立地に発生するアブラムシ類. 植物防疫所調査研究報告, 39: 29-40.
- 鈴木茂, 2020. 日本列島の甲虫全種目録 (2020年). <https://japanesebeetles.jimdofree.com/>
- 鈴木隆之, 2018 最終更新. みんなで作る日本産蛾類図鑑 V2. <http://www.jpmoth.org/>
- 高橋滋・稲泉三丸, 1988. 日本未記録の数種のアブラムシの発見とその生態について. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 32: 149.
- 高橋寿郎, 1974. 兵庫県の異翅亜目 (2). きべりはむし, 3(1): 1-6.
- 高橋寿郎, 1990. 兵庫県のゲンバムシ (2). きべりはむし, 18 (2): 27-31.
- 高橋寿郎, 1998. 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録 (2) 兵庫県甲虫相資料・344. きべりはむし, 26(2): 1-7.
- 高橋寿郎, 1999. 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録 (3). きべりはむし, 27(2): 47-53.
- 高島昭, 2004. 兵庫県で確認された蛾の種類数について 兵庫県産蛾類分布資料・29. きべりはむし, 31(2): 11-13.
- 富田康弘・芳賀和夫, 1992. 日本産チャタテムシ目の目録と検索表. 菅平高原実験センター研究報告, 12: 35-54.
- 植田義輔・近藤伸一, 2011. 直翅目 2種(ヒサゴクサキリ・ウスグモスズ) の採集例. きべりはむし, 34(1): 19.
- 後北峰之・奥山清市・坂本昇・野本康太・角正美雪・長島聖大, 2012. 昆陽池公園の昆虫伊丹市昆虫館収蔵資料目録, 36pp. 伊丹市昆虫館. 兵庫.
- 吉田浩史, 2019. 兵庫県における虫えいの確認記録. きべりはむし, 42(2): 40-43.
- 吉田滋弘・西浦睦子・住田公一郎・住田鈴子・薦田佳郎・高田要・藤井真理・吉田やよい, 2020. 鳴く虫調査キーナの森. 共生のひろば, 15: 40.
- 吉富博之・安達修平, 2013. 鳥根県のアブラムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, 16: 219-240.
- Yoshizawa, K., 2000. Redescription of *Mepleres suzukii* (Okamoto), with Comments on Synonymy among *Mepleres*, *Pseudoscottiella* and *Meniscopsocus* (Psocodea: Psocoptera: Pseudocaeciliidae). *Entomological science*, 3(4): 669-674.
- 吉澤和徳, 2000. 皇居の動物相調査で得られたチャタテムシ目昆虫. 国立科学博物館専報, 36: 29-34.
- 吉澤和徳, 2016. 昆虫学概論・各目解説 (1) 咀顎目 (カジリムシ目) の系統的位置と高次体系. 昆虫 ニューシリーズ, 19(3): 112-120.
- 湯川淳一・榎田長, 1996. 日本原色虫えい図鑑, 826pp. 全国農村教育協会. 東京.
- 引用サイト (「インターネット上の記録」として用いたもの)
- おちゃたてむし, 2010年1月23日投稿. 明石・神戸の虫ときどきプランクトン. ナガケチャタテ (タイトル変更). <http://mushi-akashi.cocolog-nifty.com/blog/2010/01/post-3edb.html>
- おちゃたてむし, 2010年8月25日投稿. 明石・神戸の虫ときどきプランクトン. カキアシブサホソガ. <http://mushi-akashi.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-36f6.html>
- おちゃたてむし, 2012年8月23日投稿. 明石・神戸の虫ときどきプランクトン. オオウロコチャタテ. <http://mushi-akashi.cocolog-nifty.com/blog/2012/08/post-fce2.html>
- uni2, 2020年11月26日最終更新. 淡路島の生き物たち 3庭・野山 その他の昆虫 (6-2) アブラムシ (2). <http://uni2008.web.fc2.com/htm/sonotak6-2abur.html>
- 湯川淳一, 2017年7月26日投稿 (2021年1月17日閲覧). Re: フジの虫えい. <http://gallersclub.coo.net/gallersclub18/gallers.cgi?page=340&res%3A2775>
- 湯川淳一, 2018年11月4日投稿 (2021年1月17日閲覧). Re: 和歌山県のフジハウラタマフシ. <http://gallersclub.coo.net/gallersclub18/gallers.cgi?res:3374=1>

## 兵庫県で報告の少ないヤガ科について

坪田 瑛<sup>1)</sup>

### はじめに

筆者はこれまでに兵庫県で報告の少ないヤガ科(ケンモンヤガ亜科7種, タバコガ亜科2種, モンヤガ亜科3種, ヨトウガ亜科20種)を確認しているのここに報告する. 記載順序は大図鑑(井上ら 2000)に則った. なおニセタバコガ(坪田 2020)についてはすでに報告しているのここでは割愛した.

今回報告するガの採集(撮影)場所と標高は次のとおりである.

(i) 兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原); 約 1,050 m

(ii) 兵庫県朝来市生野町黒川; 約 480 m

(iii) 兵庫県神崎郡市川町屋形(播但連絡自動車道路市川サービスエリア); 約 110 m

### 各種資料

#### 1. アオケンモン *Belciades niveola* (Motschulsky, 1866)

8月25日に養父市丹戸でライトトラップを行ったところ午前0時40分頃に飛来した.

本種は山地および寒地のもので日本では北海道から九州まで分布しており稀ではないが, 本県では氷ノ山山系からしか見つかっていない(高島, 1998; 松尾, 2020). 本種の食草はシナノキである.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 25.VIII.2020. 1♂.

#### 2. ニッコウアオケンモン *Nacna malachitis* (Oberthür, 1880)

養父市丹戸および生野町黒川でライトトラップを行ったところそれぞれ1個体が飛来した.

本種は日本では北海道の道南地方および奥尻島, 礼文島, 本州, 四国, 九州に分布し, 6-9月に出現する. 本県では妙見山, 波賀町, 温泉町, 朝来市, 氷ノ山, 関宮町, 市島町に記録がある(高島, 1998). 食草はシソ科ニガクサ, クロバナヒキオコシである.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 24.VIII.2020. 1ex.,

1.IX.2020. 1♂, 兵庫県朝来市生野町黒川, 15.VI.2020. 1♂.

#### 3. スギタニアオケンモン *Nacna sugitanii* (Nagano, 1918)

市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアの西側階段付近にいるのを発見し撮影した.

本種の分布は本州, 四国, 九州であり, 秋田県付近を北限とする. 稀な種であり本県では妙見山, 黒田庄町, 八千代町, 波賀町, 朝来市, 関宮町, 市島町の記録(高島, 1998)と神河町(八木ら, 2003)だけである. 食草はシソ科テンニンソウである.

【撮影記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 17.VIII.2016. 1ex.

#### 4. スギタニゴマケンモン *Harrisimemna marmorata* Hampson, 1908

2020年8月に3回, 養父市丹戸でライトトラップを行ったところ合計12個体が飛来した.

本種は北海道, 本州, 四国, 九州に産し, 6月および8-9月に出現する. 本県では波賀町, 温泉町, 関宮町, 氷上町に記録がある(高島, 1998). 食草はスイカズラ科オオカメノキという.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 8.VIII.2020. 2exs, 16.VIII.2020. 3exs, 24.VIII.2020. 4exs, 31.VIII.2020. 3exs.

#### 5. オオホソバケンモン *Triaena cuspidata* (Hübner, [1813])

2020年8月16日に鉢伏高原でライトトラップを行ったところ飛来した. 本種は北海道, 本州に分布するが西南暖地では稀種であり, 本県では宝塚市, 波賀町, 関宮町(高島, 1998)および神河町(八木ら, 2003)に記録がある.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 16.VIII.2020. 1ex.

#### 6. キシタケンモン *Hylonycta catocaloida* (Graeser, 1889)

8月25日に養父市丹戸でライトトラップを行ったところ午前0時過ぎに相次いで3個体が飛来した.

本種は東北アジア冷温帯林のガで沿海州から朝鮮, 日本に分布する. 北海道, 本州のミズナラ林に産し四国, 九州では高地帯に見いだされる. 年1化で7-9月に出現する. 本県では妙見山, 姫路市, 大屋町(高

<sup>1)</sup> Teru TSUBOTA 兵庫県神崎郡市川町

島, 1998), 神河町 (八木ら, 2003), 佐用町 (藤江ら, 2011) に記録がある.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸 (鉢伏高原), 25. VIII .2020. 3exs.

7. ウスイロケンモン *Thalatha japonica* Sugi, 1982

2016 ~ 2019 年に兵庫県市川町で計 6 個体および 2020 年に生野町で 1 個体を採集した.

本種は日本特産種で関東地方南部 (高尾山) 付近を北限とし東海地方から紀伊半島, 四国, 九州北部, 対馬, 伊豆諸島の八丈島から得られている. 年 2 化と考えられ 5-6 月と 7-9 月に出現する.

本種の本県における公式記録は無く (高島, 1998) 一般に少ないと思われるが, 市川町ではしばしば目にする.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 15. VI .2017. 1ex., 20. VI .2017. 1ex., 26. VIII .2018. 1ex., 2. VI .2018. 1ex., 12. VI .2019. 1ex., 2. VIII .2019. 1ex., 兵庫県朝来市生野町黒川, 20. VI .2020. 1ex.

8. ウスオビヤガ *Pyrrhia bifasciata* (Staudinger, 1888)

市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアで 3 個体, 生野町黒川で 1 個体を採集している.

本種はタバコガ亜科のガで一般的に少ないガといわれている. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に産し, 本県では引原ダム, 氷ノ山, 日高町, 柏原町の記録がある (高島, 1999). 食草はオニグルミおよびキリである.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 3. VIII .2016. 1ex., 22. VI .2018. 1ex., 21. VIII .2019. 1ex., 兵庫県朝来市生野町黒川, 28. VI .2020. 1ex.

9. アカヘリヤガ *Adisura atkinsoni* Moore, 1881

市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアの上下線を繋ぐ地下トンネルの西側出口付近で採集した.

本種はタバコガ亜科のガで前翅外横線が点列であり, 全体的に淡いピンク色で前翅前縁部は濃いピンク色を呈することが特徴である. 日本では関東地方以西, 四国北部, 九州北部に散発的な記録があり, 本県でも神戸市, 宝塚市, 黒田庄町, 生野町での報告があるようだ (高島, 1999). 食草はアオイ科およびマメ科の植物が知られている.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 29. IX .2018. 1ex.

10. ハコベヤガ *Xestia kollari pulumbata*

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ午後 9 時過ぎに 1 ♀が飛来した. また生野町黒川でも 9 月 29 日と 10 月 10 日にそれぞれ 1 ♂がライトトラップに飛来した. 本種は日本では北海道から九州に至る本土域と

対馬に産し, 年 1 化である (井上ら, 2000). 本県では神河町 (八木ら, 2003) に記録がある.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸 (鉢伏高原), 12. IX .2020. 1 ♀. 兵庫県朝来市生野町黒川, 29. IX .2020. 1 ♂, 10.X.2020. 1 ♂.

1 1. クロフトビイロヤガ *Xestia fuscostigma* (Bremer, 1861)

9 月 12 日に養父市丹戸でライトトラップを行ったところ 3 ♂と 1 ♀が, また 9 月 16 日には 1 ♀が飛来した. 本種はアジアの特産種で, 分布は沿海州, 朝鮮, 日本, 台湾, 中国西南部である. 日本では北海道, 東北地方, 関東北部および中部地方の山地に産し, 岡山県にも記録がある (井上ら, 2000). 本県では神河町に記録 (八木ら, 2003) がある.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸 (鉢伏高原), 12. IX .2020. 3 ♂ 1 ♀, 16. IX .2020. 1 ♀.

1 2. オオアオバヤガ *Anaplectoides virens* (Butler, 1878)

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ, 7 月 31 日に 2 ♂と 1 ♀, 8 月 16 日に 1 ♂, 8 月 24 日には 4 個体が飛来した.

オオアオバヤガの日本での分布は北海道から九州までの本土域で, 年 1 化である (井上ら, 2000).

【採集記録】兵庫県養父市丹戸 (鉢伏高原), 31. VII .2020. 2 ♂ 1 ♀, 16. VIII .2020. 1 ♂, 24. VIII .2020. 4exs.

1 3. タイリクウスイロヨトウ *Hadula trifolii* (Hufnagel, 1766)

2017 年 9 月 17 日の午後 9 時過ぎに市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアのコンクリートの壁面にいるのを発見した.

本種は北方系のガで北海道, 秋田県, 新潟県などで報告されている. 6, 7, 9 月に得られており年 2 化と思われる (井上ら, 2000), 今回のガは 2 化のものと考えられる. 本県における報告は見当たらない.

【撮影記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 20. IX .2017. 1ex.

1 4. アオヤマキリガ *Orthosia aoyamensis* (Matsumura, 1926)

4 月下旬に養父市丹戸でライトトラップを行ったところ飛来した. 本種は北海道から九州に分布するが, 西南部では高地に限られる. 本種の記録が少ないのは早春の高地帯の調査が不十分であったためのような (高島, 2000). 年 1 化で 4 ~ 5 月に羽化する. 本県では波賀町と大屋町に記録がある (高島, 2000). 食草は各種の広葉樹である. 学名および和名は最初の発見地である北海道蘭越町の青山温泉に由来する (井上ら, 2000).

【採集記録】兵庫県養父市丹戸 (鉢伏高原), 25. IV .2020.

2exs.

15. ヨモギキリガ *Orthosia ella* (Butler, 1878)

いずれも市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアの建物の壁とドアに静止していたものを採集した。後翅はほぼ純白に近い。本種の幼虫はヨモギの葉を食べる。北海道, 本州, 四国の記録があり, 本県での記録は神戸市と神河町の2ヶ所である(高島, 2000)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 2.IV.2018.1ex,  
17.III.2019.1ex.

16. ミヤマフタオビキヨトウ *Mythimna matsumuriana* (Bryk, 1949)

養父市丹戸と生野町黒川でライトトラップを行ったところ, それぞれ1個体が飛来した。本種は北海道から九州まで分布するが西南日本では局地的で少なく, 本県では能勢妙見山(高島, 2000)と神河町(八木ら, 2003)に記録がある。高島は本県産の種といえるかどうか微妙であると述べている(高島, 2000)が, 神河町, 養父市および生野町で採集されたことは本種の定着を示していると思われる。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 16.VIII.2020.1ex.  
兵庫県朝来市生野町黒川, 27.VIII.2020.1♀.

17. オオフタオビキヨトウ *Mythimna grandis* Butler, 1878

7月31日に養父市丹戸でライトトラップを行ったところ午後9時半頃に飛来した。本種は北海道から九州に至る本土域に産するが西南部では高地に限られ, 四国や九州では稀である。年1化で7-8月に出現する。本県では神戸市, 鉢伏山, 関宮町(高島, 2000), 神河町(八木ら, 2003; 植田2009), 佐用町(藤江ら, 2011)に記録がある。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 31.VII.2020.1ex

18. カバイロキヨトウ *Mythimna iodochra* (Sugi, 1982)

8月12日に生野町黒川でライトトラップを行ったところ, 本種1個体が飛来した。本種は年2化であり, 春生はかってヒトツメキヨトウと呼ばれていた。湿地との結びつきが強いとされ, 極めて局地的な分布をするようだ。採集場所の環境は市川が直ぐ横に流れておりその両岸は国道を挟んで杉林もしくは雑木林であり, 川岸にはススキなどが茂っている。本県では黒田庄町, 大屋町, 関宮町, 西紀町で記録されている(高島, 2000)。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 12.VIII.2020.1ex.

19. カタハリキリガ *Lithophane rosinae* (Püngeler, 1906)

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ, 午後

8時頃にカタハリキリガ♀が飛来した。*Lithophane* 属の内, 前翅外縁角付近に黒色紋があるのは本種のみである。

本種は北海道から中部山地が主たる産地とされているが, 四国でも報告がある。本県では遊馬による波賀町引原での1♂(高島, 2001)と阪上らの報告(阪上ら, 2015)がある。

本種は11月頃に発生し, 越冬したガは4~5月頃に活動するとされており, インターネット検索結果でも3~5月の観察記録が圧倒的に多い。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 26.XI.2020.1♀

20. イチゴキリガ *Orbona fragariae pallidior* Warren, 1910

2020年12月8日に養父市丹戸の林道脇で糖蜜採集を行ったところ, 午後5時40分頃1個体が飛来した。触角から♀と判明した。12月11日は寒くて降霜が観測されたが, 糖蜜トラップには2個体が飛来した。触角からそれぞれ♂と♀であることが判明した。

本県におけるこれまでのイチゴキリガの記録は神戸市藍那, 明石市, 須磨鉢伏山と有馬富士(阪上ら, 2009)および養父市丹戸(松尾, 2020)のみである。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 8.XII.2020.1♀,  
11.XII.2020.1♂1♀.

21. ハイイロハガタヨトウ *Meganephria cinerea* (Butler, 1881)

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ, 2019年に2♀と2020年に1♂が飛来した。本種は日本では本州および九州に分布するがその産出は局地的である。本県では波賀町(高島, 2001), 鉢北高原(阪上, 2015), 鉢伏高原(松尾, 2020)で記録されている。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 4.X.2019.1♀,  
3.XI.2019.1♀, 13.XI.2020.1♂.

22. キュウシュウマエアカシロヨトウ *Leucapamea kyushuensis* (Sugi, 1958)

生野町黒川でライトトラップを行ったところ午後8時45分頃に飛来した。本種は日本特産種で年2化と考えられている。本種の報告は全国的に少なく, これまでに福岡県, 熊本県, 新潟県で採集されている(井上ら, 2000)。本県では初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 2.VII.2020.1♂.

23. ヒコサンコアカヨトウ *Anapamea apameoides* (Draudt, 1950)

2019年7月14日の午後10時前に播但連絡自動車道路市川サービスエリアのコンクリートの壁面にいるの



を発見し、採集した。

本種の日本での産地は、対馬、隠岐両島、福岡県、香川県など西部に限られその個体数は少ない。本県の記録も1例のみ(阪上, 2015)である。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 14. VII. 2019. 1 ♀.

#### 24. ショウブオオヨトウ *Celaena leucostigma* (Hübner, [1808])

市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアの上下線を繋ぐ地下通路で採集した。本種の斑紋は変化に富み、特に翅表は明るい紫褐色斑紋の鮮明な型や腎状紋に白色点を表す型などがあり(井上ら, 2000)、今回採集したものは前者に相当する。

本種の分布は北海道、および本州中北部であるが香川県小豆島にも記録がある。年1化で7-9月に出現する。食草はイネ科およびカヤツリグサ科であり、トウモロコシの苗を食害するという。本県では初記録と思われる(高島, 2002)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 29. VI. 2018. 1 ♂.

#### 25. エゾキシタヨトウ *Triphaenopsis jezoensis* Sugi, 1962

8月中旬から9月下旬にかけて養父市丹戸でライトトラップを行ったところ、計15個体を採集した。本種は北海道から九州の本土域に分布し、北海道、中部以北の山間部では多いが西南暖地では局地的で少ない。年1回の発生で夏の終わりから秋にかけて出現する。本県では能勢妙見山、波賀町、温泉町、大屋町に記録(高島, 2002)がある。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 16. VIII. 2020. 2exs, 24. VIII. 2020. 2exs, 31. VIII. 2020. 6exs, 12. IX. 2020. 2exs, 16. IX. 2020. 2exs, 25. IX. 2020. 1ex.

#### 26. ナカジロキシタヨトウ *Triphaenopsis postflava* (Leech, 1900)

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ、8月31日に2♀が飛来した。本種は日本では北海道から本州に産し、西方では岡山県、四国の剣山などの冷温帯域で採集されている。年1化で7-9月に出現する。本県では神戸市と関宮町(高島, 2002)および神戸町(八木ら, 2003)に記録がある。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 31. VIII. 2020. 2 ♀.

#### 27. アオアカガネヨトウ *Karana laetevirens* (Oberthür, 1884)

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ、8月16日に1♂、8月31日に2♂と3♀が飛来した。本種は日本では北海道から九州までの本土域と対馬、屋久

島、奄美大島に分布し年1化で6-8月に出現する。本県では六甲山系、能勢妙見山、波賀町、大屋町、市島町(高島, 2002)、神戸町(八木ら, 2003)、佐用町(藤江ら, 2011)で記録があるが少ない種とされている。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 16. VIII. 2020. 1 ♂, 31. VIII. 2020. 2 ♂ 3 ♀.

#### 28. ヨスジアカヨトウ *Pygopteryx suava* Staudinger, 1887

2019年と2020年の9月中旬から下旬にかけて養父市丹戸でライトトラップを行ったところ2019年に1♀と1♂が、2020年に2♂が飛来した。本種は東北アジアの特産で沿海州、朝鮮、中国、日本に分布。日本では北海道から九州に至る本土域に分布するがやや局所的な傾向がある。本県では波賀町と養父市丹戸(松尾, 2020)に記録がある。今まで本県で記録が少なかったのは発生時期が少し遅いためと推測されている(高島, 2002)が、決して少ないガではないと思われる。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 23. IX. 2019. 1 ♂, 28. IX. 2019. 1 ♀, 12. IX. 2020. 1 ♂, 16. IX. 2020. 1 ♂.

#### 29. フタホシヨトウ *Hoplodrina euryptera* Boursin, 1937

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ午後7時14分に飛来した。本種は日本では主に近畿以西、四国、九州北部、対馬で得られる。年1化で9月に出現する。本県では神戸市、波賀町、大屋町、神戸町(八木ら, 2003)で記録されているが、稀なガであるようだ。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 12. IX. 2020. 1ex.

#### 30. ハイロモクメヨトウ *Antha grata* (Butler, 1881)

市川町の播但連絡自動車道路市川サービスエリアの上下線を繋ぐ地下通路で採集した。本種の前翅は灰黄色で環状紋、腎状紋および亜外縁部は淡いピンク色を帯び、外縁部に白色線を表す。日本では東北地方を北限とし、中国地方から九州にわたり主として内陸部に産するがその産出は局所的である。年2化で5-7月および8-9月に出現する(井上ら, 2000)。本県では猪名川町と三日月町で記録されているのみである(高島, 2002)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 30. VII. 2016. 1ex., 3. VIII. 2018. 1ex..

#### 31. ヤナギキリガ *Ipimorpha retusa* (Linnaeus, 1761)

養父市丹戸でライトトラップを行ったところ午後7時55分に1♀が飛来した。

本種は北方系のガで分布は北海道および本州であり、西方は中国地方まで記録がある。食草はイヌコリヤナギである。本県では神戸町(八木ら, 2003)に記録がある。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 12. IX. 2020. 1 ♂.

### 3 2. ドロキリガ *Ipimorpha subtusa* ([Denis & Schiffermüller], 1775)

ライトトラップにより生野町で3個体, 養父市丹戸で1個体を採集した. 本種の分布は北海道, 東北地方から本州中部山地である. 本種の内外横線および環状紋, 腎状紋は黄褐色を呈する. 食草はヤナギ科ドロノキである. 本県での本種の報告は昨年が最初で(阪上ら, 2020), 今回は2例目となる. 大図鑑(井上ら, 2000)によると同属のヤナギキリガより少ないとなっている.

【採集記録】兵庫県朝来郡生野町, 17. VII. 2020. 1 ♂ 1 ♀, 10. X. 2020. 1 ♀, 兵庫県養父市丹戸(鉢伏高原), 12. IX. 2020. 1 ♂, 16. IX. 2020. 3 ♂

### 参考文献

- 井上寛, 杉次郎, 黒子浩, 森内茂, 川辺湛, 大和田守, 日本産蛾類大図鑑, 2000 第3刷, 講談社
- 植田義輔 2009, 2004年5,6,7月に砥峰高原で採集された蛾類, きべりはむし, 32(1): 44-48.
- 藤江隼平, 吉田浩史, 安達誠文, 吉田貴大, 旭和也, 藤原淳一, 安岡拓郎 2011, 佐用町昆虫館周辺の昆虫相-マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について-, きべりはむし, 33(2): 4-20.
- 阪上洗多, 船元祐亮, 安達誠文, 小西堯生 2009 須磨鉢伏山と有馬富士公園の興味深いキリガ, きべりはむし, 32(1): 28.
- 阪上洗多・徳平拓朗・菅澤祥史 2015. 兵庫県で記録の少ないキリガ亜科4種, きべりはむし, 37(2): 35-36.
- 阪上洗多 2015. ハイイロハガタヨトウをハチ北高原で採集, きべりはむし, 38(1): 29.
- 阪上洗多 2015. 兵庫県で記録の少ないヤガ科3種の三田市における採集記録, きべりはむし, 38(1): 49-51.
- 阪上洗多, 宮野昭彦, 後藤聖士郎, 岩下幸平, クルズスキー淳子, 間野隆裕, 松井悠樹, Khine Mon Mon Kyaw, 那須義次, 奥尉平, 富沢章, 外村俊輔, 屋宜禎 2020. 兵庫県で開催した第79回レピドプテリストセミナー(レピゼミ)で採集された蛾, 誘蛾燈 240: 32-40.
- 高島昭 1998, 兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科(兵庫県産蛾類分布資料・9), きべりはむし, 26(2): 44-58.
- 高島昭 1999, 兵庫県のキノコヨトウ亜科とタバコガ亜科(兵庫県産蛾類分布資料・11), きべりはむし, 27(1): 22-27.
- 高島昭 2000, 兵庫県のヨトウガ亜科(兵庫県産蛾類分布資料・18), きべりはむし, 28(2): 59-76.
- 高島昭 2001, 兵庫県のセダカモクメ亜科(兵庫県産蛾類分布資料・20), きべりはむし, 29(1): 34-49.
- 高島昭 2002, 兵庫県のカラスヨトウ亜科(その1)(兵庫県産蛾類分布資料・24), きべりはむし, 30(1): 80-93.
- 高島昭 2002, 兵庫県のカラスヨトウ亜科(その2)(兵庫県産蛾類分布資料・26), きべりはむし, 30(2): 32-43.
- 坪田瑛 2020, ニセタバコガを兵庫県養父市丹戸で採集, きべりはむし, 43(2): 54.
- 松尾隆人 2020, 氷ノ山・鉢伏山の注目すべき蛾類の記録, きべりはむし, 43(1): 29-35.
- 八木剛, 中西明徳, 稲畑憲昭, 杉野広一, 植田義輔, 勝又千寿代, 木全俊明他 2003, 砥峰高原の昆虫相—2002年の昆虫調査から—(第一部), きべりはむし, 31(1): 1-46.



図1 アオケンモン♂、開張 38mm



図2 ニッコウアオケンモン



図3 スギタニアオケンモン



図4 スギタニゴマケンモン♀  
(開張 32mm)



図5 オオホソバケンモン (開張 47mm)



図6 キンタケンモン (開張 45mm)



図7 ウスイロケンモン (開張 31mm)



図8 ウソピヤガ (開張 35mm)



図9 アカヘリヤガ



図10 ハコベヤガ♀ (開張 45mm)



図11 クロフトビロヤガ♂  
(開張 43mm)



図12 オオアオバヤガ♀ (開張 67mm)



図13 タイロクウスイロヨトウ



図14 アオヤマキリガ (開張 45mm)



図15 ヨモギキリガ



図16 ミヤマフタオビキヨトウ  
(開張 43mm)



図17 オオフタオビキヨトウ♀  
(開張 53mm)



図18 カバイロキヨトウ (開張 31.5mm)



図 19 カタハリキリガ♀ (開張 45mm)



図 20 イチゴキリガ♀ (開張 57mm)



図 21 ハイイロハガタヨトウ♂  
(開張 41mm)



図 22 キュウシュウマエアカシロヨトウ♂  
(開張 34.5mm)



図 23 ヒコサンコアカヨトウ♀  
(開張 39mm)



図 24 ショウプオオヨトウ (開張 39mm)



図 25 エゾキントヨトウ♀ (開張 46mm)



図 26 ナカジロキントヨトウ



図 27 アオアカガネヨトウ♀  
(開張 40mm)



図 28 ヨスジアカヨトウ♂ (開張 36mm)



図 29 フタホシヨトウ♀ (開張 34mm)



図 30 ハイイロモクメヨトウ



図 31 ヤナギキリガ♀ (開張 29mm)



図 32 ドロキリガ♂ (開張 33mm)

## 兵庫県西宮市におけるギフチョウ, ミドリシジミ, オオチャイロハナムグリの記録

中本 南<sup>1)</sup>・神吉 正雄<sup>2)</sup>

筆者の一人, 中本南は兵庫県西宮市鷲林寺剣谷にある兵庫県立西宮甲山高校在籍時の2017年から2019年までの間, 同高等学校敷地内で昆虫調査を実施した。その結果, 昆虫類全304種を確認することができた。その中で西宮市域では未確認であるオオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum*, 六甲山地南部の西宮市域では未確認であるギフチョウ *Luehdorfia japonica*, ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* を確認しているため報告する。

調査地の兵庫県立西宮甲山高校は六甲山地中腹にある観音山北西山麓の標高260~300mに位置する学校である。校庭が周辺の自然林に連続する環境である。南西部は観音山山腹にある鷲林寺の保護された樹林地に接している。北は急崖で仁川溪谷に面している。このような特異な自然環境下に位置し, 昆虫相・植物相も多様で豊かである。



図1 ギフチョウ。甲山高校, 2019年4月16日。



図2 ミドリシジミ。甲山高校, 2017年6月20日。

・ギフチョウ♂ (図1)

兵庫県 RD (2012) B ランク

2019年4月16日朝8時頃, 本校グラウンド南側の桜並木道で飛翔中の個体を確認。そのまま追尾し, 約1分後枯れ葉上に静止した当個体を筆者が持参していたランチャバックで採集した。

・ミドリシジミ♂ (図2)

兵庫県 RD (2012) B ランク

2017年6月20日18時頃, 本校駐車場付近で飛翔する2個体のミドリシジミを確認。オス同士の卍飛行していた, うち1個体を採集した。周辺でハンノキは確認されなかった。

・オオチャイロハナムグリ♂ (図3)

兵庫県 RD (2012) B ランク

2018年7月27日午前11時頃, 本校正門奥のアラカシの木で採集した。体長32.8mm, 採集時, 独特な香気を放っていた。



図3 オオチャイロハナムグリ。甲山高校, 2018年7月27日。

追記:

神吉は中本南から県立西宮甲山高校での昆虫調査結果の報告を受けた。中本は中学生時代から西宮市域の昆虫相の調査を実施し, 特筆すべき昆虫類の発見を行って

<sup>1)</sup> Minami NAKAMOTO 兵庫県西宮市; <sup>2)</sup> Masao KAMIYOSHI 兵庫県宝塚市

いた。今回、西宮甲山高校での調査結果の中でギフチョウ、ミドリシジミ、オオチャイロハナムグリの採集に驚き、同高校の生物担当教諭の協力も得て、各採集場所の現地調査も行なった。

ギフチョウについて、1972年当時は西宮市武田尾での生息が見られていた(日浦・瀬戸・宮武, 1972)。しかし、神吉は2008年以降、西宮市域の蝶類生息調査を継続的に実施しているが、近年は確認されていない。

今回の中本が発見した鷲林寺近隣部におけるヒメカンアオイの自生地は、仁川ピクニックセンターの一部で確認している。しかし、これまで産卵、食痕、成虫は全く確認していない。採集された個体の様子から自然発生と見受けられるが、飼育者の放蝶個体の可能性も一部残す。貴重な記録である。

ミドリシジミについては、西宮市域では六甲山地以北の船坂、山口などで現在も生息を確認しているが、六甲山地南部の西宮市域ではこれまでミドリシジミの記録は全く見かけたことがない。

今回の中本がミドリシジミを確認した西宮市鷲林寺剣谷の学校敷地内においてはハンノキを確認できなかったが、北を流れる仁川溪谷には自生のハンノキが見られ、南東部の甲山森林公園には植栽のハンノキが見られる。しかしこれらのハンノキではこれまでミドリシジミの確認はできていなかった。今回の中本の発見時の様子と採集個体から判断して自然発生した個体と考えられ、西宮南部では初めての記録である。

オオチャイロハナムグリについては本来原生林や大木が多く見られる自然林に生息している甲虫と考えられているだけに西宮市域での発見は驚きである。あえて自然発生していた可能性を考えるならば、隣接する鷲林寺(833年創建)はかつて広大な社域を有していた古寺で、現在でもその自然林の古木の一部が残存していることから発生可能性が一部考えられるが、今後のさらなる調査を必要とする。

今回の中本が発見した3種については、西宮市域の昆虫相として重要な発見であると認識している。3種の標本は神吉が保管。

#### 参考文献

- 日浦勇・瀬戸剛・宮武頼夫, 1972. 西宮市の生物相.  
西宮市の自然保護利用基礎調査団. 西宮市の自然保護および利用に関する基礎研究報告書. pp.85-87.  
神吉正雄, 2016. 環境変化と西宮市域の蝶類棲息数の変化. 大昆 Crude no.30 : pp.19-32.

## 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録

島崎 正美<sup>1)</sup>・島崎 能子<sup>2)</sup>

2020年, SNS情報によって8-10月にかけて近畿地方で南方系のクロマダラソテツシジミ (*Chilades pandava* 以下本種) が大阪城公園, 八尾市, 京都市立植物園など広範囲に一時的な発生をしていることがわかるが, 高砂市では2008年の10月以来, 12年ぶりの偶発となっている。2008年は加古川市立志方中学校の校庭にあるソテツで発生したことを加古川の里山・ギフチョウ・ネットの竹内隆代表が知らせてくれて, 自転車で約1時間を要して観察に出向いたりしたが, 実は, 高砂市内で筆者らの住居から数軒隣りとなる人家の玄関先にあるソテツでも発生していたことをあとで知ったという経緯がある。

近畿地区における本種の発生に関しては, 森地(2009;兵庫県), 三木(2009;明石市), 浅田(2017, 2019;神戸市), 脇村(2017;伊丹市), 広畑(2018, 2019;姫路市)らによる報告があり, 本州と四国(平井, 2009b), 三重(宮本, 2009), 宮崎(岩崎, 2009), 鹿児島(中峯, 2009), 対馬と和歌山(里中, 2009), さらに日本全域における発生と分布拡大に関する論文(平井, 2009a)もあるが, 2008年を含め, 高砂市における公式の報告例はない。

2020年, 高砂市における発生を知ったきっかけは9月24日に自宅の玄関先に咲くミセバヤに飛来した個体を観察(図1)したことで, すぐに2008年のことを思い出して近所のソテツを調べると, 案の定, 新芽があって多くの幼虫(図2)や周りを飛び交う成虫を確認でき

た(第1発生源)。その後, 近隣の複数のソテツでの発生も確認できたので, 高砂市における発生記録として報告する。

2008年は高砂市での発生を後で知ったこともあって詳しい調査をしなかったが, 今年は, 前隣の家の玄関先にあるソテツにも小さな新芽があって複数の産卵を認めた(第2発生源)。次いで, 第1発生源のソテツから200mほどの距離にある高齢者養護施設にもあるソテツを調べると, 2か所のソテツが発生源となっており, 周辺を飛び交う複数の成虫と幼虫や蛹も確認できた(第3発生源)。第1発生源のソテツまわりでは, 発生を確認した10日後の10月3日には, 複数組の交尾個体がみられ, すべての観察例で♂に比べて♀の方が大きく, 広範囲に活動して産卵するのに適していると思われた(図3)。

次に確認できたのは高砂南高校の正門にあるソテツ(第4発生源)。きっかけは10月4日, 南高校に隣接する高砂公園の花畑で, 第3発生源での交尾ペアの観察時に遠くまで飛ぶのに適していると考えた1♀がポーチラカで吸蜜する様子を観察でき, 当初は約400m離れた第1~第3発生源からの飛来個体だと推定した。南高校のソテツの存在は以前から知っていて, すぐにそのソテツまわりを調べたが新芽はなく成虫の姿もみられなかった。ところが10月11日, 高砂公園の花畑でポーチラカやマリーゴールドで吸蜜する個体数が増えており, あらためて南高校のソテツを見に行くと, 周辺を飛



図1 9月24日, 高砂市松波町。



図2 9月24日, 複数の幼虫を確認。

<sup>1)</sup> Masami SHIMAZAKI ; <sup>2)</sup> Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市



図3 10月3日, 交尾個体.



図4 10月11日, 高砂南高校ソテツ.



図5 10月14日, ツゲの花で吸蜜.



図6 10月14日, 高砂高校; 羽化個体.



図7 クロマダラソテツジミの発生分布.

び交う複数の成虫が観察でき (図4), よくみれば切断された新芽のあとが複数あって, そこに産卵行動をみせる♀も観察できた. 切断跡は学校関係者が食痕に気づいて切り取ったものと推察した. なお, この場所ではツゲの花で吸蜜する個体が複数観察できた (図5).

第5発生源は第1発生源から約600m離れた北側にある高砂高校の正門で, ソテツの切り取られた葉の付け

根に羽化したばかりの個体が観察でき (図6: 2020年10月14日, 11時25分), 周辺を飛び交う複数の成虫とソテツから50cmほど離れた位置になる校門のコンクリート壁面に帯蛹となっている2個体も確認できた. ここでも学校関係者によって切断された新芽の跡があり, 本種はあくまで害虫とみなされることが普通だということがよくわかる.





図8 10月9日, 構造色が美しい♀.



図9 10月10日, 休眠中の個体 (23時13分).



図10 9月26日, 葉裏に帯蛹.



図11 10月27日, 壁面に帯蛹.



図12 12月9日, 綿毛内で蛹化.

その後, 西畑4丁目自治会館(第6発生源), 西畑2丁目の人家庭先(第7発生源), そして荒井町新浜地区(第8発生源)と, 第1発生源から半径1km以内の範囲の主なソテツがことごとく利用されていることが分かった(図7; ●印). しかし, 今回の一時的発生をもたらした最初のソテツがどれで, 産卵をした飛来個体がどこからやってきたのかなどは不明のままである.

一方, 半径1kmという領域内で, 高砂中学校の校庭にあるソテツに本種が発生した痕跡はなく, 新芽が全くないことが発生していない理由だと納得した. 同様に新芽が出ていなくて発生の痕跡がみられないソテツが他にも3か所みられたが, 明らかに多くの新芽が育って間もない形跡を認めた寺院の境内にある大きなソテツ群で,

全く発生していないことは不思議に思える(図7; ○印).

自宅周辺では最低気温が10度以下にまで冷え込んだ日も太陽光が届く時間帯にはイワダレソウ, ヒメツルソバ, エリゲロンなどで吸蜜する個体が観察できた. オタフクナンテンの葉上で美しい翅表の輝きを見せてくれる♀も観察(図8)できたが, このときは珍しく開翅角度を180度以上に広げる姿勢をとってくれた偶発の瞬間記録で, 通常この輝きは飛翔時にしかみられない.

夜間にどのような状態で過ごしているのかを知りたくて, 23時を過ぎた時刻, 昼間に複数の飛翔個体をみた部分で探して, キク科植物の葉上で眠りにつく個体を観察できた(図9: LED照射下に撮影). その後も何度か探したが簡単には見つからず, 夜間に睡眠中の個体を観



図13 11月18日,羽化の瞬間(9時32分).



図14 11月15日,羽化個体(16時50分).



図15 11月17日,就寝前(16時).



図16 11月18日,目覚める前(7時29分).

察できる機会は多くない。

高砂市では10月から一気に気温が下がった11月以降でも柔らかいソテツの葉がある場所で複数回の発生が繰り返されており,9月24日の初観察以降に認めた新知見を以下に整理しておく。

1) 幼虫時期:ソテツの葉を摂食中の終令幼虫のそばを徘徊するアリを観察したが,幼虫が蜜を出す気配はないようで,攻撃目的だったのかどうかよくわからなく,今後の要確認事項である。

2) 吸蜜植物:森地(2009)の総説に示されている例以外に筆者らが観察した吸蜜植物は,イワダレソウ,ツゲ,エリゲロン,ヒメツルソバ,ポーチュラカ,マリーゴールド,ミセバヤの7種が追加記録となる。

3) 飼育時の代用食:森地(2009)が考察をしている,越冬できた個体がソテツの若葉がない時期にどのような植物を利用しているのかに関して,飼育時に認めた代用食の事例を記録しておく。飼育時に与えて正常に成育できる代用食としてインゲンマメが知られているが,筆者らは,自然状態でウラナミシジミが利用しているコガネタヌキマメ,およびジャケツイバラの鞘豆も代用食となることを確認している。

4) 蛹化場所:観察記録できたのは,ソテツの葉裏(図10),ソテツの葉の付け根にある綿毛の中,およびソテツから離れた位置となる高等学校の正門壁面(図

11)などで,最後の例はソテツを離れ移動して蛹化する場合もあることを示している。体を固定する糸がけができないと思える綿毛内での蛹化に際しては,綿毛内に潜り込んだ状態で複数個体が無造作に寄り添うように蛹化している例(図12)が観察でき,蛹本体は固定されていない。本種は飼育時の蛹化に際しても,容器内に敷いた紙の裏面や隙間に潜り込んで糸がけもせず蛹化しながら正常に羽化する例が多く,体を固定しなくても羽化できる強い生命力によって繁殖分布を広げているとも考えられる。

なお,12月初旬に綿毛内で蛹化した個体について本種が冬を越せるのかどうか観察を継続しているが,外気温が5℃以下でもまだ生きている。

5) 羽化時間:蛹からの羽化時間帯は,飼育個体および自然界の観察で,9時から12時までの午前中(図6,13)が普通だと思われるが,高砂高校のソテツ周りで17時に近い時刻に羽化して翅を伸ばす個体を観察記録している(図14:2020年11月15日,16時50分)。

6) 夜間睡眠:LED照射で眠りにつく個体が観察できた例について上述したが,翌朝の状況は記録できていない。その後,夕刻にユキヤナギの垣根部分で寝床を決めたようにみえた個体を観察し,翌朝,同じ位置でまだ眠りにつく姿を確認できた(図15,16:2020年11月17日16時~18日7時半)。

7) 越冬の可能性: 本種の越冬に関しては鹿児島県(中峯, 2009), 宮崎県(岩崎, 2009)および三重県(宮本, 2009)での報告例があるが, 唯一, 宮崎県で越冬後の蛹から羽化したことを示す蛹の殻が観察されているが正常に羽化したかどうかは不明となっており, 正常に羽化できる可能性は極めて低いと考えられる. 高砂市では12月初旬になっても新芽が伸びているか, あるいは柔らかい葉が残るソテツにはいぜんとして中令から終令までの幼虫が多く見られ, 12月15日時点ですべてが綿毛内で蛹化した. これらの蛹が冬を越せるのかわか, 複数の蛹を対象として観察を続けたが, 公式記録のある姫路市の最低気温が12/16: -0.6℃; 12/17: -1.5℃; 12/18: -0.4℃, さらに12/20-23まで-0.3, -2.0, -1.5, -0.1℃という具合に零度を下回る日が続き, ときにはソテツの綿毛が吹き飛ばすような強風も吹いて, 綿毛内で蛹化していた個体のすべてが12月下旬には姿を消してしまった.

以上, 特に3)-6)の観察記録には新知見が含まれる. 2020年秋のクロマダラソテツシジミに関する観察記録では, 本種が兵庫県高砂市で厳しい冬を無事に過ごすことは難しいと考えられる結果となった. 2021年以降, 新芽が出ているソテツを見つけた場合, どこからか♀が飛来して産卵し, あらたな成虫の発生がみられるかどうか注意してみたい.

#### 参考文献

- 浅田卓, 2017. 神戸市・相楽園で発生したクロマダラソテツシジミ. きべりはむし, 39(2): 69-70
- 浅田卓, 2019. 神戸市・相楽園のクロマダラソテツシジミ 2018-2019. きべりはむし, 42(2): 12-14
- 岩崎郁雄, 2009. 宮崎県におけるクロマダラソテツシジミの分布拡大状況及び越冬等に関する知見について. やどりが, 220: 35-46
- 中峯浩司, 2009. 2007年及び2009年の鹿児島県におけるクロマダラソテツシジミの発生について. やどりが, 220: 27-33
- 平井規央, 2009a. 日本におけるクロマダラソテツシジミの発生と分布拡大. 植物防疫, 63(6): 25-28
- 平井規央, 2009b. 本州と四国におけるクロマダラソテツシジミの記録. やどりが, 220: 2-20
- 広畑政巳, 2018. 兵庫県姫路市打越でクロマダラソテツシジミを撮影. きべりはむし, 41(1): 25
- 広畑政巳, (2019). 姫路市白鳥台と書写にてクロマダラソテツシジミを撮影. きべりはむし, 42(2): 57
- 三木進, 2009. クロマダラソテツシジミの明石西部における観察例. きべりはむし, 32(1): 57-58
- 宮本正行, 2009. 三重県におけるクロマダラソテツシ

- ジミの発生について. やどりが, 220: 21-26
- 森地重博, 2009. 兵庫県における2007/2008年のクロマダラソテツシジミの記録. きべりはむし, 32(1): 4-13
- 里中正紀, 2009. 対馬と和歌山県東南部のクロマダラソテツシジミの記録. やどりが, 220: 33-34
- 脇村涼太郎, 2017. 兵庫県伊丹市でクロマダラソテツシジミを採集・観察. きべりはむし, 39(2):70-71

## 神戸市摩耶山における 2020 年度のアサギマダラの標識個体の移動結果

宮武 頼夫<sup>1)</sup>・一井 弘之<sup>2)</sup>・徳増 実事<sup>3)</sup>

### はじめに

摩耶山の天上寺は、神戸市灘区摩耶山町 2-12 にあり（標高 715m）、大化 2 年 (646) にインドの高僧法道仙人により創設されたとされる古刹で、神仏霊場兵庫第四番に指定されている。関西花の寺第 10 番霊場にも指定されているだけあって、境内や周辺に各種の花が植えられており、コバノフジバカマも各所にパッチ状に植えられていて、秋のアサギマダラ *Parantica sita nipponica* の南下シーズンには多くの個体が見られる格好のマーキングポイントとなっている。

2020 年 10 月 3 日（土）、我々は天上寺下のコバノフジバカマ園（標高 690m）でアサギマダラの移動調査を行った。当日は大方曇っていたが、アサギマダラは移動のピークに当たっていたようで、もの凄い数が集まっていた（図 1）が、休日でもあり、そのことが地元の新聞に報道されたこともあって、見物や撮影に押し寄せてきた人々も多かった（図 2）ので、写真撮影をする人の邪魔にならないようにマーキングは主に周辺で行った。宮武は 82 個体（77 ♂ 5 ♀）、一井は 61 個体（53 ♂ 8 ♀）、徳増は 100 個体（90 ♂ 10 ♀）にマーキングしたが、そのうち 7 個体がその後他地で再捕獲された。他に、他地からの移動個体の再捕獲も 2 件あり、1 日 1 カ所の調査としては好結果が得られたと思うので、ここにまとめて記録しておきたい。各地で再捕獲して下さった方々には、厚くお礼を申し上げる。



図 1 摩耶山天上寺のコバノフジバカマ園で群れるアサギマダラ（一井撮影）。

### 再捕獲記録

#### 1. 福島県デコ平 8/22 → 摩耶山 10/3（図 3）

標識：SKY-7 デコ 8/22

標識日時：2020 年 8 月 22 日

標識地：福島県耶麻郡北塩原村 桧原荒砂沢山 グランデコス キー場

性別：♂

標識者：佐藤幸一

報告者：栗田昌裕

備考：デコ平でのアサギマダラ観察会にて放蝶

↓ 南西へ 552km 移動 42 日間

再捕獲日時：2020 年 10 月 3 日 13:00 曇り 24°C

再捕獲地：神戸市灘区摩耶山町 2-12 天上寺のコバノフジバカマ園 (N34°44'20" E135°12'16") 標高 690m

再捕獲者：徳増実事

報告者：宮武頼夫

撮影者：一井弘行

備考：コバノフジバカマに飛来。追記せずに放蝶 写真添付

#### 2. 宝塚市武庫川 10/2 → 摩耶山 10/3（図 4）

標識：YWA283 M 10.2

標識日時：2020 年 10 月 2 日 8:34

標識地：兵庫県宝塚市弥生町（大堀川・武庫川出合）標高 30m



図 2 アサギマダラを見物・撮影する人たちの群れ（宮武撮影）。

<sup>1)</sup> Yorio MIYATAKE アサギマダラの会；<sup>2)</sup> Hiroyuki ICHII；<sup>3)</sup> Makoto TOKUMASU トンボ研究会



図3 福島県デコ平からの移動個体 (一井撮影).



図4 宝塚市武庫川からの移動個体 (宮武撮影).

性別: ♂, 前翅長 48mm  
 鮮度: スレと色あせがあり右前翅に破れがある個体.  
 標識者: 渡辺康之  
 備考: ミズヒマワリ群落に飛来.

↓ 西南西へ 16.3km 移動 1 日間

再捕獲日時: 2020 年 10 月 3 日 10:35  
 再捕獲地: 神戸市灘区摩耶山町 2-12 天上寺のコバノフジバ  
 カマ園 (N34°44'20" E135°12'16") 標高 690m  
 天候など: 曇り 25℃  
 鮮度: 右前翅に破損  
 再捕獲者: 宮武頼夫  
 備考: コバノフジバカマを訪花. 追記したが, 記録し忘れ.  
 写真あり.

他地での再捕獲の記録

1. 摩耶山 → 福井県小浜市 10/13

標識: YMK68 MY 10.3  
 標識日時: 2020 年 10 月 3 日 15:18  
 標識地: 神戸市灘区摩耶山町 2-12 摩耶山天上寺のコバノフ  
 ジバカマ園 (N34 度 44 分 18 秒 E135 度 12 分 17 秒) 標高  
 690m  
 天候など: 曇り時々晴, 26.6℃  
 性別: ♂ O 前翅長 51 mm  
 鮮度: 破損あり  
 備考: コバノフジバカマ訪花 画像なし

↓ 北北東へ約 100 km 移動 10 日間

再撮影日時: 2020 年 10 月 13 日  
 再撮影地: 福井県小浜市青井小浜公園海望山展望台  
 (35.494370N 135.730475E) 標高 60m  
 再撮影者: 渡辺幸太  
 報告者: 井上 浩  
 備考: ヒヨドリバナ訪花, 他に 2 頭飛んでいた. 画像あり

2. 摩耶山 → 淡路島南あわじ市 10/13

標識: YMK61 MY 10.3  
 標識日時: 2020 年 10 月 3 日 14:44  
 標識地: 神戸市灘区摩耶山町天上寺のコバノフジバカマ園 (N34  
 °44'20" E135°12'16") 標高 690 m  
 性別: ♂ 前翅長 54mm  
 鮮度: O 破損あり  
 天候など: 曇り, 27.4℃  
 標識者: 宮武頼夫  
 備考: コバノフジバカマ訪花

↓ 南西へ約 40km 移動 10 日間

再捕獲日時: 2020 年 10 月 13 日 10:20  
 再捕獲地: 兵庫県南あわじ市大日ダム上部大日弘川峠 (北緯  
 34°13'15" 東経 134°47'48") 標高 350m  
 天候など: 曇り, 北西の風やや強し, 気温 20℃ (9:50)  
 鮮度: M  
 再捕獲者: 藤野適宏  
 備考: 現地はナルトサワギクが減少して, レモンエゴマが優  
 占する群落となっていた. アサギマダラは南東方向から飛来し,  
 タオルで誘引して捕獲. MA522AWM10.13 を追記, 放蝶.  
 再捕獲画像あり

3. 摩耶山 → 淡路島南あわじ市 10/14

標識: HCH38 MY 10.3  
 標識日時: 2020 年 10 月 3 日 13:05  
 標識地: 神戸市灘区摩耶山町天上寺のコバノフジバカマ園 (N34  
 °44'20" E135°12'16") 標高 690 m  
 性別: ♂ 前翅長 51mm  
 鮮度: M 破損なし  
 天候など: 曇り, 24℃  
 標識者: 一井弘行  
 報告者: 宮武頼夫  
 備考: コバノフジバカマ訪花

↓ 南西へ約 40km 移動 11 日間

再捕獲日時: 2020 年 10 月 14 日 11:00

再捕獲地：兵庫県南あわじ市大日ダム上部大日弘川峠（北緯 34°13'15" 東経 134°47'48"）標高 350m

鮮度：M

天候など：晴れ，北西の風やや強し，気温 20℃（13：00）

再捕獲者：藤野適宏

備考：現地はナルトサワギクが減少して，レモンエゴマが優占する群落となっていた。アサギマダラは南東方向から飛来し，タオルで誘引して捕獲，MA710AWM10.14 を追記，放蝶。再捕獲画像あり

#### 4. 摩耶山 → 京都市詩仙堂 10/20

標識：YMK5 MY 10/3

標識日時：2020 年 10 月 3 日 10:36

標識地：神戸市灘区摩耶山町 2-12 天上寺下のコバノフジバカマ園（N34°44'20" E135°12'16"）標高 690m

天候など：曇り 気温 25.8℃ 殆ど無風

性別：♂，前翅長 54mm

鮮度：O 破損あり

標識者：宮武頼夫

備考：コバノフジバカマ訪花

↓ 北東へ約 62km 移動 17 日間

再捕獲（撮影）日時：2020 年 10 月 20 日 16 時前

再捕獲（撮影）地：京都市左京区一乗寺門口町 詩仙堂

再捕獲（撮影）者：西尾礼子

備考：撮影する前の午前中，既にここに居た。

仲介者：村上 豊

#### 5. 摩耶山 → 高知市五台山 10/26

標識：HCH34 MY 10.3

標識日時：2020 年 10 月 3 日 12:50

標識地：神戸市灘区摩耶山町 2-12 天上寺下のコバノフジバカマ園（N34°44'20" E135°12'16"）標高 690m

天候など：曇り 気温 25.8℃ 殆ど無風

性別：♂，前翅長 55mm

鮮度：M 破損なし

標識者：一井弘之

報告者：宮武頼夫

備考：コバノフジバカマ訪花

↓ 南西へ 206km 移動 23 日間

再捕獲日時：2020 年 10 月 26 日

再捕獲地：高知県高知市五台山（N33°32'07.2" E133°34'22.32"）

鮮度：M

再捕獲者：楠瀬伸子

備考：サワフジバカマ訪花，「五台山 10/26 NK193」追記放蝶

報告者：山崎三郎

#### 6. 摩耶山 → 徳島県阿南市 10/28

標識：YMK49 MY 10.3

標識日時：2020 年 10 月 3 日 13:39

標識地：神戸市灘区摩耶山町 2-12 天上寺下のコバノフジバカマ園（N34°44'20" E135°12'16"）標高 690m

天候など：曇り 気温 21.2℃ 殆ど無風

性別：♂，前翅長 55mm

鮮度：N 破損なし

標識者：宮武頼夫

備考：コバノフジバカマに訪花

↓ 南南西へ 122.2km 移動 25 日間

再捕獲日時：2020 年 10 月 28 日

再捕獲地：徳島県阿南市内原町長谷（北緯 33 度 53 分 15 秒 東経 134 度 38 分 05 秒）

再捕獲者：谷中勝信

天候など：晴れ

備考：フジバカマ訪花，「トクウチ 10.28 タニ 385」

追記

報告者：米山喜義

#### 7. 摩耶山 → 高知県大月町 11/14 (図 5)

標識：YMK46 MY 10.3

標識日時：2020 年 10 月 3 日 13:26

標識地：神戸市灘区摩耶山町 2-12 天上寺下のコバノフジバカマ園（N34°44'20" E135°12'16"）標高 690m

天候など：曇り 気温 21.5℃ 殆ど無風

性別：♂，前翅長 56mm

鮮度：M 破損あり

標識者：宮武頼夫

備考：コバノフジバカマに訪花

↓ 南西へ 336.4km 移動 41 日間

再捕獲日時：2020 年 11 月 13 日 11:50

再捕獲地：高知県幡多郡大月町一切（32°46'26"N 132°38'39"E）標高 201m

天候など：曇り 19℃

再捕獲者：土田章雄



図 5 高知県大月町への移動個体（土田撮影）。

備考：ツワブキ訪花, 「オオドウ 11.13 AT2174」追記後  
放蝶 再捕獲画像あり

考察

摩耶山でマークしたアサギマダラのその後の移動を、再捕獲のデータから分析してみると、まず南下の季節に北上している個体が2例ある(図6)。福井県小浜市と京都市への移動である。その原因として、マーク後の最高気温と最低気温が比較的高く推移したことが考えられるので、参考として10月1日～15日間の神戸市の最高気温と最低気温を見てみると、表1のようにほぼそのように推移したと考えられる。ただ摩耶山は市内よりは標高が高いので、これよりは低く推移したと考えられるが、日中の上下移動もあるので、実際の所はよく分からない。

他の5頭は淡路島、徳島県阿南市、高知市、高知県大月町で再捕獲されているので、摩耶山を飛び立ったアサギマダラの多くは、瀬戸内海を南下して、徳島県・高知県と四国の南岸を西へ移動すると思われる(図6)。更に九州の方へ移動すると思われるが、今回はそれ以遠では確認されなかった。

表1 神戸市の2020年10月の最高気温と最低気温.

日	天候	最高気温(°C)	最低気温(°C)
1日	晴	27.3	18.6
2日	晴	26.7	19.0
3日	晴後曇	25.8	20.3
4日	曇	25.9	22.6
5日	曇後晴	26.7	22.6
6日	曇後晴	24.9	16.6
7日	曇	24.9	17.5
8日	雨	17.7	16.0
9日	雨	20.0	16.9
10日	曇後晴	27.7	18.5
11日	晴後曇	25.2	20.6
12日	晴	27.0	19.5
13日	晴	26.0	21.1
14日	晴	25.2	17.9
15日	晴	22.7	18.1



図6 摩耶山からの移動ルート.

## 相生市「羅漢の里」におけるフユシヤク類の定点調査記録

高橋 弘樹<sup>1)</sup>

### はじめに

「羅漢の里」公園（相生市矢野町瓜生）は、兵庫県相生市の最高峰である三濃山（509m）の山麓、鍛冶屋川沿いに位置し、白旗城跡・置塩城跡とともに赤松氏城跡として国指定史跡に指定されている感状山城跡への登山口や羅漢石仏、1985年に市によって整備されたキャンプ場、コテージ、アスレチック等があり、多くの利用者で賑わっている。

この「羅漢の里」では1989年から1997年にかけて高島昭氏による蛾類調査が行われ、409種（フユシヤク類6種）が記録されている。高島氏は「羅漢の里」について、「半人工的環境であるが、後背の山の自然は保たれ、適度な光源にも恵まれており、少なからず蛾が飛来する。」と述べておられるが、その後もニホンジカの増加や外灯の一部LED化はあるものの、谷筋では大規模な地形改変などは行われておらず、状況は現在もあまり変わっていない。1986年発行の植生図によると周囲の山はアカマツ-モチツツジ群集 クロモジ亜群集、谷沿いはアカマツ-モチツツジ群集 シャシャンボ亜群集 コシダ変群集が大部分を占めており、公園内や山にはフユシヤク類の多くが食樹とするブナ科等の落葉広葉樹も多く、モミジ類や桜も植栽されている。周辺には小規模ながら照葉樹林も残っている。

今回、2021年1月から3月にかけて、この公園内

を定点としてフユシヤク類の生息調査を行ったので、結果を報告する。

### 調査場所及び調査方法

公園入口の駐車場（標高80m程度）から最奥の駐車場（標高110m程度）までの約800mの間に点在する灯火及び欄干、杭、柵等のルッキングを主に、飛翔中の個体の採集を補助的にを行い、1月16日及び3月1日・13日・15日にはライトトラップ（今峰製HIDサーチライト55w1灯とブラックライト20w1灯を使用）も併用して種名と数をカウントした。現地で同定できない種については採集または撮影して精査した。なお、フユシヤク亜科の♀については単体での同定が困難であるため、交尾中のペアまたは採集後に交尾に至ったものを除き、*Inurois* 属、*Alsophila* 属を区別せずにフユシヤク亜科 sp. として扱った。

1回の調査時間は通常30分～1時間程度で、概ね19:30～21:00の範囲に収まった。

気温については、観察時に乗用車の車外温度計で計測した数値を参考として付表1に記載している。期間を通しての気象傾向については「みんなでつなぐ初蝶リレー2021」を参照していただきたい。

なお、観察記録は2020年秋から付け始めており、11月25日から12月14日の間にクロスジフユエダシヤ



図1 羅漢の里キャンプ場。



図2 「羅漢の里」を貫流する鍛冶屋川。

<sup>1)</sup> Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市



ク♂, チャバネフユエダシヤク♂, クロオビフユナミシヤク♂, ナミスジフユナミシヤク♂を確認しているが, 個体数の記録を欠いているため種名のみ報告しておく。

### 調査結果

フユシヤク類は, シヤクガ科に属する蛾うち, 晩秋から早春にのみ成虫が出現して繁殖行動を行う, ♀が翅を欠くか縮小して飛翔能力を持たない等の特徴を持つグループの総称で, わが国ではフユシヤク亜科 14 種, ナミシヤク亜科 7 種 (※ 1), エダシヤク亜科 15 種の計 36 種が知られている。(中島・小林, 2017; 岸田, 2020)

今回, 「羅漢の里」で確認できたフユシヤク類は, フユシヤク亜科 6 種, ナミシヤク亜科 3 種, エダシヤク亜科 7 種の計 16 種となった (※ 2)。

付表 1 は調査日ごとに確認できたフユシヤク類♂, フユシヤク類♀, その他の昆虫の種名と数を示したものである。その他の昆虫は特に 2 月下旬以降, 数, 種ともかなり多くなったが, スペースの問題もあって蛾類を中心とした一部のみの記載に留めている。

調査密度の高い 1 月中旬～ 3 月下旬の期間中, 特に多く見られた種はシロフフユエダシヤクとクロテンフユシヤクだった。前者は 80 頭近くの♂が見られた日があり, ♀も様々な場所で確認できた。後者は 1～3℃の時に♂の飛翔が活発になり, 30 頭以上を確認できる日が複数あった。交尾ペアも頻繁に目にする事ができた。

チャオビフユエダシヤクも多く, 特に 2 月 9 日～ 3 月 7 日には♂を見ない日は無かった。数も 7～8 頭確認できることが多く, 15 頭を超えることもあった。♂は外灯周辺に止まっているだけでなく, 発生初期は低い位置をよく飛翔しており, アスレチック対岸の車道の 80m ほどの区間では特に飛翔数が多かった。この種の♂には横線が不明瞭なタイプ (図 5 上) と明瞭な茶褐色帯を形成するタイプ (図 5 下) があり, 「羅漢の里」でも両方を見ることができたが, 多かったのは後者のタイプである。

一方, 観察数が少なかった種はヒロバフユエダシヤクで, 外灯に飛来した 2 ♀を採集したのみである。クロバネフユシヤクも外灯と欄干で 3 ♀を散発的に確認したのみではあるが, フユシヤク sp. ♀にはこの種ではないかと思われるものも多数含まれている。なお, シロオビフユシヤクは 1 ♀, イチモジフユナミシヤクは 1 ♀が得られたのみだが, 1 月上旬以前のデータが手薄であるため多寡については評価できない。

シモフリトゲエダシヤクは 12 ♀ 3 ♀を確認したが, 外灯や構造物のルッキングでは 1 日に 1～2 頭ずつしか見られなかった。しかしこの種はライトトラップによく誘引され, 直線距離で約 5.5km 離れた上郡町金出地

では 2 月 6 日に 3 時間程度で 30 頭以上, 2 月 13 日も同様に 15 頭以上の♂が白幕に飛来しただけでなく, 両日ともそれ以上の数が飛び交うコウモリに捕食されて翅だけが絶え間なく降り注いでくる状況となっていたし, 約 4.3km 離れたたつの市光都でも 2 月 22 日に 3 ♀が飛来した。「羅漢の里」でも 3 月 1 日にライトトラップを試みたところ, 9 日間確認できていなかった 1 ♀が開始早々に飛来した (※ 3)。この種に関しては調査方法が違っていれば結果が大きく異なっていた可能性がある。

なお, 今回の調査では各種の♀も多く確認できたが, 同じ構造物上で同一と思われる個体を数日間連続で目撃することがよくあり, 重複カウントを多く含んでいる可能性が高いことを断っておくとともに, 今後, ♀個体の追跡調査を行えないか検討中であることを付記しておく。

付表 2 はフユシヤク類の時期別の出現状況で, 特に 1 月～ 3 月については 5 日間ごと (各月最終節は 3 日間または 6 日間) に分割し, 各期間内に確認できた種を示している。

全体を俯瞰すると♂と♀の活動開始時期には差があり, 飛翔して移動できる♂の出現後, 10 日～ 2 週間ほどの期間を置いて移動力の低い♀が見られるようになることが, ♀単体での識別が可能なエダシヤク亜科の各種の記録から確認できる。

個別の種で目を引くのはやはりクロテンフユシヤクとシロフフユエダシヤクの出現期間の長さである。前者のそれは 1 月 25 日から 3 月 12 日まで 47 日間, 後者はさらに長く 1 月 22 日から 3 月 19 日まで 57 日間に及んだ。

最も遅くまで見られたフユシヤク類はシロトゲエダシヤクで, 公園内のソメイヨシノが満開間近の 3 月 25 日に終見となった。なお, 本種は配偶行動が非常に遅い時間に生じ, 23 時頃から♀は樹の梢でコーリングを行い, ♂は樹幹を激しく飛び交い交尾に至る (中島・小林, 2017) とのことだが, 今回の調査で筆者は 3 月 2 日 19 時 50 分頃, 羅漢の里キャンプ場入り口に設置された看板上 (地上 115cm) で交尾中のペアを確認している。(図 10)

### おわりに

今回, 非常に観察しやすい環境で継続して調査を行えたことで, 予想以上に多くの種との出会いを重ねることができ, 少しずつ移ろう季節を濃密に体感することができた。調査回数は実はここにまとめられているのはフユシヤク類の記録というより, 筆者自身の熱中と興奮の記録なのかもしれない。

筆者は蛾類に興味を持ってまだ半年少々ということもあって非常に拙い報文となってしまったが, この地域



図3 クロテンフユシャク交尾ペア, 2021.2.10.



図4 シロフユエダシャク交尾ペア, 2021.2.11 採集.



図5 チャオビフユエダシャク♂, 2021.2.25(上)2.26(下).



図6 ヒロバフユエダシャク♂, 2021.2.13 採集.



図7 イチモジフユナミシャク♀, 2021.1.28 採集.



図8 クロバネフユシャク♂, 2021.1.21 採集(左), シロオビフユシャク♂, 2021.1.4 採集(右).



図9 シモフリトゲエダシャク, 2021.1.21 採集(♂), 2021.2.5 採集(♀)



図10 シロトゲエダシャク交尾ペア ♂はライト照射に驚いて宙づりになっている, 2021.3.2 20:15 撮影.

のフユシヤク相の解明の一助となるのであれば無上の喜びである。

ただ1月上旬以前の記録が大変手薄であることについては悔やんでも悔やみきれない。「羅漢の里」の灯火環境も遠からず一変することと思われるが、もしも猶予が与えられているのであれば、晩秋から初冬を含めた定点観察を今後も継続していこうと思っている。

最後に、フユシヤク類の同定や生態についてご教示いただいた神戸大学大学院農学研究科 阪上洸多氏、記録の公表を勧めてくださった兵庫県立人と自然の博物館 八木剛氏と、兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会 久保弘幸氏、調査に同行してくださった佐用町昆虫館 キッズサポーター 三村剣義氏、石川栞奈、元貴、大馳氏と両家のご両親、そして調査を許可してくださった「羅漢の里」管理人様とキャンパーの皆様にお礼申し上げます。

### 参考文献

- 相生市史編纂専門委員会, 1986. 相生市史第六巻 付図13 相生市植生図
- 今井初太郎, 2020. 蛾の生態標本図鑑. 207pp. メイツ出版
- かんの樹木図鑑 暁の蛾類図鑑 [http://kanon1001.web.fc2.com/kontyu\\_index.html](http://kanon1001.web.fc2.com/kontyu_index.html)
- 岸田泰則, 2020. 日本の蛾. 240pp. 学研プラス
- 小林秀紀 (編), 2016. 月刊むし・昆虫図説シリーズ8 日本の冬夜蛾. 112pp. 有限会社むし社
- 高島昭, 1996. 相生市三濃山麓の蛾 (1) 兵庫県産蛾類分布調査資料・4. きべりはむし, 24 (1): 27 - 39.
- 高島昭, 1998. 相生市三濃山麓の蛾 (2) 兵庫県産蛾類分布調査資料・10. きべりはむし, 26 (2): 59 - 64.
- 中島秀雄・小林秀紀, 2017. 月刊むし・昆虫図説シリーズ11 日本の冬尺蛾. 152pp. 有限会社むし社
- 日本産フユシヤク類 WEB 図鑑 <http://www.jpmoth.org/~moth-love/fuyusyauzukan/fuyu.html>
- みんなで作る日本産蛾類図鑑 V2 <http://www.jpmoth.org/>

※1 ナミスジフユナミシヤクから分離されたユキノコフユナミシヤクを含む。

※2 2020年末に確認した4種を含む。

※3 その後の天候悪化により1時間足らずで撤収し、ルッキングに移行した。この日のトラップには「灯火には基本的に飛来しない」(小林,2016)とされるイチゴキリガ3頭など10種以上の蛾が飛来したが、フユシヤク類は上記の1頭のみだった。

付表1 調査日ごとの採集・目撃記録.

日付	気温	フユシヤク類♂	フユシヤク類♀	その他の昆虫
1月4日	0℃	ウスモンフユシヤク 10 ~ シロオビフユシヤク 1	ウスモンフユシヤク 1 フユシヤク亜科 sp. 5 クロオビフユナミシヤク 1	
1月11日	1℃	ウスモンフユシヤク 10 ~ ウスバフユシヤク 10 ~ ナミスジフユナミシヤク 10 ~	フユシヤク亜科 sp. 7	クサカゲロウ sp. 1
1月14日	4℃	ウスモンフユシヤク 10 ~ ウスバフユシヤク 10 ~	フユシヤク亜科 sp. 3	
1月16日 LT(成果無し)	4℃	ウスモンフユシヤク 10 ~ ウスバフユシヤク 10 ~ ナミスジフユナミシヤク 10 ~	フユシヤク亜科 sp. 15 ~ ナミスジフユナミシヤク 1	クロチャマダラキリガ 2 オオツチハンミョウ 3
1月21日	6℃	ウスモンフユシヤク 2 ウスバフユシヤク 10 ~ クロテンフユシヤク 1 クロバネフユシヤク 1 ナミスジフユナミシヤク 1 シモフリトゲエダシヤク 1	フユシヤク亜科 sp. 5 ナミスジフユナミシヤク 1	ヒロバモクメキリガ 1
1月22日	9℃ 霧雨	ウスモンフユシヤク 1 ウスバフユシヤク 1 ナミスジフユナミシヤク 1 シロフフユエダシヤク 1	フユシヤク亜科 sp. 1 ナミスジフユナミシヤク 2	ヒロバカゲロウ sp. 1
1月25日	6℃	クロテンフユシヤク 1 ナミスジフユナミシヤク 3	クロテンフユシヤク 1 フユシヤク亜科 sp. 2	ベニモンマキバサシガメ幼虫 1
1月27日	6℃	クロテンフユシヤク 3 ナミスジフユナミシヤク 3 シロフフユエダシヤク 1	フユシヤク亜科 sp. 3 ナミスジフユナミシヤク 2 イチモジフユナミシヤク 1	カシワキボシキリガ 1
1月28日	5℃	ウスバフユシヤク 1 クロテンフユシヤク 4 クロバネフユシヤク 1 ナミスジフユナミシヤク 1 シモフリトゲエダシヤク 2 シロフフユエダシヤク 1	クロテンフユシヤク 1	
1月30日	4℃	クロテンフユシヤク 7 シモフリトゲエダシヤク 1	クロテンフユシヤク 1	ヒラタマルハキバガ sp. 1
2月1日	7℃	クロテンフユシヤク 8 ナミスジフユナミシヤク 1 シモフリトゲエダシヤク 1 シロフフユエダシヤク 3 チャオビフユエダシヤク 1	ナミスジフユナミシヤク 2	クロテンキリガ 1
2月2日	5℃	クロテンフユシヤク 4 シモフリトゲエダシヤク 1 シロフフユエダシヤク 3	クロテンフユシヤク 3 ナミスジフユナミシヤク 1	
2月3日	1℃	クロテンフユシヤク 30 ~ シロフフユエダシヤク 2	フユシヤク亜科 sp. 1 ナミスジフユナミシヤク 1	
2月5日	6℃	クロテンフユシヤク 7 シモフリトゲエダシヤク 1 シロフフユエダシヤク 5	クロテンフユシヤク 1 フユシヤク亜科 sp. 2 ナミスジフユナミシヤク 1 シモフリトゲエダシヤク 1	ホソバキリガ 1
2月6日	5℃	クロテンフユシヤク 10 ~ クロバネフユシヤク 1 シロフフユエダシヤク 9 チャオビフユエダシヤク 5	クロテンフユシヤク 4 シロフフユエダシヤク 2	
2月9日	2℃	クロテンフユシヤク 30 ~ シロフフユエダシヤク 12 チャオビフユエダシヤク 2	フユシヤク亜科 sp. 1 シロフフユエダシヤク 1	
2月10日	6℃	クロテンフユシヤク 7 シロフフユエダシヤク 15 ~ チャオビフユエダシヤク 2	クロテンフユシヤク 1 シロフフユエダシヤク 2	ハイイロフユハマキ 1
2月11日	7℃	クロテンフユシヤク 10 ~ シロフフユエダシヤク 30 ~ チャオビフユエダシヤク 12	クロテンフユシヤク 3	

2月12日	7°C	クロテンフユシャク1 シモフリトゲエダシャク1 シロフフユエダシャク8 チャオビフユエダシャク5	クロテンフユシャク1 フユシャク亜科 sp.3 シロフフユエダシャク1	ハイイロフユハマキ2 キタキチヨウ1 (就寝中)
2月13日	9°C	クロテンフユシャク5 シロフフユエダシャク~80 チャオビフユエダシャク15 ヒロバフユエダシャク1	フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク2	クロモンキリバエダシャク1 ハイイロフユハマキ1 カシワオビキリガ1 オオツチハンミョウ1等
2月14日	15°C	クロテンフユシャク4 シモフリトゲエダシャク2 シロフフユエダシャク13 チャオビフユエダシャク6	フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1	クロモンキリバエダシャク2 ハイイロフユハマキ1 カシワオビキリガ2 ヒラタマルハキバガ sp.1 オオトビスシガメ1
2月15日	13°C 強風	クロテンフユシャク1 クロバネフユシャク1 シモフリトゲエダシャク2 シロフフユエダシャク30~ チャオビフユエダシャク7	フユシャク亜科 sp.3 シロフフユエダシャク5 チャオビフユエダシャク1	キリガ sp.2
2月16日	5°C	クロテンフユシャク8 シロフフユエダシャク30~ チャオビフユエダシャク7 ヒロバフユエダシャク1	クロテンフユシャク2 フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク6 チャオビフユエダシャク1	スギタニキリガ1 カシワオビキリガ1
2月17日	0°C	クロテンフユシャク8 シロフフユエダシャク7 チャオビフユエダシャク1		ハイイロフユハマキ1
2月18日	1°C 降雪	クロテンフユシャク21 シロフフユエダシャク12 チャオビフユエダシャク3	フユシャク亜科 sp.2 シロフフユエダシャク1	クロチャマダラキリガ1
2月19日	3°C	クロテンフユシャク23 ホソウスバフユシャク1 シロフフユエダシャク18 チャオビフユエダシャク8 シロトゲエダシャク1	シロフフユエダシャク2	ハイイロフユハマキ2
2月20日	9°C	クロテンフユシャク17 ホソウスバフユシャク3 シモフリトゲエダシャク1 シロフフユエダシャク15 チャオビフユエダシャク16	クロテンフユシャク1 フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク2 チャオビフユエダシャク2	クロモンキリバエダシャク1 ハイイロフユハマキ8 ホシオビキリガ1 ヒメアカホシテントウ1
2月21日	10°C	クロテンフユシャク8 シロフフユエダシャク12 チャオビフユエダシャク8	シロフフユエダシャク1	オカモトトゲエダシャク6 ホソバトガリエダシャク2 トビモンオオエダシャク1 カバキリガ1 ホシオビキリガ1
2月22日	12°C	クロテンフユシャク3 シロフフユエダシャク11 チャオビフユエダシャク8 シロトゲエダシャク1	シロフフユエダシャク2	クロモンキリバエダシャク1 オカモトトゲエダシャク3 アトジロエダシャク1 ハイイロフユハマキ2等
2月23日	7°C	クロテンフユシャク1 ホソウスバフユシャク4 シロフフユエダシャク8 チャオビフユエダシャク1	フユシャク亜科 sp.1 シモフリトゲエダシャク1 シロフフユエダシャク3	クロモンキリバエダシャク1 オカモトトゲエダシャク1 シロテンエダシャク1 ハイイロフユハマキ2
2月24日	3°C	クロテンフユシャク4 ホソウスバフユシャク3 シロフフユエダシャク14 チャオビフユエダシャク11 シロトゲエダシャク2	ホソウスバフユシャク1 フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク3 シモフリトゲエダシャク1	オカモトトゲエダシャク1 ホソバトガリエダシャク1 カバキリガ1
2月25日	7°C	クロテンフユシャク10 ホソウスバフユシャク7 シロフフユエダシャク10 チャオビフユエダシャク4	クロテンフユシャク1 ホソウスバフユシャク1 シロフフユエダシャク3 チャオビフユエダシャク1	クロモンキリバエダシャク1 ハイイロフユハマキ1 ホシオビキリガ1
2月26日	5°C	クロテンフユシャク4 ホソウスバフユシャク4 シロフフユエダシャク4 チャオビフユエダシャク8	ホソウスバフユシャク1 フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1	ホソバトガリエダシャク1 ギフウスキナミシャク3

2月27日	4°C	クロテンフユシャク6 ホソウスバフユシャク2 シロフフユエダシャク9 チャオビフユエダシャク8	シロフフユエダシャク3 チャオビフユエダシャク2	ホソバトガリエダシャク1 シロテンエダシャク1 ギフウスキナミシャク3 等
2月28日	6°C	クロテンフユシャク6 ホソウスバフユシャク3 シロフフユエダシャク15 チャオビフユエダシャク13 シロトゲエダシャク1	シロフフユエダシャク2 チャオビフユエダシャク1	ギフウスキナミシャク4 モンキキナミシャク1 ホソバキリガ1
3月1日 LT(1時間弱)	15°C 強風	クロテンフユシャク2 シモフリトゲエダシャク1 シロフフユエダシャク7 チャオビフユエダシャク4	シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1 シロトゲエダシャク2	オカモトトゲエダシャク8 ギフウスキナミシャク5 ハイロフユハマキ1 スモモキリガ2 チャイロキリガ1 イチゴキリガ3 キノカワガ1 等
3月2日	5°C 小雨	クロテンフユシャク1 ホソウスバフユシャク1 シロフフユエダシャク8 チャオビフユエダシャク4 シロトゲエダシャク5	シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1 シロトゲエダシャク1	チャオビトビモンエダシャク1 オカモトトゲエダシャク7 アカモンナミシャク1 スギタニキリガ3 ホソバキリガ1 等
3月3日	4°C	クロテンフユシャク7 ホソウスバフユシャク3 シロフフユエダシャク6 チャオビフユエダシャク4 シロトゲエダシャク2	ホソウスバフユシャク1 フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク2 シロトゲエダシャク1	チャオビトビモンエダシャク4 トビモンオオエダシャク1 オカモトトゲエダシャク2 ギフウスキナミシャク2 ホシオビキリガ1 等
3月4日	12°C	クロテンフユシャク2 ホソウスバフユシャク7 シロフフユエダシャク6 チャオビフユエダシャク4 シロトゲエダシャク1	フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1	ミスジツマキリエダシャク1 クロモンキリバエダシャク1 シロテンエダシャク2 等
3月5日	12°C 雨後	クロテンフユシャク1 ホソウスバフユシャク1 シロフフユエダシャク8 チャオビフユエダシャク8	シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1	アトジロエダシャク1 ハソオビエダシャク1 ミカヅキナミシャク1 チャイロキリガ1 プライヤキリバ1 等
3月6日	9°C	ホソウスバフユシャク2 シロフフユエダシャク9 チャオビフユエダシャク3	シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク1	ホソバトガリエダシャク4 ギフウスキナミシャク3 カバキリガ2 等
3月7日	8°C	クロテンフユシャク3 ホソウスバフユシャク3 シロフフユエダシャク9 チャオビフユエダシャク6	シロフフユエダシャク1 シロトゲエダシャク1	ホソバトガリエダシャク4 モンキキナミシャク2 ナカモンキナミシャク2 等
3月8日	6°C	ホソウスバフユシャク3 シロフフユエダシャク3 シロトゲエダシャク1	シロフフユエダシャク3 チャオビフユエダシャク1	チャオビトビモンエダシャク4 アトジロエダシャク1 ギフウスキナミシャク10~ 等
3月9日	9°C	ホソウスバフユシャク3 シロフフユエダシャク5 チャオビフユエダシャク3 シロトゲエダシャク1	フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク1 チャオビフユエダシャク3 シロトゲエダシャク1	チャオビトビモンエダシャク1 ハソオビエダシャク1 アカモンナミシャク2 シロヘリキリガ2 等
3月10日	8°C	クロテンフユシャク1 シロフフユエダシャク3 チャオビフユエダシャク1	フユシャク亜科 sp.1 チャオビフユエダシャク2 シロトゲエダシャク1	チャオビトビモンエダシャク2 ヒロバトガリエダシャク2 シロテンエダシャク2 カバキリガ1 等
3月11日	8°C	クロテンフユシャク1 ホソウスバフユシャク2 シロフフユエダシャク2 チャオビフユエダシャク5	フユシャク亜科 sp.1 シロフフユエダシャク1 シロトゲエダシャク1	トビモンオオエダシャク1 ギフウスキナミシャク15~ モンキキナミシャク10~ チャイロキリガ1 エゾヨツメ1 等
3月12日	11°C 雨	クロテンフユシャク1 ホソウスバフユシャク1 シロフフユエダシャク2 チャオビフユエダシャク4 シロトゲエダシャク1	シロトゲエダシャク1	クロモンキリバエダシャク1 オカモトトゲエダシャク2 シロヘリキリガ3 ホシボシトガリバ2 イボタガ1 等

3月13日 LT	9°C 霧雨	ホソウスバフユシャク 2 チャオビフユエダシャク 2 シロトゲエダシャク 3	フユシャク亜科 sp. 1 シロフフユエダシャク 1 チャオビフユエダシャク 1 シロトゲエダシャク 1	チャオビトビモンエダシャク 8 ナカモンキナミシャク 20 ~ マイコトラガ 1 フクラスズメ 1 カバキリガ 10 ~ ホシボシトガリバ 6 イボタガ 2 等
3月14日	8°C	ホソウスバフユシャク 2 シロフフユエダシャク 2 シロトゲエダシャク 2		チャオビトビモンエダシャク 5 ヒゲマダラエダシャク 1 フトフタオビエダシャク 1 スモモキリガ 2 マユミトガリバ 2 等
3月15日 LT	11°C	ホソウスバフユシャク 4 シロフフユエダシャク 2 シロトゲエダシャク 2	フユシャク亜科 sp. 1	チャオビトビモンエダシャク 2 アトジロエダシャク 15 ~ ウスバキエダシャク 1 ホシボシトガリバ 10 ~ マユミトガリバ 10 ~ マイコトラガ 2 等
3月16日	12°C	ホソウスバフユシャク 1 シロフフユエダシャク 1	フユシャク亜科 sp. 1	チャオビトビモンエダシャク 4 アトジロエダシャク 8 モンキキナミシャク 10 ~ クロミミキリガ 5 プライヤキリバ 1 等
3月17日	10°C	ホソウスバフユシャク 2		チャオビトビモンエダシャク 1 アカモンナミシャク 1 ウスギヌカギバ 1 カバキリガ 3 等
3月18日	9°C	ホソウスバフユシャク 1 シロフフユエダシャク 2		チャオビトビモンエダシャク 2 フトフタオビエダシャク 1 スモモキリガ 2 等
3月19日	8°C	シロフフユエダシャク 2		チャオビトビモンエダシャク 1 マエアカスカシノメイガ 1 オオアオシャチホコ 1 等
3月20日	15°C 小雨	シロトゲエダシャク 1		チャオビトビモンエダシャク 1 モンキキナミシャク・ナカモンキナミシャク 50 ~ マイコトラガ 2 エゾヨツメ 2 等
3月21日	11°C 雨後	シロトゲエダシャク 1		ホソバトガリエダシャク 2 シロテンエダシャク 3 チャイロキリガ 5 等
3月22日	5°C 雨後			ヒロバトガリエダシャク 1 ヒゲマダラエダシャク 1 チャオビコバネナミシャク 1 等
3月23日	7°C			ハスオビエダシャク 1 モンキキナミシャク 10 ~ ウスミドリコバネナミシャク 1 等
3月24日	11°C			モンキキナミシャク 20 ~ スギタニキリガ 1 プライヤキリバ 2 サカハチトガリバ 1 等
3月25日	12°C	シロトゲエダシャク 1		ミカツキナミシャク 4 クロチャマダラキリガ 1 ケンモンキリガ 1 エゾヨツメ 1 等
3月26日	6°C			トビモンオオエダシャク 1 ウスバキエダシャク 1 クロスジキリガ 1 プライヤキリバ 1 等
3月27日	15°C			ミスジツマキリエダシャク 1 ヒロバトガリエダシャク 3 モンキキナミシャク 10 ~ 等

3月29日	14°C			ニッコウエダシヤク2 チャオビ コバネナミシヤク1 オオシモフ リスズメ1等
3月30日	14°C			モンシロツマキリエダシヤク1 ノヒラトビモンシヤチホコ1 チ ヤイロキリガ1等
3月31日	14°C			ハスオビエダシヤク2 ハガタナ ミシヤク1 チャイロキリガ2 サ カハチトガリバ1等

註 ライトトラップを併用した日は日付欄に LT と記載.

付表2 フユシヤク類期間別出現状況.

期間	~ 12 月	1月						2月						3月					
		上旬		中旬		下旬		上旬		中旬		下旬		上旬		中旬		下旬	
調査日数		1	0	2	1	3	3	4	3	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5
クロスジフユエダシヤク♂	●	-																	
チャバネフユエダシヤク♂	●	-																	
クロオビフユナミシヤク♂	●	-																	
クロオビフユナミシヤク♀	●	-																	
ナミスジフユナミシヤク♂	●	-	●	●	●	●	●	●											
ナミスジフユナミシヤク♀	●	-		●	●	●	●	●											
ウスモンフユシヤク♂	●	-	●	●	●														
ウスモンフユシヤク♀	●	-																	
シロオビフユシヤク♂	●	-																	
ウスバフユシヤク♂	●	-	●	●	●	●													
クロテンフユシヤク♂	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クロテンフユシヤク♀	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クロバネフユシヤク♂	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
シモフリトゲエダシヤク♂	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
シモフリトゲエダシヤク♀	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
シロフユエダシヤク♂	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
シロフユエダシヤク♀	●	-			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
イチモジフユナミシヤク♀	●	-				●													
チャオビフユエダシヤク♂	●	-					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
チャオビフユエダシヤク♀	●	-					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
ヒロバフユエダシヤク♂	●	-							●	●	●	●	●	●	●	●			
ホソウスバフユシヤク♂	●	-								●	●	●	●	●	●	●	●		
ホソウスバフユシヤク♀	●	-								●	●	●	●	●	●	●	●		
シロトゲエダシヤク♂	●	-									●	●	●	●	●	●	●	●	
シロトゲエダシヤク♀	●	-									●	●	●	●	●	●	●	●	
フユシヤク亜科 sp. ♀	●	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

註 1~3月は各月6分割(1マス5日. 各月最終マスは6日または3日)し, 期間内に確認した種を●で示した.  
1月6~10日は調査日無し.



## ヤツボシシロカミキリ, その後 (2)

小西 和夫<sup>1)</sup>

### はじめに—分布と食樹について—

前回の報文以降にヤツボシシロカミキリの産地として報告されたのが, 鳥取市の本陣山 (山岸, 2020).

山岸瑞樹氏が標高 180 m 付近のナナカマドで, 成虫 4exs. を採集. 特定の樹以外からは得られていないという.

さらに 90 年代に但馬のカミキリムシを精力的に調査されていた永幡嘉之氏から, 浜坂町久斗山本谷で 2001 年にウラジロノキから羽脱した事例をご教示いただいた. また 1970 年代から兵庫県全域を独自に調査されていた阿部利一氏が, 永幡氏よりも早く城崎町来日岳および浜坂町久斗山本谷でアズキナシから本種を羽脱させておられ, これらはいずれも現在に至るまで未発表であるとのことである.

アズキナシ *Sorbus alnifolia* は海外からの報告もあり注目していたが, 日本でも食樹としていたようだ. ウラジロノキ *Sorbus japonica* もアズキナシによく似たナナカマド属 *Sorbus* の近縁種である.

初めての緊急事態宣言が解除された 2020 年 5 月末に久斗山から但馬海岸まで足を伸ばし, 帰りに本陣山に寄った. 北但馬から鳥取県東部の多雪地帯では特異的に低標高地にブナ林が散在し, ブナ帯要素のナナカマドやアズキナシも低位分布している. 久斗山本谷は標高

3~400m にブナ林があり, 麓の集落にはナナカマドの花が咲いていた. 加美町の海岸近くにもナナカマドは自生しており, 鳥取市の市街地に接する本陣山では 150 m 付近からナナカマドやアズキナシが見られた.

これまで東北日本において本種の産地は知られていなかったが, 北海道においても記録された (北海道, 2016). 「北海道レッドリスト [昆虫>コウチュウ目編]」の 2019 年の改定に際し, 「道内に生息記録のあるコウチュウ目の種・亜種について」作成された目録に記載された. 分布概念図を大きく更新することになるが, 朝鮮, 中国東北部から極東ロシア, 樺太に産する本種が北海道にいるのは不思議ではない.

ズミ (コリンゴ) の近縁種エゾノコリンゴ等を想像していたが, 青塚昭仁氏からの私信によれば, 北海道ではバラ科のクロミサンザシ *Crataegus chlorosarca* Maxim. の葉を後食するという.

クロミサンザシは北海道から樺太, 極東ロシアと, 長野の菅平に隔離分布している. 寒冷な時期に北方より南下して分布を広げたのち, 温暖化とともに後退して現在の分布になったと推定されている.

御岳周辺と広島では高原の湿地帯を好むズミに強く

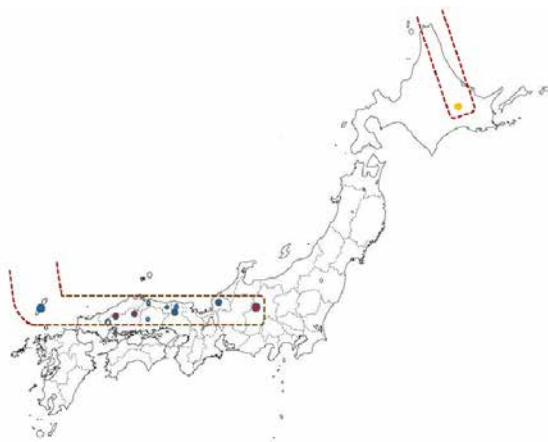


図1 分布概念図.



図2 ツシマナナカマド (但馬海岸). 「兵庫県植物目録」ではツシマナナカマドの項に [但馬] 扇ノ山, 氷ノ山, 妙見, 久斗, 床尾とある.

<sup>1)</sup> Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市

依存. 福井, 但馬, 鳥取ではナナカマド属 *Sorbus* の仲間を利用しているが, 北海道ではクロミサンザシを後食. かつての特産地, 対馬の食樹は不明である.

### 兔和野にて

2020年は6月21日に兔和野を訪れたが, 2019年に初めて本種を得たナナカマドは伐採され, 数本の樹の枝が道端に棄てられていた.

幸い発生木は無事だったが, 葉を掬っても何も入らず, 近隣のナナカマドにも虫の気配がない. 伐採による乾燥化も懸念された.

一週間後の6月27日に再訪. 近辺が皆伐されると今後会えなくなる恐れもあり, 今回は少し採集して後食行為を観察することにする.

はじめに発生木を掬うと3頭が網に入った. この間の不安が一気に解消し, 安堵する.

触角に欠損があった1頭はリリースして, 2頭をケースに. 続いて近くのナナカマドを掬い, 初めての高木で2頭(ペア)を得る. 元の発生木でさらに2頭を追加, このうちの1頭と合わせて計5頭を持ち帰ることにした.

周辺の樹々も広く食樹として利用していると思われるが, 特定の貧相な樹の生葉に集まるのは不思議である.

隣の樹のゴトウヅルに花が咲いている. 本種と初めて出会った2018年は, 6月17日に満開だった. 2020年は例年に比べて雪が少なかったが, 春先の低温のせいか季節が1週間は遅いようだ.

発生木のナナカマドと帰途の道路脇にあったアズキナシの枝葉を, 数本手折って帰宅.



図3 ツシマナナカマドとアズキナシ(本陣山). 近年はアズキナシをアズキナシ属に含め, 学名を *Aria alnifolia* と表記することもある.



図4 伐採されたナナカマド(兔和野).



図5 ヤツボシロカミキリ 2020.6.27(触角欠損).



図6 ヤツボシロカミキリ 2020.6.27.



図7 ヤツボシロカミキリ 2020.6.27.

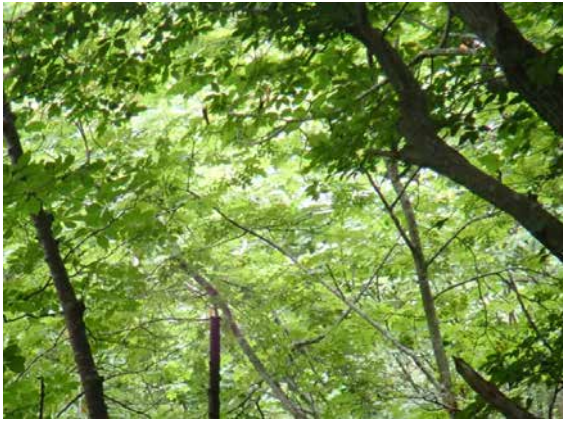


図8 ナナカマド(初採集の高木).



図9 アズキナシの枝葉.

**観察記**

衣装ケース内のフローラルフォームにナナカマドとアズキナシの枝葉を挿し、持ち帰った5頭を放して後食の様子を観察した。

昼間は葉裏に静止して後食する個体が多く、ナナカマドの葉に不定形な穴をあけていた。飼育環境だからか、葉裏だけでなく表からも食べる。また食べながら葉上に黒く細い線状の糞を付けていく。「妖精」は、華奢な体でよく食べ、よく糞をする。

一枚の葉を激しく食害するものもいたが、野外では葉を移動しながら後食して穴状の食痕を残すのだろうと、この時は思っていた。アズキナシの葉にも穴状の食痕が見られる。

翌日、公園に植樹されていたヒメリンゴの葉を挿してみた。

3種の葉を同時に挿した時には寄り付かず、ヒメリンゴだけにすると食べるものもいる。

日が暮れると活発に飛びまわり、夜から朝にかけて



図10 衣装(飼育)ケース.



図11 後食の様子(ナナカマド).



図12 後食痕(ナナカマド).



図13 後食痕(ナナカマド葉の表).



図 14 後食痕(アズキナシ).



図 15 後食痕(ヒメリンゴ: ズミやエゾノコリンゴの近縁種).



図 16 交尾 2020.6.28 夜.



図 17 交尾 2020.6.28 夜.



図 18 交尾 2020.6.29 朝.



図 19 ヤツボシシロカミキリの糞.



図 20 標本 [9 - 11mm] (八木剛氏 蔵・提供).

交尾行動がみられた。

この5頭は本誌に最初に投稿を勧めてもらった八木剛氏(人と自然の博物館)にお願いし、標本にしていた。兎和野産のヤツボシシロカミキリが地元の博物館に収蔵されるのは望外の幸せで、彼らも成仏できたらう。

### 対馬にて

県外への移動の自粛要請が解除された2020年6月19日から、急遽念願の対馬への渡航を計画。古くからヤツボシシロの特産地として知られ、シロカミキリ族のタカサゴシロ、オオシロ、ムネホシシロのほか、対馬特産種のチョウセンシロカミキリを産する対馬は魅力的だ。

しかし最近の対馬でのヤツボシシロの採集記録は確認できず、「長崎県産カミキリムシ科目録」(1994年)に対馬(比田勝、佐須奈、大星山、巖原)と、海岸近くの集落から山地まで採集地だけが記されている。今坂正一氏に尋ねたが採集状況は不明とのこと。

また「長崎県植物誌」(中西弘樹)にズミの記載はなく、「新対馬島誌」にはナナカマドやアズキナシは「低

地または低地に近いところから出現する」とある。比田勝や佐須奈など海岸近くでも記録があることから食樹は *Sorbus* の可能性が高いが、確証は得られていない。

7月2日から6日まで梅雨の最中ではあったが、晴れ間にも恵まれて様々な特産種に出会うことができ、夢のような日々を過ごした。朝鮮半島経由の大陸系のカミキリや、対馬暖流の影響で沖縄や南九州に見られる南方系のカミキリが混在する対馬は、やはり特別な島である。

林道を流して虫撮りに夢中になっていたのも、なじみ深いナナカマドは車中からも目に入ったが、アズキナシは見つからなかった。

残念ながらヤツボシシロには出会えなかったが、対馬にはノグルミとヤマグワが至る所に自生しており、生葉を掬うと前者からはタカサゴシロカミキリ *Olenecamptus formosanus* Pic, 1914, 後者からはキボシカミキリとともにチョウセンシロカミキリ *Olenecamptus subobliteratus* Pic, 1923 が網に落ちた。

帰宅予定の6日から九州地方を豪雨が襲い、対馬空港からは福岡行の最後の便だけが飛び、かろうじて西宮に帰着できた。



図21 ツシマナナカマド(対馬豊玉町).



図22 ツシマナナカマド(小葉・裏).

小葉は9-11枚が多く、葉裏に赤褐色の軟毛が密生するというサビバナナカマドの特徴は見られない。(各種文献にはツシマナナカマドとサビバナナカマドの2変種を記載).

「対馬の高等植物目録」1976年に「ズミ(有明山)」と記載されているが、学名は *Pilea hamaoi* Mak. とあり「ミズ」の誤植か。中西弘樹氏によれば1980年の外山三郎「長崎県植物誌」や最近の記録にもなく、対馬には見られないという。



図23 タカサゴシロカミキリ(対馬)2020.7.3.



図24 チョウセンシロカミキリ(対馬)2020.7.5.



図25 ヤツボシシロカミキリ (大きな個体)13mm 2020.7.16.



図27 ヤツボシシロ (図25)とタカサゴシロ (図26)の体サイズ比較 2020.7.16.



図26 タカサゴシロカミキリ (小さな個体)13mm (村岡) 2020.7.16.  
タカサゴシロカミキリの上翅の斑紋には、白地に会合線や側縁、側紋部にわずかな茶色の線や点が登場する型 (図23) と、茶色の線や側紋が発達して茶色地に8つの白色紋が現れる型 (図28)、この2型の間で多様な変異がみられる。

### おわりに

兎和野には7月16日に再訪し、いつもの樹でまたヤツボシシロ2頭を得た。7月中旬まで発生していることを確認した同じ日に、兎和野の北の村岡区にあるノグルミの生葉で近縁種のタカサゴシロカミキリ2頭を得た。両種は発生時期が重なり、ヤツボシシロの大きな個体とタカサゴシロの小さな個体は、ほぼ同じ体サイズであった。

「日本産カミキリムシ」によればタカサゴシロとは異所的に、ヤツボシシロがより高緯度の地域に分布するとあるが、兵庫から対馬に至るヤツボシシロの分布域では側所的もしくは同所的に生息しているようである。これらの地域では食樹の違いにより棲み分けているのだろうか。

ブログに掲載された奄美のタカサゴシロと北海道のヤツボシシロは、上翅の斑紋や後食痕、黒い糞を葉上に



図28 タカサゴシロカミキリ生態写真 (奄美)「提供:『確認済飛行物体』(ブログ)」.



図29 ヤツボシシロカミキリ生態写真 (北海道)「提供:『昆虫探偵団』(ブログ)」.

つけるところまでよく似ている。

ヤツボシシロが野外で後食している生態写真は初めて見る貴重な記録であり、飼育環境以外でも同じ葉を激しく食害することがわかる。

生態も形姿も似ている両種の祖先の起源や、いつ頃どこで種分化し、現在のような分布をするようになったのか興味は尽きない。

#### 謝辞

最後に、兵庫県のヤツボシシロカミキリに関する貴重な未発表記録について本誌で紹介させていただけることを、永幡嘉之氏並びに阿部利一氏に深く感謝し、敬意を表します。

またご多忙のなか美しい標本を作成していただいた八木剛氏にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

さらに対馬の植物やカミキリについての照会に丁寧にお答えいただいた中西弘樹氏や今坂正一氏、境良朗氏、ブログ内の生態写真の提供を快諾していただいた nori さん、北海道の生態写真の提供及び食樹の情報をご教示いただいた青塚昭仁氏（だんちょうさん）に感謝いたします。

#### 参考文献

- 山岸瑞樹「鳥取市におけるヤツボシシロカミキリの記録」『すかしば』2020年(67)p62
- 清水寛厚・矢野孝雄「兵庫県北但馬地域における低位ブナ林とその存立条件」『鳥取大学教育地域科学部紀要 地域研究』2001年3(1)p111-131
- 紅谷進二「兵庫県植物目録」六月社書房 1971年
- 外山三郎, 松林文作「対馬の高等植物目録」『対馬の生物』(長崎県生物学会) 1976年
- 北海道(2016)【種・亜種目録】北海道のコウチュウ(2019年1月18日時点道調べ)  
[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/syuasyumokuroku\\_konchu.kouchu.pdf](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/syuasyumokuroku_konchu.kouchu.pdf) <2021年5月1日アクセス>
- 長崎昆虫同好会甲虫会グループ「長崎県産カミキリムシ科目録」1994年
- 『今坂正一と E-アシスト』(ブログ)  
<http://www.coleoptera.jp/modules/tinyd1/index.php?id=6> <2021年5月1日アクセス>
- 中西弘樹「長崎県植物誌」長崎新聞社 2015年
- 新対馬島誌編集委員会「新対馬島誌」1964年
- 大林延夫, 新里達也「日本産カミキリムシ」東海大学出版会 2007年
- 「奄美大島その4～タカサゴシロカミキリなど～」『確認済飛行物体』(ブログ)  
<http://ifo-nori.cocolog-nifty.com/blog/2018/05/post-b32c.html> <2021年5月1日アクセス>

「ヤツボシシロカミキリ」『こんちゅう探偵団』(ブログ)  
[https://blog.goo.ne.jp/necydalis\\_major/e/770afc4915f4a0bd974f1b50c7ec136e](https://blog.goo.ne.jp/necydalis_major/e/770afc4915f4a0bd974f1b50c7ec136e) <2021年5月1日アクセス>

## サラサヤンマ (*Sarasaenchna pryeri* (Martin,1909)) の変わった場所での羽化殻を採集

相坂 耕作<sup>1)</sup>・東 輝弥<sup>2)</sup>

### 1. はじめに

サラサヤンマの生息地は樹林に囲まれた平地から丘陵地の低湿地にいて、幼虫はこれらの湿地帯の水位が浅い所とか道横の排水溝などに生息している。そして羽化するところは付近の木立からしている。しかしこのような場所で無い所から羽化殻を採集したので参考になればと思い報告します。

### 2. 採集場所とその環境

採集地は兵庫県赤穂郡上郡町の赤松の郷昆虫文化館建物。この建物は平地より一段高く中世期の武将の邸宅跡地で元町立幼稚園の建物を利用している。建物がある環境は前が運動場としての広場、後は山が迫っていて雑木と竹林になっている、その横に畑地がある、敷地の周囲には排水溝がめぐらされている。また建物の周囲には

排水溝が廻らされ側溝蓋で覆われている。羽化殻はこの建物の壁および設置されている品物に付着していた。これらの場所は建物の裏側の日陰である。

### 3. 幼虫の生息場所

幼虫の生息場所と思われるのは建物の周囲の排水溝か敷地の周囲の排水溝しかない、建物周囲の排水溝は溝蓋が設置されている雨が降った時しか水はない。敷地周囲の排水溝に蓋はなく落ち葉がある程度溜まっていて山からの浸みだし水である程度しめっている。それと建物の西側に小さい池というか水たまりが有り菖蒲が一面に繁茂している。これらのうち有力なのが建物周囲山側の排水溝である。ここから建物まで距離は近くて1.5メートル、最長で5メートルほどある。サラサヤンマの幼虫は羽化の時移動距離は長いがあるので可能と思う。



図1 2017/07/08.



図2 2018/05/03.



図3 2019/11/02.



図4 2020/05/23.

<sup>1)</sup> Kousaku AISAKA 赤松の郷昆虫文化館；<sup>2)</sup> Teruya AZUMA 兵庫県高砂市



今までに一度も調査していないので調査の必要がある。

#### 4. 羽化殻の採集日

1. 2017/07/03 飼育籠の側面 棲息地予想地より 5m
2. 2018/05/03 建物の側面 棲息地予定地より 5m
3. 2019/11/02 建物の側面 棲息地予定地より 1.5m
4. 2020/05/23 設置箱の側面 棲息地予定地より 4m

これら羽化殻の採集は最初に相坂が見つけたもので後は気づいたときに見て回って見つけたもので羽化時期からずれているものが有る。写真は東が撮影している、羽化殻は相坂が保管している。

#### 5. 考察

サラサヤンマは産卵されてから羽化するまでに1年～3年かかるみたいなのでこのような場所では餌になる生き物が少ないので3年かかると思う、そして毎年羽化してくると付近を探すが1頭分しか見つからない。産卵される卵は1卵だけでは無いと思うので、もしかしたら共食いすることで生き延びて羽化するのだろうか不思議である。

#### 6. 参考文献

- 青木典司, 1998. 神戸のトンボ. 156pp., 財団法人神戸市スポーツ教育社.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2012. 日本のトンボ. 531., 文一総合出版.
- 山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明. 2009. 近畿のトンボ図鑑. 239pp., いかだ社.
- 武藤 明. 1958. サラサヤンマの生態. Tombo 01;(2-3):12-17.
- 石田昇三. 1958. サラサヤンマの脱皮殻を採る. Tombo 01;(18-19).
- 尾花 茂・井上 清・東 輝弥. 1965. サラサヤンマ幼虫の採集と羽化.
- 清水典之. 1973. サラサヤンマの羽化殻を8月に採る. 昆虫と自然. 08;(02):29.
- 笹本彰彦・久松定智. 2002. サラサヤンマ幼虫採集記録. アオハダ 1:28-29.
- 清拓哉・本田照雄・久松定智. 2003. サラサヤンマ幼虫の記録. アオハダ 2:40.
- 福井順治. 1996. サラサヤンマ幼虫の令期と飼育記録. Aeschna 3:9-13.
- 新井裕・広瀬良宏・須田真一. 1992. サラサヤンマ幼虫の採集記録. 月刊むし 257:35.

## みんなで調べようセミの初鳴き、鳴きおさめの日

### 総括編(1)

近藤 伸一<sup>1)</sup>・永井 英司<sup>2)</sup>

#### はじめに

皆様から頂いた情報をもとにセミの鳴き始めや鳴きおさめの時期を2013年から記録してきました。今回(2019～2020年)で8か年を経過し、多くの貴重な記録を集積することができました。調査は今回で終了したいと考えています。長期間にわたり多くの方々から貴重な情報をいただきました。厚くお礼申し上げます。

2019～2020年は、近畿(5府県59市町)、九州(1県1町)、四国(1県1町)、中国(1県4町)、北陸(2県4市町)、関東(3都県9市町)、東北(2県15市町)の18都府県89市町で、13種のセミの鳴き声の記録を877件(2019年582件、2020年295件)収集することが出来ました。

データ量が多くなったため2回に分割して、次回に種別の記録等を報告させていただきます。

#### 1 2019～2020年の概要

2019年は兵庫県内に分布する13種の鳴き声が記録された。2019年5月2日の兵庫県宍粟市・京都府福知山市のハルゼミで始まり、10月15日の奈良県橿原市のツクツクボウシで終了した。記録の詳細は表3のとおりである。

2020年は11種が記録された。2020年4月11日の兵庫県宝塚市のハルゼミで始まり、10月11日の京都府福知山市のツクツクボウシで終了した。記録の詳細は表4のとおりである。

#### 2 2013～2020年の兵庫県及びその周辺地域における 年度別、種別の鳴き声確認日(図1)

初鳴きの時期の差が年によって大きい種はハルゼミ、クマゼミ、アブラゼミ、差の少ないのはニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、鳴きおさめ時期の差が特に大きいのはクマゼミであった。

#### 3 2013～2020年の早い記録、遅い記録(表1)

初鳴きはハルゼミ(2020年4月11日宝塚市)が一番早く、チッチゼミ(2018年8月11日)が遅かった。

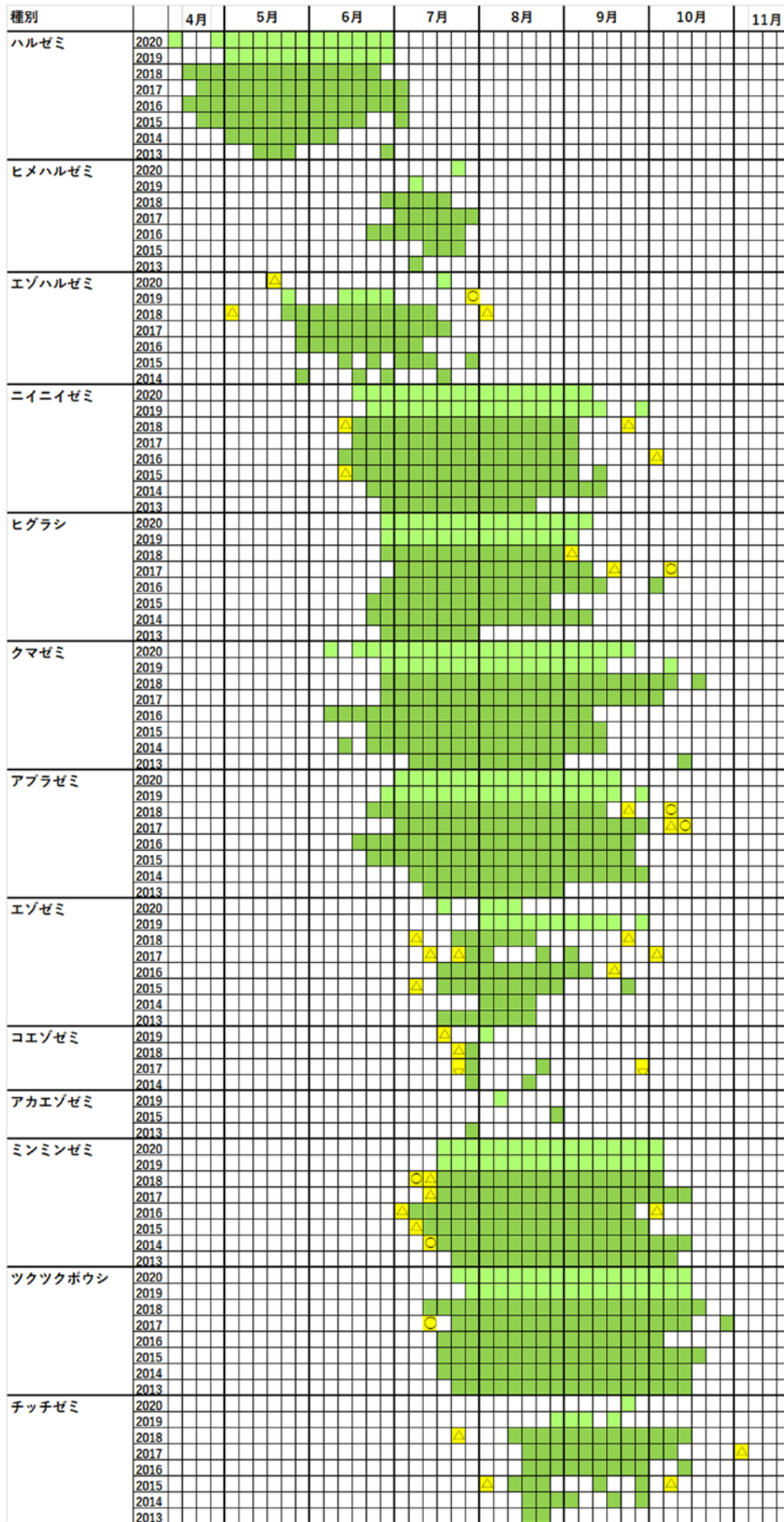
鳴きおさめはハルゼミ(2016年7月3日)が早く、遅い記録はツクツクボウシ(2017年10月27日)であった。

#### 謝辞

2019～2020年に情報をお寄せいただいた下記ごどもとむしの会会員、兵庫昆虫同好会会員、昆虫愛好家、Facebookグループなどの皆様、お礼申し上げます。

浅田 卓、安積茂年、市橋大輔、梅田博久、瓜生隆宏、上野真代、植田義輔、江田敏昭、太田慶子、太田昌子、大槻 浩、岡嶋幹雄、奥津脩一郎、尾崎真也、笠井裕代、金子留美子、河井 周、河井典子、川瀬真次、北岡茂基、北垣和也、熊代直生、久保弘幸、児玉裕美、小林政彦、小林慧人、近藤阿佐子、近藤太郎、齋藤泰彦、阪上洗多、坂本貴海、佐藤邦夫、山段弥寿子、山段眞彦、島崎正美、清水哲也、下山早苗、菅村定昌、高橋 信、高橋弘樹、高橋耕二、高田 要、竹下順子、竹田真木生、竹内隆、立岩幸雄、谷角素彦、内藤親彦、内藤慎一郎、永幡嘉之、中村康弘、那倉智行、西元大作、西元由香里、西本 裕、野口明美、八田康弘、藤本 出、林 太郎、伴 信彦、広畑政己、前川和則、前田啓治、正井俊郎、正木詔一、松尾秀行、松金知香、宮武頼夫、森野光太郎、藻川芳彦、茂見節子、山内ちはる、山本一幸、山崎悠高、横山 正、吉岡朋子、吉田浩史(敬称略)

<sup>1)</sup> Shinichi KONDO 兵庫県朝来市；<sup>2)</sup> Eizi NAGAI 兵庫県豊岡市



2019・2020 ■ 近畿及びその周辺 ○ 北陸 関東 ▲ 東北 ▼ 北海道

図1 兵庫県及びその周辺地域(近畿・岡山・鳥取)におけるセミの鳴き声の確認日(2013~2020の比較).

表1 兵庫県及びその周辺地域(近畿・岡山・鳥取)におけるセミの鳴き声の確認日.

種別	初鳴き			鳴きおさめ		
	早い記録		平均的	遅い記録		平均的
	月日	年	月日	月日	年	月日
ハルゼミ	4・11	2020	4・24	7・3	2016・2017	6・28
ヒメハルゼミ	6・21	2016	7・5	7・30	2017	7・23
エゾハルゼミ	5・23	2019	5・28	7・30	2015	7・15
ニイニイゼミ	6・14	2016	6・20	9・28	2019	9・8
ヒグラシ	6・21	2014	6・27	10・5	2016	9・8
クマゼミ	6・9	2020	6・21	10・19	2018	9・27
アブラゼミ	6・20	2016	6・30	9・31	2013	9・22
エゾゼミ	7・17	2016	7・23	9・26	2019	8・30
コエゾゼミ	7・26	2014	・	8・24	2017	・
アカエゾゼミ	7・26	2013	・	8・28	2015	・
ミンミンゼミ	7・9	2016	7・17	10・12	2014	10・5
ツクツクポウソウ	7・11	2018	7・20	10・27	2017	10・15
チッチゼミ	8・11	2018	8・19	10・14	2018・2014	10・4

表2 種類別セミの鳴き声情報 2019 (◎初めて鳴き声を確認 ●最後の鳴き声確認 ×鳴いていない).

ハルゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
4	28	兵庫	宍粟市	× 山崎町最上山 寒い。鳴かず。	立岩幸雄
	30	京都	福知山市	× 三段池公園 とても寒いです。例年ならハルゼミが鳴くはずですが、まだ鳴いていません。	山段眞彦
				◎ 猪崎三段池公園 9:00 やっと鳴きました。今年はずいぶん遅いです。	山段眞彦
	2	兵庫	宍粟市	◎ 最上山 たどたどしい(初々しい) 鳴き声を聞く。	立岩幸雄
4	大阪	枚方市	◎ 尊延寺(国見山) 今年初 3か所で	西元大作・由香里	
4	兵庫	豊岡市	◎ 但東町相田 9:28 初鳴き	永井英司	
4	兵庫	神戸市	市立森林植物園 12:18:00	太田昌子	
5	兵庫	新温泉	久斗山 13時ごろ近くの山で鳴き声を確認	山本一幸	
5	兵庫	宍粟市	最上山公園 11時ごろ 複数。	北岡茂基	
5	兵庫	豊岡市	高竜ヶ岳	児玉裕美	
6	三重	津市	河芸町の松林 (alt. 70m程) 薄曇り	前川和則	
6	兵庫	小野市	阿形町鴨池公園 少数 発生初期の様子です。	佐藤邦夫	
7	兵庫	佐用町	漆野	久保弘幸	
7	兵庫	たつの市	的場山	茂見節子	
8	兵庫	朝来市	上八代 短時間	近藤伸一	
9	兵庫	豊岡市	祥雲寺 コウノトリの郷公園内 11:00 大学院裏山で1頭	菅村定昌	
5	9	兵庫	豊岡市	祥雲寺 コウノトリの郷公園内 14:00 自然観察路の東の山で2頭	菅村定昌
	10	岡山	美作市	◎ 市原 初鳴き	藤本 出
	10	兵庫	赤穂市	◎ 大津 初鳴きを確認しました。	横山 正
	10	兵庫	宝塚市	◎ 大原野 初鳴き 15時30分から、2分ほどの間で	西本 裕
	11	兵庫	宝塚市	玉瀬 円山湿原で12時ごろ聞きました	西本 裕
	11	兵庫	三田市	有馬富士公園 お昼頃複数鳴いていました。	山内ちほる
	11	兵庫	たつの市	新宮町宮内の西播磨文化会館周辺の山	高橋弘樹
	12	京都	綾部市	四尾山	児玉裕美
	12	兵庫	姫路市	◎ 夢前町菅生潤 12:30-13:30	山崎悠高
	13	兵庫	豊岡	但東町相田 10:40	永井英司
13	兵庫	朝来市	佐美高原 10:30 複数鳴く	近藤伸一	
13	兵庫	上郡町	光都	茂見節子	
15	兵庫	朝来市	和田山町安井 10:00 複数鳴く	近藤伸一	
15	兵庫	丹波篠山市	多紀連山午前11時頃	山本一幸	
15	兵庫	豊岡市	目高町栗栖野 13:02 道の駅神鍋高原	永井英司	
15	兵庫	香美	村岡区大糠、蘇武岳登山道	森野光太郎	
16	兵庫	赤穂市	高尾山山頂付近	茂見節子	
16	兵庫	三木市	三木山森林公園	川瀬真次	
17	石川	能登町	風珠郡布浦の山林で 11:30頃	江田敏昭	

4	17	兵庫	朝来市	◎立脇 12:00 1頭 短時間 初鳴き	近藤伸一
	19	兵庫	たつの市	揖保川町ヤッポの森 数匹	茂見節子
	21	兵庫	豊岡市	日高町水上 11:00 複数	近藤伸一
	21	兵庫	豊岡市	日高町神鍋 12:00 複数	近藤伸一
	23	兵庫	豊岡市	但東町相田 9:49	永井英司
	24	兵庫	朝来市	和田山町藤和 11:00	近藤伸一
	25	兵庫	養父市	氷ノ山系氷ノ山越え 10時 数頭	菅村定昌
	25	兵庫	養父市	赤倉山 数頭 12時	菅村定昌
	25	京都	宮津市	天橋立。松並木のあちこちで鳴いていました。午前10時~11時	笠井裕代
	25	京都	宮津市	小田 杉山(旧大江山 スキー場周辺の松林) 10:00頃と14:00頃	児玉裕美
5	25	兵庫	豊岡市	東河内 12時頃	永井英司
	25	京都	福知山市	大江町大江山連峰 千丈ヶ岳へ至る車道沿い 16:00頃	児玉裕美
	26	兵庫	豊岡	但東町平田 14:00	正木昭一
	26	兵庫	豊岡市	長谷 16:00	正木昭一
	26	兵庫	加西市	南網引町網引湿原 AM10時ごろ	高田要
	26	兵庫	朝来市	立脇 12:00	近藤伸一
	29	兵庫	養父市	ハチ高原	近藤伸一
	29	兵庫	香美町	村岡区大笹	近藤伸一
	29	兵庫	香美	村岡区瀬川山	近藤伸一
	29	兵庫	香美町	村岡区兎和野高原	近藤伸一
6	29	兵庫	香美町	村岡区和池	近藤伸一
	1	兵庫	小野市	鴨池公園 3exs まだ鳴いている。近隣の他地域では鳴き声聞けず	佐藤邦夫
	6	兵庫	朝来市	●立脇 12:00 1個体昼頃短時間鳴く 6月3,4,6日と鳴声をきいたが以降は鳴かない。	近藤伸一
	13	兵庫	神戸市	有馬町番匠屋畑尾根の極楽茶屋~湯槽谷山間の標高750m付近の2ヵ所(それぞれ2個体約4個体の合唱)	植田義輔
				有野町唐櫃 番匠屋畑尾根の灰形山の標高600m付近の1ヵ所(2個体の合唱)	植田義輔
	18	兵庫	養父市	ハチ高原	近藤伸一
	25	兵庫	宍粟	千種町河内三室高原 複数個体が鳴いていました。	佐藤邦夫

ヒメハルゼミ 2019

7	8	兵庫	南あわじ市	轟黒岩水仙郷の谷筋で大合唱、耳をつんざくかと思われるほどでした。しばらくすると、何事もなかったかの様にシーンと。初めての経験でした。	茂見節子
---	---	----	-------	--	------

エゾハルゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
5	23	兵庫	新温泉町	◎ 上山高原の三角点 (標高 946m) の少し下方にあるミズナラの林で午後 1 時 05 分初鳴きを確認しました	山本一幸
6	13	兵庫	香美町	小代区 赤倉山西斜面 h 970 m	近藤伸一
	18	兵庫	養父市	ハチ高原 多数	近藤伸一
	26	兵庫	養父市	ハチ高原 多数	近藤伸一
7	17			白山ホワイトロード 鳴き声を聞きました。	金子留美子
	29	長野	白馬村	白馬五竜高山植物園	河井典子

ニイニゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名	
6	23	熊本	山鹿市	装飾古墳館	坂本貴海	
	24	高知	四万十市	(旧中村市) 午後	高橋弘樹	
	25	大阪	池田市	◎ 畑節句山	小林政彦	
	25	大阪	茨木市	東中条町 午後 1 時 1 頭鳴いていました。	谷角素彦	
	25	京都	福知山市	平野町	大槻浩	
	26	大阪	吹田市	◎藤白台 2 丁目 午前 9:05 から短時間	高橋耕二	
	26	大阪	池田市	八王子 (夫婦池公園) 1 9 時頃	梅田博久	
	27	兵庫	豊岡市	◎但東町相田 5:27 初鳴き	永井英司	
	28	兵庫	明石市	大久保町高丘	久保弘幸	
	28	兵庫	明石市	松陰	久保弘幸	
	28	兵庫	明石市	明石城公園	久保弘幸	
	28	兵庫	宝塚市	中山寺の奥の院	太田慶子	
	29	兵庫	明石市	◎ 大久保町高丘	久保弘幸	
	29	兵庫	芦屋市	船戸町 (JR 芦屋駅) 4 時 45 分	松金知香	
	29	兵庫	姫路市	◎青山南 1 町	内藤親彦	
	29	兵庫	加西市	上宮木町の山林で午後 4 時ごろ	高田 要	
	29	兵庫	姫路市	◎白国 10:40	山崎悠高	
	29	三重	鈴鹿市	◎高岡 初鳴き	前川和則	
	7	1	岡山	美作市	◎市原 たぶん初鳴き	藤本 出
		1	京丹後市	峰山町丹波	17 時 15 分	山段眞彦
		1	東京	三鷹市	◎井の頭公園 初聞き 19:00	野口明美
		1	山形	山形市	◎蔵王飯盒では初鳴き (家族団)。	永幡嘉之
		2	京都	京都市	伏見警察署前の公園 (京都市伏見区)	那倉智行
2		兵庫	豊岡市	祥雲寺 (コウノトリの郷公園) 10 時	高橋信	
2		兵庫	新温泉町	久斗山、午後 2 時ごろ。山裾の雑木林から	山本一幸	
2		東京	八王子市		河村幸子	
2		奈良	橿原市	南山町 橿原市昆虫館バタフライガーデン 15:12 ♀ 1 抜け殻も確認	林 太郎	
2		兵庫	三田市	有馬富士公園	金子留美子	
2		兵庫	伊丹市	伊丹市昆陽池公園	藤川芳彦	
3		宮城	村田町	迫 (今年の仙台は梅雨入りが早かった上に、日照不足と低温で虫の発生が遅れていてようやく (7 月 9 日ごろ) 鳴き出したとこです。)	清水哲也	
		3	山形	山形市	蔵王半郷	永幡嘉之
		3	山形	山形市	三吉山	永幡嘉之
		3	山形	山形市	蔵王山田。	永幡嘉之
		4	大阪	枚方市	藤阪東町 3 (菅原東小学校), (9:35 ~ 9:45) 今年初	西元大作
		4	兵庫	加西市	◎笹倉町の山林で (木) 午後 5 時ごろ	高田 要
		4	兵庫	宍粟市	◎一宮町生栖 初聞き	浅田 卓
		4	兵庫	豊岡市	但東町久畑 9:59	永井英司
		4	兵庫	三木市	◎三木山森林公園 今年遅くたぶん初鳴き	川瀬真次
		5	大阪	枚方市	◎枚方上之町、1 個体の鳴き声 当地では初鳴き	植田義輔
		5	大阪	吹田市	津雲台 1 丁目千里南公園	高橋耕二
		5	兵庫	篠山市	◎東古佐午 後 2 時ごろ初聞き	河井典子
	5	奈良	奈良市	近大農学部	坂本貴海	
	6	兵庫	たつの市	◎御津町 初鳴きを確認	茂見節子	
	6	兵庫	加古川市	◎西神吉町岸 初聞き	浅田 卓	
	6	山形	小国町	◎小玉川 (午前 4 時 30 分に鳴き始め)。	永幡嘉之	
	7	兵庫	たつの市	龍野町富永	前田啓治	
7	京都	綾部市	高津町 13:00 頃鳴き出し、断続的に鳴く	児玉裕美		
8	兵庫	神戸市	中央区神戸空港 1 個体 鳴き声	吉田浩史		

7	10	兵庫	神戸市	灘区六甲台 1 個体 鳴き声	吉田浩史	
	10	兵庫	神戸市	北区有馬町 1 個体 鳴き声	吉田浩史	
	11	兵庫	神戸市	灘区永手町 JR 六甲道駅北 1 個体 鳴き声	吉田浩史	
	11	兵庫	豊岡市	日高町上石 国府テラス駐車場 19 時 1 頭	菅村定昌	
	11	兵庫	加古川市	◎志方町志方町宮山 やつと鳴きだす	竹内 隆	
	12	兵庫	神戸市	灘区八幡町 六甲八幡神社 1 個体 鳴き声	吉田浩史	
	12	兵庫	猪名川町	上野	吉岡朋子	
	14	奈良	橿原市	南山町 橿原市昆虫館の前 10:30 曇り 1 羽鳴き続けていた	宮武頼夫	
	14	兵庫	朝来市	和田山町桑原 AM10:30	安積茂年	
	15	兵庫	朝来市	◎多々良木 14 時 37 分梅雨のやみまに、今年初めて聞きました	尾崎真也	
	15	兵庫	姫路市	青山南 庭では木の枝や幹に抜け殻を 6 個確認	内藤親彦	
	16	兵庫	神戸市	◎須磨区竜が台 18:00 初鳴き	瓜生隆宏	
	17	兵庫	丹波市	青垣町沢野 18 時半	尾崎真也	
	17	兵庫	朝来市	和田山町安井 多数鳴く	近藤伸一	
	17	兵庫	朝来市	和田山町市御堂	近藤伸一	
	17	兵庫	朝来市	◎立脇 初鳴き	近藤伸一	
	19	兵庫	丹波市	青垣町沢野。18 時半 ようやく、セミの合唱が聞けるようになる。	尾崎真也	
	20	兵庫	神戸市	東灘区住吉山手 5 時	松金知香	
	21	兵庫	多可町	中区麴屋 多数	近藤伸一	
	23	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 23:45	瓜生隆宏	
	26	兵庫	丹波市	市島町中竹田	近藤伸一	
	26	兵庫	丹波市	市島町下鴨坂	近藤伸一	
	26	兵庫	丹波市	氷上町絹山	近藤伸一	
	29	兵庫	神戸市	東灘区岡本 1 個体	吉田浩史	
	8	3	京都	福知山市	18:00 市猪崎	山段眞彦
		11	兵庫	養父市	井の坪	近藤伸一
		12	兵庫	朝来市	立脇 18:00 まだ多数が鳴く	近藤伸一
		13	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園)	山段眞彦
		14	京都	綾部市	綾部市高津町段	児玉裕美
15		兵庫	朝来市	8 月 15 日 朝来市立脇 近藤伸一	近藤伸一	
19		京都	福知山市	6:30 猪崎	山段眞彦	
19		兵庫	神戸市	東灘区岡本 鳴き声 1 個体 その後周辺市街地では聞いていない	吉田浩史	
22		兵庫	三木市	●三木山森林公園 鳴きおさめ	川瀬真治	
24		兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 鳴き声数個体社寺林ではまだ鳴いている	吉田浩史	
25		兵庫	たつの市	●御津町黒崎での鳴き納め	茂見節子	
26		大阪	枚方市	●枚方上之町、1 個体の鳴き声を確認、当地では終鳴となる。	植田義輔	
28		兵庫	神戸市	東灘区岡本、中之町公園 曇 午後 5 時半ごろ 鳴き声 1 個体 周辺ではしばらく聞いていなかった	吉田浩史	
9		11	兵庫	丹波篠山市	●杉 朝 8 時前	河井典子
		28	兵庫	豊岡市	城崎町戸島湿地	内藤慎一郎

クマゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
6	22	大阪	摂津市	×学園町嘉岡公園で生きたみを持ってきた子がいた。鳴き声はまだ	金子留美子
	28	兵庫	明石市	松陰	久保弘幸
	29	大阪	堺市	堺市堺区 方違神社前 9:36 雄 1 頭 鳴き声確認	林 太郎
7	2	大阪	茨木市	新庄町 午後 1 時 1 頭が鳴いていました。	谷角素彦
	3	大阪	摂津市	一津屋 朝 一声鳴き	金子留美子
	4	兵庫	宝塚市	◎高司 8 時半頃	松金知香
	4	兵庫	神戸市	市灘区日尾町 1 個体 飛翔中を目撃 性別不明 鳴き声なし	吉田浩史
	4	兵庫	神戸市	◎中央区港島中町ポートアイランド南公園 初鳴き	森地重博
	5	兵庫	高砂市	◎松波町 初鳴	島崎正美
	5	大阪	枚方市	◎枚方上之町、1 個体の鳴き声。当地では初鳴き。	植田義輔
	5	大阪	吹田市	◎藤白台 2 丁目 10:05 からごく短時間	高橋耕二
	5	大阪	吹田市	津雲台 1 丁目千里南公園 11:45 から短時間	高橋耕二
	5	奈良	橿原市	◎木原町耳成山頂上付近 初聴き 10:31 薄曇 26℃ 1 コーラス 10:45 晴 29℃ 1 コーラス	宮武頼夫
	5	兵庫	伊丹市	◎瑞ヶ丘 2 丁目 10 時 20 分。昨年聞いた伊丹市千僧より 1 週間ほど遅い。	藤川芳彦
	5	兵庫	神戸市	◎垂水区西舞子 初聞き	浅田 卓

7	5	兵庫	高砂市	◎松波町で初鳴き	島崎正美
	6	大阪	大阪市	◎北区中之島 9:00	山崎悠高
	7	奈良	橿原市	新賀町 午前10時から 晴 27.8℃ 何回も少し開けて鳴く。	宮武頼夫
	7	奈良	橿原市	上品寺町 耳成西小学校 9:28 ♂1 鳴き声	林 太郎
	8	兵庫	神戸市	灘区	坂本貴海
	8	兵庫	神戸市	中央区加納町 JR三ノ宮駅周辺 1個体鳴き声	吉田浩史
	10	兵庫	神戸市	◎東灘区岡本 阪急岡本駅南側 午前8時半頃 1個体 初鳴	吉田浩史
	10	兵庫	神戸市	◎東灘区田中町 午前9時頃 1個体 初鳴	吉田浩史
	10	兵庫	神戸市	◎中央区北長狭通	浅田 卓
	10	大阪	枚方市	◎藤阪東町 午前9時25分 今年初開きです	西元大作
	10	兵庫	明石市	◎東野町 7:19 初鳴き	正井俊郎
	10	京都	京都市	伏見区 3日ほど前から4~5匹の合唱 幼虫も続々と	那倉智行
	10	京都	京都市	左京区 京大	小林慧人
	12	兵庫	神戸市	◎8:45 初鳴き 兵庫県警本部駐車場 この一角だけ	瓜生隆弘
	12	兵庫	神戸市	東灘区田中町 中之町公園 約3個体 鳴き声	吉田浩史
	12	兵庫	神戸市	八幡町 六甲八幡神社 5個体以上 鳴き声	吉田浩史
	12	兵庫	神戸市	灘区六甲町 六甲風の郷公園 1個体 鳴き声	吉田浩史
	12	兵庫	明石市	二見町東二見 ♂成虫発見	佐藤邦夫
	13	兵庫	神戸市	◎須磨区竜が台 初鳴き	瓜生隆弘
	13	兵庫	西宮市	◎丸橋町 今朝やっと初鳴き。庭の檜の木で数頭が一斉に	伴 信彦
	13	兵庫	たつの市	龍野町堂本	前田啓治
	14	兵庫	明石市	二見町東二見	佐藤邦夫
	15	兵庫	三木市	◎三木山森林公園 初鳴きを確認	川瀬英次
	15	兵庫	姫路市	青山南 裏山で鳴く	内藤親彦
	16	兵庫	たつの市	◎御津町黒崎。やっと鳴き始めました	茂見節子
	17	兵庫	加西市	◎笹倉町 午前8時30分ごろ初鳴きを聴きました。	高田 要
	15	京都	富士公園	10時 福知山市興	大槻 浩
	17	兵庫	綾部市	◎綾部市高津町 初鳴き	児玉裕美
	20	兵庫	神戸市	東灘区西岡本	松金知香
	21	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
21	京都	京都市	伏見区 住宅街の中の児童公園 騒音レベルの大会唱	那倉智行	
22	京都	京都市	伏見区桃山井伊掃部 アプラゼミと大合唱!	竹下順子	
23	兵庫	丹波篠山市	◎大沢新 篠山駅近く AM8時ごろ初めて声を聞きました	河井典子	
29	兵庫	丹波篠山市	◎網掛	河井典子	
30	兵庫	丹波篠山市	◎東古佐	河井典子	
30	兵庫	朝来市	◎立脇 9:00~ 初鳴き 1個体	近藤伸一	
8	1	兵庫	豊岡市	◎相田 8:08 初鳴き	永井英司
	2	兵庫	豊岡市	京町 数日前から鳴いていたようだが、今日は合唱が始まった。	正木詔一
	2	兵庫	神戸市	8:00 須磨区竜が台	瓜生隆弘
	2	兵庫	豊岡市	祥雲寺 8時40分 コウノトリの郷公園西公園ケージ周辺	高橋 信
	2	兵庫	豊岡市	日高町上石 一頭 同時にニイニゼミ、アプラゼミ多数が鳴く	菅村定昌
	3	兵庫	神戸市	灘区六甲山町 (六甲有馬ロープウェイの六甲山頂駅付近: 標高約870m) 1個体の鳴き声を10:12に確認。	植田義輔
	4	兵庫	佐用町	船越 昆虫館 午前	近藤伸一
	4	兵庫	朝来市	立脇	尾崎真也
	4	兵庫	豊岡市	8時30分 豊岡市香住	高橋信
	5	兵庫	丹波市	8月5日 8時半 丹波市青垣町沢野	尾崎真也
	6	兵庫	新温泉町	◎久斗山 9時すぎ裏山で鳴き声確認、初めて聴きました。	山本一幸
	7	兵庫	丹波市	◎青垣町沢野 8時半 1頭、この場所でクマゼミは初めて	尾崎真也
9	兵庫	神戸市	寺前 9時45分	尾崎真也	
10	兵庫	豊岡市	但東町相田 8:17 ことしは安定して鳴く。去年までは初鳴きが鳴きおさめだった	永井英司	
10	兵庫	朝来市	生野町真弓	近藤伸一	
10	兵庫	神戸市	杉・福本	近藤伸一	
10	兵庫	市川町	屋形	近藤伸一	
10	兵庫	加西市	北条町北条・桑原町	近藤伸一	
10	兵庫	小野市	敷地町	近藤伸一	
12	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園)	山段眞彦	
8	14	京都	綾部市	高津町段	児玉裕美
	14	兵庫	豊岡市	但東町相田 相田コミュニティセンター 16時	永井英司
	17	兵庫	たつの市	●御津町黒崎での鳴き納め	茂見節子
	18	兵庫	西宮市	岡度町 鳴き声3個体 メス2個体目撃 ここは毎週日曜のみ行く。先週は多かったが一週間で減少	吉田浩史
	19	兵庫	神戸市	東灘区岡本、阪急岡本駅南側 曇時々雨 鳴き声1個体 前日18日は晴れていたが鳴き声なし。かなり減ってきた印象	吉田浩史
	19	兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 曇 周辺市街地では先週末から今週にかけてかなり少なくなったが、社寺林ではまだ多く鳴いている	吉田浩史
	20	兵庫	神戸市	灘区深田町、JR六甲道駅南側 曇 鳴き声2個体	吉田浩史
	21	兵庫	神戸市	東灘区岡本、JR摂津本山駅北側 曇 鳴き声1個体 いつもより南側だが、まだ鳴いていた。前日20日は鳴き声なし	吉田浩史
	21	兵庫	神戸市	灘区友田町 曇 鳴き声1個体 まだ鳴いていた この辺りではおそろく終鳴	吉田浩史
	22	兵庫	神戸市	東灘区岡本、阪急岡本駅南側 曇 鳴き声1個体	吉田浩史
	22	兵庫	神戸市	東灘区田中町、JR摂津本山駅南側 曇 鳴き声約5個体 市街地だがここは比較的クマゼミが多い	吉田浩史
	23	兵庫	神戸市	東灘区岡本、摂津本山駅北側 曇 こちらも約3個体鳴いている	吉田浩史
	24	兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 晴 社寺林から鳴き声数個体。午前10時すぎ、神戸市の市街地で聞けるセミのうちヒグラシを除く5種の声をほぼ同時に聞くことができた	吉田浩史
	24	兵庫	神戸市	灘区六甲町、六甲風の郷公園 神戸市街地の公園。最盛期には非常に多数の個体はいたが、もう鳴き声は聞こえない	吉田浩史
	24	兵庫	豊岡市	但東町相田 10:46	永井英司
	24	兵庫	豊岡市	豊岡中央公園 16:45	永井英司
	25	兵庫	豊岡市	但東町相田 安国寺 8:02	永井英司
	25	兵庫	西宮市	岡度町 ここは毎週日曜のみ行く。今週は鳴き声なし 飛翔中2個体目撃、おそらくメス 路上に死骸が目立つ	吉田浩史
26	兵庫	神戸市	東灘区岡本・田中町、摂津本山駅周辺 晴 2個体のみまだ鳴いていた 27日以降天気が悪く、おそらく終鳴	吉田浩史	
26	兵庫	豊岡市	市民会館前 17:48	永井英司	
27	京都	綾部市	高津町段 この日からクマゼミの声が聞こえなくなる	児玉裕美	
28	兵庫	神戸市	●灘区深田町、JR六甲道駅南側 曇 鳴き声1個体 終鳴?	吉田浩史	
29	京都	福知山市	猪崎 6時50分	山段眞彦	
30	兵庫	朝来市	●立脇 1週間ぶりに短時間鳴く 鳴きおさめ	近藤伸一	
31	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 8:30 久しぶりに晴れたら数匹鳴く	瓜生隆弘	
31	京都	福知山市	猪崎 晴れ間が出るかと数頭鳴きました 10:00	山段眞彦	
31	京都	綾部市	●高津町段 10時頃 まだ鳴いてました	児玉裕美	
1	兵庫	丹波篠山市	●東古佐 自宅近く聞いた最後	河井典子	
2	兵庫	丹波篠山市	●野間 篠山で聞いた最後	河井典子	
4	兵庫	朝来市	●和田山町安井 1個体が数回鳴く 8:50	近藤伸一	
5	大阪	枚方市	●枚方上之町、1個体の鳴き声を10:40に確認、当地では鳴き納めとなる。	植田義輔	
5	奈良	橿原市	●天の香具山	林 太郎	
9	奈良	橿原市	●新賀町の自宅付近では、朝9時前に1♂が鳴いていましたが、その後お天気はよく気温も高いのに、今朝まで一度も鳴き声をきませんでした。この辺りでは9日が終鳴かと思えます。	宮武頼夫	
10	兵庫	三木市	●三木山森林公園 鳴きおさめ	川瀬英次	
12	兵庫	赤穂市	●加里屋 ♀	岡嶋幹雄	
15	奈良	奈良市	奈良公園飛火野 午前9時35分晴気温約29℃ 1♂鳴き声を聞く	宮武頼夫	
10	6	奈良	橿原市	木原町耳成山 午後0時41分晴気温約26.8℃ 1♂3回鳴き声を聞く	宮武頼夫

ヒグラシ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
6	26	兵庫	新温泉町	◎赤崎 13:44 初開き	永井英司
	28	岡山	美作市	◎ たぶん初鳴き	藤本出
7	1	兵庫	豊岡市	◎但東町相田 4:42 初鳴き	永井英司
	2	兵庫	加東市	◎やしろの森公園 初鳴き確認	阪上洗多
	4	兵庫	姫路市	夢前町 19時ごろ	下山早苗
	5	兵庫	篠山市	◎網掛 夕方 初開き	河井 周
	6	大阪	池田市	◎畑筒旬山周辺 18:30 初鳴き	小林政彦

7	兵庫	朝来市	◎立脇 18:30 初鳴き	近藤伸一	
8	兵庫	加東市	滝野町多井田 複数鳴いていました。	佐藤邦夫	
8	兵庫	豊岡市	京町 19:00 裏山	正木詔一	
9	奈良	奈良市	近大農学部	坂本貴海	
9	京都	福知山市	猪崎三段池公園内 午後5時過ぎ	山段弥寿子	
9	京都	綾部市	高津町 18:00頃	児玉裕美	
9	兵庫	新温泉町	◎久斗山。午後7時大杉神社の社寺林で初鳴きを確認。	山本一幸	
10	兵庫	神戸市	灘区六甲山町 六甲有馬ロープウェイ山上駅周辺 1個体 鳴き声	吉田浩史	
11	山形	大江町	松保	永幡嘉之	
13	山形	小国町	小玉川	永幡嘉之	
13	兵庫	朝来市	立脇 4:46 1個体	植田義輔	
15	兵庫	姫路市	青山山 1♂裏山で鳴く	内藤親彦	
15	兵庫	神戸市	◎北区有野台夕方 初鳴き 昨年より1週間ほど遅い	八田 康弘	
15	山形	山形市	◎蔵王半郷(初鳴き)。例年7月初旬が初鳴き、今年は遅い。	永幡嘉之	
15	兵庫	朝来市	◎立脇 19時 今年、初めて聞きました。	尾崎真也	
15	兵庫	三木市	◎三木山森林公園 初鳴き	川瀬真次	
15	兵庫	豊岡市	祥雲寺 コウノトリの郷公園内 18時30分頃 県立大大学院裏。但し、大学院の学生の情報によれば、7月10日には鳴いていたとの事と遅いかな。	北垣和也	
16	石川	珠洲市	◎折戸町 15:00頃 初聴き 昨年よりちよと遅いかな。	江田敏昭	
16	兵庫	養父市	大屋町天滝登山道入り口から3分の1 16時数頭	菅村定昌	
16	奈良	橿原市	◎南山町 橿原市昆虫館バタフライガーデン 17:49 ♀2 鳴き声	林 太郎	
17	兵庫	朝来市	7月17日 朝来市立脇 今夕から多数が鳴き始めた 近藤伸一	近藤伸一	
17	東京	武蔵野市	◎井の頭公園 18:00 初聞き	野口明美	
17	兵庫	朝来市	◎和田山町桑原 18:45 ここでは初めて聞きました	安曇茂年	
17	兵庫	丹波市	青垣町沢野 18時半	尾崎真也	
17	兵庫	神戸市	◎須磨区竜が台 19:00 初鳴き	瓜生隆宏	
18	岩手	岩泉町	龍泉洞 声	永幡嘉之	
19	兵庫	加西市	◎笹倉町午後5時過ぎ初鳴きを聴きました	高田 要	
19	福島	富岡町	上手岡 声 (7月16日には声はせず)	永幡嘉之	
19	兵庫	丹波市	青垣町沢野 18時半	尾崎真也	
20	兵庫	神戸市	東灘区住吉山手 5時	松金知香	
21	兵庫	多可町	中区麴屋 1個体	久保弘幸	
24	兵庫	養父市	ハチ高原	植田義輔	
24~31	兵庫	朝来市	7月24日~31日 立脇 早朝鳴きの時間帯 24日4:41~ 25日4:39~ 26日4:33~ 27日4:34~ 5:13 30日4:44~ 31日4:36~	近藤伸一	
25	福島	喜多市	高郷町揚津 早朝3時?確認しました。	上野真代	
26	兵庫	丹波市	市島町中竹田 熊野神社 16:00	近藤伸一	
26	兵庫	神戸市	北区上津台	浅田 卓	
27	兵庫	豊岡市	城崎町田結湿地 am4:00	内藤慎一郎	
27	石川	白山市	18:46 白峰 山は土砂降り。なのに鯛の鳴き声か。	江田敏昭	
28	京都	福知山市	4:41 猪崎	山段眞彦	
31	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一	
5	三重	鈴鹿市	◎初鳴き	前川和則	
6	兵庫	丹波市	青垣町沢野 18時50分ヒグラシ合唱	尾崎真也	
10	兵庫	三木市	三木山森林公園	近藤伸一	
10	奈良	御所市	金剛山頂上のブナ林 午後3時頃から多数鳴いた。	宮武頼夫	
11~20	兵庫	朝来市	立脇 11日4:50~5:14 15日5:19 20日5:20~5:25 24日5:25 1頭が数回鳴く	近藤伸一	
12	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園)	山段眞彦	
14	京都	綾部市	高津町段	児玉裕美	
30	兵庫	朝来市	●立脇 夕刻 1頭が数回鳴く	近藤伸一	
30	兵庫	朝来市	桑市 夕刻 1頭が数回鳴く	近藤伸一	
30	兵庫	豊岡市	5:13 相田	永井英司	
31	兵庫	新温泉町	久斗山 18時35分 我が家の裏山から鳴いています。	山本一幸	
9	2	兵庫	丹波篠山市	●東古佐 最後	河井典子

アブラゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
6	26	大阪	池田市	八王子 (夫婦池公園) 19時頃	梅田博久
3	大阪	池田市	畑節句山周辺 8時35分 飛んでいるのを確認	小林政彦	
7	兵庫	明石市	大久保町 羽化を確認。鳴き声は聞こえませんが。	久保弘幸	
7	奈良	橿原市	南山町 橿原市昆虫館のバタフライガーデン 12:07 ♀1 鳴き声	林 太郎	
8	兵庫	明石市	◎大久保町 鳴声確認	久保弘幸	
9	兵庫	たつの市たつの	◎御津町 初鳴きを確認	茂見節子	
9	奈良	奈良市	近大農学部	坂本貴海	
10	兵庫	神戸市	◎西区井吹台 初鳴き	吉岡朋子	
10	大阪	枚方市	◎枚方上之町、1個体の鳴き声。当地では初鳴き。	植田義輔	
15	兵庫	三木市	◎三木山森林公園 初鳴きを確認	川瀬真次	
15	兵庫	丹波篠山市	◎東古佐 初鳴き。夕方単独で鳴いていました。	河井典子	
15	岩手	花巻市	東和	山崎悠高	
15	山形	村山市	◎村山市基点 (初鳴き)。山形市では7月15日現在まだ鳴いていない。	永幡嘉之	
17	山形	山形市	◎蔵王半郷 初鳴き	永幡嘉之	
19	兵庫	豊岡市	京町	正木詔一	
19	兵庫	豊岡市	下鉢山 19時	高橋信	
20	岡山	吉備中央町	上田西にて初鳴き	藤本出	
20	京都	福知山市	猪崎三段池公園	山段眞彦	
20	兵庫	豊岡市	16時 祥雲寺 コウノトリの郷公園 1頭	菅村定昌	
20	三重	鈴鹿市	◎10:00頃 高岡台 初鳴き	前川和則	
20	兵庫	加西市	◎笹倉町 午後2時ごろ初鳴きを聴きました	高田 要	
20	兵庫	朝来市	◎立脇 初鳴き	近藤伸一	
21	京都	綾部市	高津町段 17:00頃雨、鳴いてなかった。19:00頃雨は止み鳴いた。	児玉裕美	
22	兵庫	朝来市	19時5分 和田山町桑原	安曇茂年	
22	京都	京都市	午前10時頃 伏見区桃山井伊掃部 クマゼミと大合唱!	竹下順子	
22	兵庫	朝来市	19時 立脇	尾崎真也	
22	兵庫	神戸市	垂水区西舞子 死体 翅1枚	浅田 卓	
23	兵庫	加古川市	◎志方町 宮山 やつと鳴き始めました	浅内 隆	
23	大阪	茨木市	主原町	谷素素彦	
24	兵庫	明石市	◎午後4時頃 朝霧町1丁目 現認、初鳴きでした。	正井俊郎	
24	兵庫	神戸市	東灘区岡本 1個体 鳴き声 同地では今年初めて聞くが、初鳴かは不明。翌25日も鳴く	吉田浩史	
25	兵庫	明石市	◎東野町 前日隣接朝霧町で見ましたが、ここでは今年初めて。	正井俊郎	
25	奈良	橿原市	◎新賀町薄曇り 34℃ 14:30から 1♂何回も続けて鳴く	宮武頼夫	
26	兵庫	神戸市	灘区友田町 1個体 鳴き声	吉田浩史	
26	兵庫	丹波市	市島町中竹田	近藤伸一	
26	兵庫	丹波市	市島町下鴨坂	近藤伸一	
26	兵庫	丹波市	氷上町絹山	近藤伸一	
30	兵庫	神戸市	18:30 須磨区竜が台 多数	瓜生隆宏	
31	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一	
4	兵庫	佐用町	船越 昆虫館 午後	近藤伸一	
3	山形	山形市	蔵王半郷 ようやく合唱になる	永幡嘉之	
4	兵庫	丹波市	14時 柏原町柏原 アブラゼミ多数	尾崎真也	
11	兵庫	朝来市	朝来市・養父市内のほぼ全域で鳴いている	近藤伸一	
12	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園)	山段眞彦	
14	京都	綾部市	高津町段	児玉裕美	
18	兵庫	神戸市	東灘区岡本 鳴き声1個体 晴 この後、この周辺でアブラゼミは聞いていないが、もともと市街地で本種はあまり多くない	吉田浩史	
18	兵庫	西宮市	両度町 鳴き声3個体 ここは毎週日曜のみ行く。先週は多かったが一週間で減少	吉田浩史	
22	兵庫	神戸市	灘区永手町、JR六甲道駅北側 夕方 曇 鳴き声1個体 終鳴	吉田浩史	
24	兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 晴 鳴き声10個体弱 社寺林ではまだ多い	吉田浩史	
24	兵庫	市川町	播但自動車道市川サービスエリア	近藤伸一	
25	兵庫	西宮市	×両度町 ここは毎週日曜のみ行く。今週は鳴き声なし	吉田浩史	
31	兵庫	宝塚市	13時頃 末成町 (末成公園) 1頭	松金知香	
31	兵庫	養父市	葛畑 1頭	近藤伸一	
9	3	兵庫	朝来市	上八代 1頭	近藤伸一

9	5	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一
	6	兵庫	朝来市	和田山町市御堂 桜並木で数頭鳴く	近藤伸一
	6	兵庫	丹波篠山市	東岡屋と西岡屋 (午後3時ごろ)	河井典子
	7	兵庫	三田市	人と自然の博物館夕方6時前	河井典子
	7	兵庫	たつの市	●御津町黒崎での鳴き納め	茂見節子
	9	兵庫	赤穂市	●加里屋 ♀	岡嶋幹雄
	10	兵庫	朝来市	立脇 1♀撮影	近藤伸一
	14	兵庫	三木市	●三木山森林公園 鳴きおさめ	川瀬真次
	14	大阪	枚方市	●枚方上之町, 1個体の鳴き声を確認, 当地では終鳴となる.	植田義輔
	16	兵庫	丹波篠山市	●東古佐 1週間以上聞かなかつたが, 今年は9月になっても暑いので, なかなかがんばってますね	河井典子
26	大阪	茨木市	東中条町 午後1時頃, 1頭が鳴いていた.	谷角素彦	

ミンミンゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	19	兵庫	豊岡市	京町 11:50 鳴きだしてすぐに鳴くのをやめた.	正木昭一
	20	山形	山形市	◎蔵王半郷 1頭 初鳴き	永幡嘉之
	21	京都	福知山市	福知山市中 9時40分	山段眞彦
	21	兵庫	朝来市	◎桑市 初鳴き	近藤阿佐子
	23	兵庫	高砂市	皆根町日笠山	島崎正美
	26	兵庫	豊岡市	◎城南町, 06:35 初鳴 (おそらく) を確認.	北垣和也
	27	兵庫	明石市	◎大久保町 初鳴き	久保弘幸
	28	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 12:00 例年はお盆ごろから鳴く	瓜生隆宏
	29	兵庫	豊岡市	下鉢山 8時ごろ	高橋 信
	29	兵庫	明石市	◎東野町 12:35 初鳴き	正井俊郎
29	兵庫	川西市	◎黒川 14時ばかりの初聴き	尾崎真也	
30	兵庫	神戸市	北区淡河町勝雄 11:00 1頭	瓜生隆宏	
30	兵庫	朝来市	◎立脇 初鳴き	近藤伸一	
30	兵庫	神戸市	◎北区有野台 クマゼミが多くなった周辺でやっと鳴き声がありました. 初鳴きか	八田康弘	
31	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一	
31	兵庫	洲本市	五色町鮎原下 12時	尾崎真也	
31	兵庫	神戸市	西区 地下鉄 名谷駅 17:30 1頭	瓜生隆宏	
8	1	京都	福知山市	8月1日 福知山 市行積 7時20分	山段眞彦
	1	兵庫	三木市	◎三木山森林公園 やっと初鳴きを観測しました.	川瀬真次
	1	兵庫	丹波篠山市	◎杉 AM8時ごろ	河井典子
	1	兵庫	新温泉町	新温泉町久斗山, 午前9時ごろ集落上の山沿いの雑木林で初鳴きを確認しました	山本一幸
	1	兵庫	豊岡市	11時 祥雲寺 兵庫県立コウノトリの郷公園東端の山 1頭	菅村定昌
	1	兵庫	香美町	10時半 村岡区相田	松金知香
	3	山形	山形市	蔵王半郷 ようやく合唱になる	永幡嘉之
	3	兵庫	宍粟市	波賀町	近藤伸一
	3	兵庫	神戸市	灘区八幡町, 六甲八幡神社 1個体 今年初めて聞く 初鳴きは不明	吉田浩史
	4	京都	綾部市	◎高津町段 初鳴き	児玉裕美
4	兵庫	豊岡市	◎但東町相田 初聞き	永井英司	
4	兵庫	朝来市	7時半 立脇	尾崎真也	
7	兵庫	南あわじ市	10時頃八木馬廻	松金知香	
7	兵庫	神戸市	16:45 須磨区竜が台 1頭	瓜生隆宏	
7	兵庫	南あわじ市	8月7日 三原町八木馬廻	松金知香	
9	大阪	枚方市	◎枚方上之町 1個体の鳴き声 を17:30に確認, 当地では初鳴き.	植田義輔	
10	兵庫	朝来市	生野町真弓	近藤伸一	
10	兵庫	神河町	福本	近藤伸一	
10	兵庫	市川町	屋形	近藤伸一	
10	兵庫	加西市	北条町東南・桑原田町	近藤伸一	
10	兵庫	小野市	粟生町・天神町	近藤伸一	
10	兵庫	三木市	三木山森林公園	近藤伸一	
11	大阪	交野市	交野市私市, 2頭の鳴き声	西元大作	
11	兵庫	養父市	森	近藤伸一	
11	兵庫	朝来市	◎7時 朝来での僕の初聞き	尾崎真也	
12	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園)	山段眞彦	
13	兵庫	神戸市	14時頃 灘区鶴甲 複数個体	谷角素彦	

8	16	京都	綾部市	9:30頃 高津町段 12日ぶりに裏山で鳴きました。数は少ないですが時々鳴いています。	児玉裕美
	18	兵庫	高砂市	西畑高砂公園	島崎正美
	20	兵庫	神戸市	灘区深田町 JR六甲道駅南側 曇 鳴き声1個体 夕方 都市公園 通常ほとんどいないが, 年に一, 二度ぐらいは聞く	吉田浩史
	24	兵庫	神戸市	灘区八幡町, 六甲八幡神社 晴 鳴き声1個体	吉田浩史
	24	兵庫	市川町	播但自動車道 市川サービスエリア	近藤伸一
	25	石川	珠洲市	正午過ぎ 上戸町神社 湯宿さか本 多数	江田敏昭
	25	兵庫	香美町	17時40分 香住区相谷	尾崎真也
	28	京都	京丹後市	13:30 弥栄町芋野	山段眞彦
	29	京都	福知山市	6時50分 猪崎	山段眞彦
	31	兵庫	神戸市	灘区八幡町, 六甲八幡神社 曇り一時雨 鳴き声1個体 まだ鳴いている	吉田浩史
31	兵庫	養父市	葛畑	近藤伸一	
9	2	大阪	枚方市	●枚方上之町 1個体の鳴き声 を13:20に確認, 当地では終鳴となる.	植田義輔
	5	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一
	11	兵庫		播磨科学公園都市周辺ではまだまだ元気です.	高橋弘樹
	12	兵庫	朝来市	和田山町牧田・市御堂	近藤伸一
	14	兵庫	養父市	ハチ高原 h880 m	近藤伸一
	14	兵庫	宍粟市	波賀町飯見 複数個体鳴く	浅田 卓
	15	兵庫	朝来市	●立脇 鳴きおさめ	近藤伸一
	15	兵庫	神戸市	灘区摩耶山町. 摩耶山山頂 (標高702m) とその周辺において, 複数の鳴き声を確認した.	植田義輔
	16	兵庫	姫路市	● 青山	岡嶋幹雄
	16	兵庫	佐用町	船越 昆虫館	八田康弘
17	兵庫	神戸市	北区山田町 神戸市立森林植物園 複数鳴く	浅田 卓	
26	兵庫	神戸市	摩耶山町. 摩耶山山頂とその周辺において1個体の鳴き声を確認した.	植田義輔	
28	兵庫	三木市	●三木山森林公園 鳴きおさめ	川瀬真次	
29	兵庫	佐用町	船越 佐用町昆虫館	齋藤素彦	
29	兵庫	加西市	古法華	広畑政巳	
10	5	兵庫	丹波篠山市	●東古佐) 少し鳴く 以降10月20日現在まで鳴かない	河井典子

ツクツクボウシ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	28	大阪	高槻市	原 神峯山寺 1個体がフルコーラスを2回鳴きました.	熊代直生
	28	兵庫	朝来市	◎立脇 17:50~55 1個体初鳴き	近藤伸一
	28	兵庫	姫路市	広畑区夢前町の夢前川沿いで (山陽の線路より南) 鳴いていた	下山早苗
	28	兵庫	豊岡市	下鉢山 8:45	高橋信
	28	岡山	美作市	◎原 初鳴き	藤本出
	28	岡山	日生町	日生町頭島 16時	尾崎真也
	30	兵庫	神戸市	◎北区有野台 例年より1週間ほど早い初鳴き	八田 康弘
	31	京都	京丹後市	◎網野町掛津午前8時頃1♂鳴き声確認	松尾秀行
	1	兵庫	香美町	12時 村岡区板仕野	松金知香
	1	兵庫	神戸市	22:30 須磨区竜が台 街灯のそばの木で	瓜生隆宏
8	1	兵庫	たつの市	◎御津町黒崎にて, 初鳴きを確認.	茂見節子
	2	兵庫	神戸市	西区井吹吹東町 1個体 鳴き声	吉田浩史
	2	山形	飯富町	◎飯豊町添川 1頭 初鳴き	永幡嘉之
	3	京都	福知山市	18:20 猪崎	山段眞彦
	3	兵庫	丹波篠山市	◎東古佐 PM2時ごろ	河井典子
	3	兵庫	宍粟市	8月3日 宍粟市波賀町 近藤伸一	近藤伸一
	5	京都	綾部市	◎高津町谷口 初鳴き	児玉裕美
	5	兵庫	豊岡市	◎16:22 但東町相田 初聞き	永井英司
	6	兵庫	新温泉町	◎午前9時半久斗山. 今年の初鳴きです.	山本一幸
	6	兵庫	神戸市	10:30 須磨区竜が台 複数	瓜生隆宏
7	兵庫	南あわじ市	三原町八木馬廻	松金知香	
7	京都	綾部市	◎高津町段 (裏山) 初鳴き	児玉裕美	
7	三重	鈴鹿市	◎am6:00 三重県鈴鹿市高岡台 初鳴き	前川和則	
7	兵庫	南あわじ市	10時頃 南あわじ市八木馬廻	松金知香	
8	兵庫	豊岡市	13時 兵庫県立コウノトリの郷公園 数頭	菅村定昌	
8	兵庫	三木市	◎三木山森林公園 初鳴き	川瀬真次	
10	大阪	枚方市	杉, 中学校内から1頭の鳴き声	西元大作	



8	11	兵庫	養父市	井ノ坪	近藤伸一	
	11	兵庫	三木市	三木山森林公園	奥津脩一郎	
	11	兵庫	朝来市	上八代	近藤伸一	
	12	京都	京都市	左京区鹿ヶ谷	近藤太郎	
	12	兵庫	神戸市	5時40分 東灘区住吉山手	松金知香	
	12	石川	珠洲市	◎14時30分頃 上戸町南方の荒廃竹林内 初鳴き	江田敏昭	
	12	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園)	山段眞彦	
	13	大阪	枚方市	◎枚方上之町1個体の鳴き声を確認, 当地では初鳴き	植田光子	
	14	京都	綾部市	高津町段	児玉裕美	
	15	兵庫	高砂市	高砂町農人町	島崎正美	
	17	兵庫	神戸市	◎午後3時40分 西区伊川谷町有瀬 初鳴き確認	正井俊郎	
	17	東京	三鷹市	三鷹市 初鳴き	近藤太郎	
	18	大阪	茨木市	14時過ぎ 大池 1頭	谷角素彦	
	18	兵庫	朝来市	12:06 和田山町桑原	安積茂年	
	18	兵庫	新温泉町	17時 新温泉町久谷	尾崎真也	
	19	兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 鳴き声1個体 社寺林。ここでは初めて聞く	吉田浩史	
	20	兵庫	朝来市	立脇 5:20 ~鳴き始める	近藤伸一	
	24	兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 晴 鳴き声1個体	吉田浩史	
	24	兵庫	神戸市	12:00 須磨区竜が台 複数しきりに鳴く	瓜生隆宏	
	25	石川	珠洲市	正午過ぎ 上戸町神社 湯宿さか本 多数	江田敏昭	
	26	兵庫	神戸市	東灘区田中町、JR 摂津本山駅南側 晴 1個体 神戸市街地では珍しい	吉田浩史	
	28	兵庫	神戸市	東灘区田中町、中之町公園 曇 午後5時半ごろ 鳴き声1個体 26日の地点から約200m南西	吉田浩史	
	28	京都	京丹後市	13:30 弥栄町芋野	山段眞彦	
	29	京都	福知山市	6時50分 猪崎	山段眞彦	
	31	兵庫	神戸市	灘区八幡町、六甲八幡神社 曇り一時雨 鳴き声2個体 まだ鳴いている	吉田浩史	
	31	兵庫	宝塚市	13時頃 未成町(未成公園) 1頭	松金知香	
	31	兵庫	養父市	葛畑 多数	近藤伸一	
	9	5	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一
		15	兵庫	養父市	ハチ高原 h880 m	近藤伸一
		15	兵庫	神戸市	灘区摩耶山町。摩耶山山頂(標高702m)とその周辺において、多数の鳴き声を確認した。	植田義輔
		16	兵庫	佐用町	船越 昆虫館	八田康弘
19		兵庫	赤穂市	●加里屋	岡嶋幹雄	
19		兵庫	三木市	三木山森林公園 まだ多数鳴いている	川瀬真次	
25		兵庫	宍粟市	山崎町国見の森	広畑政巳	
26		兵庫	神戸市	灘区摩耶山町。摩耶山山頂とその周辺において5個体程度の鳴き声	植田義輔	
26		兵庫	豊岡市	中郷 複数鳴く	近藤伸一	
26		兵庫	神戸市	峰山高原	広畑政巳	
26		兵庫	たつの市	●御津町黒崎での鳴き納め	茂見節子	
29		兵庫	朝来市	●立脇 複数の鳴き声	近藤伸一	
29		兵庫	佐用町	船越 佐用町昆虫館	齋藤泰彦	
29		大阪	枚方市	●枚方市枚方上之町1個体 14:50に確認、終鳴となる。	植田義輔	
29		兵庫	加西市	古法華	広畑政巳	
30	兵庫	赤穂市	加里屋	岡嶋幹雄		
10	5	兵庫	丹波篠山市	●市東古佐 少し鳴く この日以降鳴かない	河井典子	
	9	奈良	橿原市	南山町南山 13:27晴27℃ 3-4回鳴いた。同じ個体と思われる。	宮武頼夫	
	10	兵庫	三木市	●三木山森林公園	川瀬真次	
	10	兵庫	加古川市	志方町 稲刈りの真最中、16:30すぎ、1♂元気がよく鳴いていました。	竹内 隆	
	13	東京	調布市	●調布市深大寺「神代植物公園」鳴きおさめ	浅田 卓	
	14	兵庫	佐用町	昆虫館で15時ごろ1頭の鳴き声を確認しました。	高橋弘樹	
15	奈良	橿原市	南山町南山 午前11時1分 晴20.7℃ 1♂ 数回鳴いた	宮武頼夫		

エゾゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	17	山形	山形市	◎ 西蔵王神尾 2個体 初鳴き	永幡嘉之
8	1	京都	与謝野町	加谷与謝峠 7時30分	尾崎真也
	1	大阪	千早赤阪村	金剛山山頂 鳴き声を聞き、抜け殻を見つけました(7月23日に行った時には抜け殻はありませんでした)。	金子留美子

8	3	兵庫	神戸市	灘区六甲山町(六甲有馬ロープウェイの六甲山頂駅~極楽茶屋跡) 11時頃に多数の鳴き声を確認	植田義輔
	3	兵庫	神戸市	灘区摩耶山町(摩耶山山頂とその周辺) 4~5個体の鳴き声を確認した(12:55~13:55)	植田義輔
	9	兵庫	神戸市	13時半 川上とのみね高原 標高863m	尾崎真也
	10	奈良	御所市	金剛山頂上のブナ林より下方で数頭の鳴き声	宮武頼夫
	26	兵庫	神戸市	北区有野町唐櫃・北区有馬町。(番匠屋畑尾根:極楽茶屋跡~湯槽谷山~灰形山~落葉山~有馬温泉)。極楽茶屋跡の近傍(標高833m)から灰形山の近傍(標高586m)にかけての9地点において断続的に鳴き声を確認した。なお、各地点での鳴き声の数は、1個体~5個体程度であった。	植田義輔
	31	京都	京丹後市	弥栄町 太鼓山 ミンミンゼミとツクツクボウシの蝉しぐれのなか、少数のエゾゼミの鳴き声を確認しました。	松尾秀行
	7	兵庫	神戸市	灘区六甲山町~東灘区本山町森。極楽茶屋跡(標高866m)から西おたふく山の近傍(標高850m)において複数個体の鳴き声を確認した。	植田義輔
	7	兵庫	神戸市	東灘区本山町森。西おたふく山の近傍から六甲山山頂(標高931m)において複数個体の鳴き声を確認した。	植田義輔
	7	兵庫	神戸市	東灘区本山町森~北区有馬町。六甲山山頂から射場山の近傍(標高605m)にかけての2地点において、それぞれ複数個体の鳴き声と1個体の鳴き声を確認した。	植田義輔
	14	兵庫	養父市	別宮	中村康弘
	14	兵庫	養父市	ハチ高原 h860 m 1個体数回	近藤伸一
	15	兵庫	神戸市	×灘区摩耶山町。摩耶山山頂(標高702m)とその周辺において、12:00頃から1時間程度調査を実施したが、エゾゼミの鳴き声は未確認 晴	植田義輔
	15	兵庫	神戸市	灘区六甲山町。六甲ケーブルの六甲山上駅の近傍(標高738m)と油コブシを経由する登山道の標高666m地点、各1個体の鳴き声を確認した。	植田義輔
	19	兵庫	西宮市	越水字社家郷山。東六甲縦走路の県道16号明石神戸宝塚線の標高837m地点から船坂峠(標高663m)の間の標高695m地点で2個体の鳴き声を確認	植田義輔
	9	19	兵庫	西宮市	山口町船坂。東六甲縦走路の船坂峠から大平山の間で標高684m地点と標高667m地点の2地点において、それぞれ1個体、2個体の鳴き声を確認した。なお、大平山から宝塚市伊予志に至る東六甲縦走路においては、エゾゼミの鳴き声は確認できなかった。
26		兵庫	神戸市	×灘区摩耶山町。摩耶山山頂とその周辺、11:00頃から13:30まで調査。エゾゼミの鳴き声は確認できなかった。天候は晴	植田義輔
26		兵庫	神戸市	灘区六甲山町。極楽茶屋跡の近傍 14:38に、1個体の鳴き声を確認。	植田義輔

コエゾゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	18	岩手	盛岡市	藪川 声	永幡嘉之
	18	岩手	岩泉町	早坂峠 抜け殻(声はせず)	永幡嘉之
8	5	兵庫	養父市	9時30分 氷ノ山 大段平 多数	菅村定昌

アカエゾゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
8	10	奈良	御所市	金剛山頂上のブナ林 鳴き声多数、飛翔中も2頭目撃、抜け殻10個	宮武頼夫

チツゼミ 2019

月	日	府県	市町	記事	氏名
8	26	兵庫	三木市	三木山森林公園 11時 2匹を目撃	奥津脩一郎
	28	京都	京丹後市	13:30 弥栄町芋野	山段眞彦
9	2	兵庫	三木市	三木山森林公園 1♀採集	奥津脩一郎
	7	兵庫	たつの市	龍野町片山の民家の外灯でメスを捕獲	高橋弘樹
19	兵庫	三木市	三木山森林公園 かなり鳴いている	市橋大輔	

複数種・その他 2019

月	日	府県等	市町	記事	氏名
7	8	中国	重慶	クマゼミに似た蝉が鳴いています。	竹田真木生
	1213	高知	大月町	隣地(あまじ)で機械の騒音のようなキュウシュウエゾゼミの大合唱を聞いています	高橋弘樹

3	兵庫	神戸市	灘区六甲山町 (六甲有馬ロープウェイの六甲山頂駅～極楽茶屋跡) 11 時頃に多数の鳴き声を確認。ここでは霧が出ると多数のヒグラシが鳴き、霧が晴れて陽が射すとヒグラシが鳴き止んで、多数のエゾゼミが鳴く様子を確認した。	植田義輔		
			灘区摩耶山町 (摩耶山山頂とその周辺, エゾゼミ 4~5 個体の鳴き声を確認した (12:55~13:55), 同時にアブラゼミ (2 個体), ヒグラシ (1 個体), ニイニイゼミ (4~5 個体) の鳴き声を確認した。			
	10	奈良県	御所市	8 月 10 日 金剛山頂上のブナ林 アカエゾゼミの鳴き声多数、飛翔中も 2 頭目撃、抜け殻 10 個、午後 3 時頃からヒグラシが多数鳴いた。ブナ林より下方で、エゾゼミの鳴き声数頭。ミンミンゼミの鳴き声も 1 頭。	宮武頼夫	
	8	12	京都	福知山市	猪崎 (三段池公園) AM5:30~9:00 朝からセミ真っ盛りヒグラシ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ	山段眞彦
		14	京都府	綾部市	高津町段 連日、早朝はヒグラシ、午前中はクマゼミ、時間関係なくニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシがうるさいくらいよく鳴いています。ミンミンゼミは初鳴きの 8 月 4 日から数日間はわずかに聞こえましたが今は全く鳴き声きこえず。	児玉裕美
		15	兵庫	朝来市	立脇 早朝からヒグラシ、次いでツクツクボウシとニイニイゼミ、午前中クマゼミ、午後はアブラゼミが優勢、ミンミンゼミも時々鳴く	近藤伸一
18	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 周りでいろいろなセミが鳴いている。クマゼミ 7:00~10:00/アブラゼミ 1 日中/ツクツクボウシ 10:00、14:00、16:00/ミンミンゼミ 15:00/ツクツクボウシがよく鳴き、アブラゼミの死骸をよく見かけるようになった。	瓜生隆宏		
25	兵庫	神戸市	西区岩岡町 岩岡神社 8:00~神社の森でアブラゼミ・ツクツクボウシ・クマゼミが鳴く 例年はミンミンゼミも鳴くが、今年は聞かない	近藤伸一		
8	28	京都	綾部市	高津町段 ツクツクボウシ大変多数、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ時々、早朝と夕方ヒグラシ等々はまだ鳴いています。	児玉裕美	
	30	兵庫	朝来市	立脇 ツクツクボウシは一日中、ミンミンゼミは気温が高くなってから盛んに鳴くが、アブラゼミは少ない。ヒグラシは夕刻に一度鳴いた。	近藤伸一	
	31	岡山	美作市	原。久しぶりの晴。ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、アブラゼミにクマゼミも。しかしニイニイゼミ聞こえない。何時からかは確認出来ず。	藤本出	
	31	兵庫	養父市	葛畑 (h 520 m) まではツクツクボウシに混じりアブラゼミ、ミンミンゼミが鳴き、ハチ高原 (h 1000 m) ではツクツクボウシだけが鳴く	近藤伸一	
9	2	奈良	橿原市	木原町耳成山 晴れ 気温 30℃くらい。アブラゼミとツクツクボウシの鳴き声多数、ミンミンゼミの鳴き声を数回聞いた (同じ個体と思われる) クマゼミ数頭の鳴き声。自宅のある橿原市新賀町では、9 月 3 日朝もまだクマゼミが数頭鳴いています。	宮武頼夫	
	4	アメリカ		9 月 4 日 アメリカでは同じ緯度領域で昔はこんなにセミが鳴いていなかったのに、Central Park でも首都のモールでもかなりセミが鳴いています。温暖化で北上してきたのが侵入したものが定着をしたのかかわりませんがクマゼミに似たなきごえの喧しい声を運くまで響かせています。	竹田真木生	
	15	奈良	奈良市	奈良公園では、ツクツクボウシとミンミンゼミが鳴っていた。	宮武頼夫	
	26	兵庫	神戸市	灘区摩耶山町。摩耶山山頂とその周辺において、11:00 頃から 13:30 まで調査を実施したが、エゾゼミの鳴き声は確認できなかった。天候は晴。エゾゼミ以外では、5 個体程度のツクツクボウシの鳴き声と 1 個体のミンミンゼミの鳴き声を確認した	植田義輔	

表 3 種類別セミの鳴き声情報 2020 (◎初めて鳴き声を確認 ●最後の鳴き声確認 ×鳴いていない)。

ハルゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
4	11	兵庫	宝塚市	◎大原野西部 休耕田の周りの松林	西本 裕
	29	兵庫	明石市	◎明石市松陰	久保弘幸
	29	京都	福知山市	◎猪崎三段池公園	山段眞彦
	30	兵庫	豊岡市	◎但東町相田 1 頭 1 鳴き	永井英司
5	11	岡山	美作市	原	藤本 出
	12	兵庫	宍粟市	山崎町五十波	尾崎真也
	19	兵庫	朝来市	佐養高原	近藤伸一
	19	兵庫	朝来市	川上	近藤伸一
	19	兵庫	養父市	奥米地	近藤伸一
	22	兵庫	宍粟市	山崎町五十波	尾崎真也
	22	兵庫	香美町	小代区貫田 吉滝キャンプ場	永井英司
	29	兵庫	豊岡市	市場 1 頭	菅村定昌
6	1	兵庫	加古川	◎平荘町小畑	島崎正美
	2	兵庫	朝来市	和田山町糸井溪谷	近藤伸一
	5	兵庫	養父市	奥米地	近藤伸一
	5	兵庫	豊岡市	出石町上村	近藤伸一
	8	兵庫	朝来市	上八代	近藤伸一
	12	岡山	真庭市	上徳山 数頭	永幡嘉之
	21	奈良	王寺町	島田 2 の山林 10:40 頃 複数頭	西元大作
	26	兵庫	養父市	森	近藤伸一
	27	兵庫	朝来市	◎立脇	近藤伸一
	27	京都	福知山市	猪崎三段池	山段眞彦
28	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一	

ヒメハルゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	23	兵庫	豊岡市	城崎町湯島 本住寺裏山 数頭	菅村定昌

エゾハルゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
5	17	山形	山形市	土坂 1 頭	永幡嘉之
7	3	山形	小国町	小玉川	永幡嘉之
	20	兵庫	養父市	氷ノ山大段平～大屋避難小屋 多数	菅村定昌

ニイニイゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
6	20	兵庫	稲美町	◎ (万葉の森)	久保弘幸
	21	奈良	王寺町	島田 2 の山林 14:30 頃 1 頭	西元大作
	21	兵庫	西宮市	◎ 豊楽町豊楽公園	松金知香
	23	山形	山形市	◎蔵王半郷 1 頭	永幡嘉之
	24	奈良	橿原市	醍醐町	林 太郎
	26	兵庫	明石市	◎魚住町	久保弘幸
	26	岡山	美作市	◎原 気温 27 度だが湿度は 83%。蒸し暑い!	藤本出
	27	京都	福知山市	猪崎三段池公園	山段眞彦
	26	京都	福知山市	長田野町 30℃を超えた蒸し暑い日	大槻浩
	27	兵庫	香美町	小代区神水	寺川庸一
7	28	兵庫	三木市	福井字三木山	浅田 卓
	29	岡山	吉備中央町	上竹 1 頭	永幡嘉之
	1	高知	高知市	朝倉西町	植松蒼
	1	兵庫	神戸市	中央区大倉山 数匹	瓜生隆宏
	1	兵庫	香美町	小代区大谷	山本一幸
	2	山形	小国町	小玉川	永幡嘉之
	2	兵庫	丹波市	◎氷上ヒノキ林 初聞き	尾崎真也
	5	京都	綾部市	◎高津町 初聞き	児玉裕美
5	兵庫	姫路市	◎手柄中央公園	蛭田永規	
8	大阪	茨木市	東中条町 (複数個体の鳴き声)	谷角素彦	

7	8	兵庫	神戸市	垂水区海神社	岡林りえ
	9	兵庫	神戸市	◎西区井吹台 1 個体	吉岡朋子
	12	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城周辺 数匹	那倉智行
	14	兵庫	豊岡市	日高町堀 日高東部健康福祉センター 1 頭	菅村定昌
	18	兵庫	豊岡市	祥雲寺 コウノトリの郷公園 数頭	菅村定昌
	19	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
	20	兵庫	朝来市	田山町安井	近藤伸一
	20	兵庫	養父市	鶴縄 多数	菅村定昌
	23	兵庫	豊岡市	城崎町湯島 本住寺裏山 多数	菅村定昌
	24	広島	三原市	頼兼町	山段眞彦
8	24	兵庫	佐用町	船越	近藤伸一
	26	兵庫	朝来市	和田山町市御堂	近藤伸一
	2	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
	3	兵庫	新温泉町	歌長 多数	菅村定昌
	8	兵庫	豊岡市	祥雲寺 県立コウノトリの郷公園 多数	菅村定昌
	10	兵庫	神戸市	東灘区住吉山手	松金知香
	10	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	15	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 多数	那倉智行
	31	岡山	美作市	●市原 鳴き納め	藤本出
	9	9	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部 1 匹

クマゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名	
6	9	兵庫	神戸市	◎東灘区魚崎南町 初鳴、街路樹	吉田浩史	
	20	兵庫	神戸市	東灘区魚崎南町 2 個体鳴いている。公園内	吉田浩史	
	23	兵庫	神戸市	東灘区魚崎南町 1 個体鳴いている。	吉田浩史	
7	5	兵庫	姫路市	手柄中央公園 採集	蛭田永規	
	5	奈良	橿原市	◎新賀町 午前ワンフレーズ鳴いただけ	富武頼夫	
	1	兵庫	明石市	◎大久保町 (鳴き声なし姿の確認のみ)	久保弘幸	
	1	大阪	茨木市	並木町 (朝、1 頭の鳴き声が聞こえた)	谷角素彦	
	5	高知	高知市	曙町 合唱	植松蒼	
	5	兵庫	明石市	◎ 東野町	正井俊郎	
	9	兵庫	神戸市	◎中央区下山手通 県庁 2 号館前緑地 数匹	瓜生隆宏	
	8	兵庫	神戸市	西区井吹台東町。 3 匹の合唱です。	吉岡朋子	
	8	大阪	茨木市	◎阪急茨木駅付近桜の木	金子留美子	
	8	京都	京都市	◎西京区 阪急松尾大社そば桂川桜並木	金子留美子	
	10	大阪	大阪市	中央区北浜	野口明美	
	11	徳島	松茂町	松茂町	西岡純	
	12	京都	京都市	伏見区 あちこちで合唱	那倉智行	
	15	兵庫	神戸市	須磨区須磨浦公園	吉田浩史	
	16	兵庫	神戸市	西区岩岡町岩岡	近藤伸一	
	17	京都	福知山市神戸市	長田野町	大槻浩	
	18	兵庫	神戸市	中央区 マンション 5F で撮影	中川貴美子	
	19	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦	
	19	京都	綾部市	◎高津町	児玉裕美	
	20	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 多数	瓜生隆宏	
	21	兵庫	福崎町	◎南田原	尾崎真也	
	24	広島	三原市	頼兼町	山段眞彦	
	26	岡山	美作市	川北	藤本出	
	26	岡山	赤磐市	周匝 多数	藤本出	
	28	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一	
	28	京都	京都市	伏見区桃山井伊掃部	竹下順子	
	31	京都	京丹後市	丹後町久僧	山段眞彦	
	31	兵庫	豊岡市	◎日高町上石 1 頭 初鳴	菅村定昌	
	8	2	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
		2	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 多数	瓜生隆宏
5		兵庫	豊岡市	◎但東町相田 初鳴き	永井英司	
6		京都	京丹後市	峰山町丹波	山段眞彦	
8		兵庫	豊岡市	祥雲寺 県立コウノトリの郷公園 1 頭	菅村定昌	
10		兵庫	神戸市	東灘区住吉山手	松金知香	
10	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦		

8	27	兵庫	神戸市	東灘区岡本	吉田浩史
	28	兵庫	神戸市	東灘区魚住町 2 個体	吉田浩史
9	2	兵庫	神戸市	垂水区苔谷公園	吉田浩史
	4	兵庫	明石市	●大久保町 以降鳴き声を聞かない	久保弘幸
	6	三重	鈴鹿市	●(alt. 10m) 鳴き納めか?	前川和則
	6	兵庫	豊岡市	●但東町相田 鳴き納め	永井英司
	23	兵庫	神戸市	●東灘区魚住南町	吉田浩史

ヒグラシ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
6	27	兵庫	朝来市	◎ 朝来市立脇	近藤伸一
	30	兵庫	豊岡市	◎但東町相田 初鳴き	永井英司
7	2	兵庫	丹波市	◎氷上町氷上ヒノキ林 初開き	尾崎真也
	3	山形	小国町	◎小玉川 初鳴き	永幡嘉之
	4	兵庫	豊岡市	京町	正木詔一
	5	京都	綾部市	◎高津町 初開き	児玉裕美
	8	岡山	美作市	◎原 朝早くと日暮れ間に数頭短時間	藤本出
	8	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	8	京都	京丹後市	荒山	山段眞彦
	9	京都	与謝野町	与謝	山段眞彦
	10	兵庫	新温泉町	◎久斗山 池ヶ平 雑木林で初鳴きを確認	山本一幸
	11	兵庫	姫路市	夢前町護持	下山早苗
	14	兵庫	神戸市	◎北区有野台 初鳴き	八田康弘
	14	兵庫	香美町	◎小代区神水 初鳴き	寺川庸一
	15	兵庫	朝来市	和田山町桑原 南側の山 数頭	安積茂年
	15	兵庫	佐用町	櫛田 2417 の自宅で	野村智範
	15	兵庫	神戸市	西区井吹台谷口公園	吉岡朋子
	16	兵庫	豊岡市	京町 (裁判所裏) 神武山公園	北垣和也
	16	兵庫	養父市	八鹿町三谷の山里	維田浩之
	17	兵庫	神戸市	北区唐櫃台	竹田真木生
18	兵庫	川西市	能勢電鉄畦野駅 18 時 30 分	足立隆昭	
20	兵庫	香美町	村岡区板仕野トコロ川 トロ川氷ノ山林道沿い スギ林	尾崎真也	
20	兵庫	養父市	氷ノ山大段平～大屋避難小屋 少数	菅村定昌	
20	兵庫	養父市	鶴縄 多数	菅村定昌	
20	兵庫	西宮市	◎山口町下山口	松金知香	
27	兵庫	神戸市	◎須磨区竜が台 1 匹	瓜生隆宏	
8	2	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
	2	兵庫	豊岡市	納屋 多数	菅村定昌
	10	兵庫	神戸市	東灘区住吉山手	松金知香
	10	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	15	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 1 頭	那倉智行
	29	兵庫	豊岡市	但東町 この後、9 月 7 日まで鳴かず	永井英司
9	31	岡山	美作市	●市原 鳴き納め	藤本出
	7	兵庫	豊岡市	但東町相田 フェーン現象の影響か?	永井英司
8	兵庫	豊岡市	●但東町相田 鳴き納め	永井英司	

アブラゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	3	山形	鶴岡市	◎若葉町 (伝聞)	永幡嘉之
	5	兵庫	姫路市	◎手柄中央公園	蛭田永規
	14	兵庫	神戸市	◎北区有野台 ♀ 姿初認	八田 康弘
	15	兵庫	佐用町	石井地区	竹田真木生
	16	大阪	茨木市	水尾 (1 頭の鳴き声)	谷角素彦
	17	兵庫	豊岡市	祥雲寺 コウノトリ文化館内 捕獲幼虫が羽化を始めた	菅村定昌
	19	京都	福知山市	福知山市猪崎	山段眞彦
	19	兵庫	豊岡市	江本	正木詔一
	19	兵庫	朝来市	和田山町桑原 数分鳴く	安積茂年
	20	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 少し	瓜生隆宏
	21	兵庫	新温泉町	◎久斗山 家の裏山の広葉樹林	山本一幸
	23	岡山	美作町	◎原	藤本出
	24	広島	三原市	頼兼町	山段眞彦

7	24	京都	綾部市	綾部市高津町	児玉裕美
	25	兵庫	朝来市	和田山町市御堂	近藤伸一
	25	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
	26	兵庫	明石市	東野町 初現認	正井俊郎
8	2	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 多数	瓜生隆宏
	8	兵庫	豊岡市	祥雲寺 県立コウノトリの郷公園 多数	菅村定昌
	9	兵庫	佐用町	船越	近藤伸一
	10	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	15	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 多数	那倉智行
9	5	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	6	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 数匹	那倉智行
	6	兵庫	豊岡市	日高町池上 1頭 そろそろ終わりか?	菅村定昌
	9	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部 数匹	那倉智行
	11	岡山	美作市	市原 数頭	藤本出
	11	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	13	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 1匹	那倉智行
	14	三重	四日市市	日永(南部丘陵公園 alt. 50m) 晴れ	前川和則
	17	兵庫	豊岡市	市場 1頭	菅村定昌
	19	三重	鈴鹿市	高岡台	前川和則

ミンミンゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	18	兵庫	神戸市	◎須磨区竜が台 1匹	瓜生隆宏
	24	兵庫	神戸市	◎西区伊川谷町有瀬	正井俊郎
	25	兵庫	豊岡市	◎祥雲寺 コウノトリの郷公園 1頭	菅村定昌
	25	兵庫	豊岡市	京町	正木詔一
	26	兵庫	豊岡市	◎但東町相田	永井英司
	26	兵庫	新温泉町	◎久斗山の集落近くの山地雑木林	山本一幸
	27	兵庫	明石市	◎東野町	正井俊郎
	29	兵庫	明石市	◎大久保町	久保弘幸
	25	兵庫	朝来市	和田山町安井	近藤伸一
	27	兵庫	高砂市	北浜町西浜	下山早苗
	31	兵庫	高砂市	西畑	島崎正美
	31	京都	福知山市	野花 野花郵便局近く	金谷栄子
	31	京都	京丹後市	丹後町久僧	山段眞彦
31	兵庫	香美町	◎香住区上計	寺川庸一	
31	京都	綾部市	城山町	児玉裕美	
8	1	岡山	美作市	◎原 梅雨が開けて晴れたら早速鳴きだした!	藤本出
	1	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
	2	京都	綾部市	◎高津町 初鳴き	児玉裕美
	2	兵庫	豊岡市	納屋 数頭	菅村定昌
	3	兵庫	新温泉町	歌長 数頭	菅村定昌
	3	兵庫	豊岡市	◎江野 僕の初聞き	尾崎真也
	5	徳島県	鳴門市	里浦町坂田 数匹	西岡純
	8	兵庫	豊岡市	祥雲寺 県立コウノトリの郷公園 1頭	菅村定昌
	8	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	10	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
9	15	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 1頭	那倉智行
	22	兵庫	加西市	上芥田町久学寺	尾崎真也
	5	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	6	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 数匹	那倉智行
	8	兵庫	市川町	市川サービスエリア	近藤伸一
	8	兵庫	神戸市	西区岩岡町 岩岡神社	近藤伸一
	9	兵庫	新温泉町	久斗山 村の下 鳴き声を確認	山本一幸
	9	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部 大合唱	那倉智行
	9	兵庫	姫路市	姫路城 1匹 力強く鳴く	瓜生隆宏
	11	岡山	美作市	市原	藤本出
11	11	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	11	兵庫	明石市	●大久保町 以降鳴き声を聞かない	久保弘幸
	13	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 数匹	那倉智行
	14	京都	京都市	左京区松ヶ崎山間部 多数	那倉智行
	14	兵庫	朝来市	●和田山町牧田	近藤伸一

7	16	兵庫	養父市	●森	近藤伸一	
	16	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部	那倉智行	
	17	兵庫	豊岡市	市場 1頭	菅村定昌	
	19	兵庫	豊岡市	祥雲寺 県立コウノトリの郷公園 1頭	菅村定昌	
	19	京都	福知山市	上川口 六十内山	金谷栄子	
	19	兵庫	豊岡市	但東町相田	永井英司	
	21	京都	京都市	松ヶ崎 山間部 2~3匹急激に減った。	那倉智行	
	21	兵庫	豊岡市	京町 亀山	正木詔一	
	22	三重	伊勢市	宇治館町	前川和則	
	22	兵庫	豊岡市	京町 亀山	正木詔一	
9	22	兵庫	朝来市	●立脇	近藤伸一	
	24	京都	綾部市	●高津町 鳴きおさめ	児玉裕美	
	24	兵庫	豊岡市	京町 亀山山中	正木詔一	
	10	3	兵庫	新温泉町	久斗山 自宅の裏山の雑木林で	山本一幸

ツクツクボウシ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	23	岡山	美作市	◎原 初鳴き	藤本出
	28	兵庫	朝来市	立脇	近藤伸一
	29	兵庫	豊岡市	日高町 神鍋高原の噴火口中腹のクスギ林	山本一幸
	29	兵庫	豊岡市	京町	正木詔一
	30	兵庫	佐用町	◎大撫山 (鳴き声多数)	久保弘幸
8	2	京都府	綾部市	◎高津町 初鳴き	児玉裕美
	2	兵庫	神戸市	◎須磨区竜が台 初鳴き	瓜生隆宏
	5	兵庫	高砂市	◎松波町	島崎正美
	5	兵庫	養父市	◎大屋町明延 僕の初聞き	尾崎真也
	7	兵庫	神戸市	◎北区有野台 初鳴き	八田康弘
	8	兵庫	豊岡市	祥雲寺 コウノトリの郷公園 1頭	菅村定昌
	8	京都	福知山市	猪崎 1頭	山段眞彦
	8	兵庫	福崎町	南田原	尾崎真也
	9	兵庫	豊岡市	但東町相田 初鳴き	永井英司
	9	兵庫	朝来市	立脇	尾崎真也
9	10	兵庫	神戸市	◎住吉山手 初鳴き	松金知香
	10	石川	珠洲市	正院町正院	江田敏昭
	10	兵庫	香美町	◎味取 初鳴きと思われませう	寺川庸一
	10	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	10	兵庫	西宮市	甲山森林公園	野口明美
	15	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 多数	那倉智行
	16	兵庫	朝来市	朝来市和田山町 盈岡神社	内藤絹子
	19	兵庫	猪名川町	木間生	尾崎真也
	20	兵庫	豊岡市	日高町栗栖野~太田 神鍋山 多数	菅村定昌
	25	兵庫	明石市	東野町 初鳴き	正井俊郎
9	5	京都	福知山市	9月5日 12:00 京都府福知山市猪崎 山段眞彦	山段眞彦
	6	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 多数	那倉智行
	7	兵庫	西宮市	東山台	浜ノ上史子
	8	兵庫	神戸市	西区岩岡町 岩岡神社	近藤伸一
	8	兵庫	市川町	市川サービスエリア	近藤伸一
	9	兵庫	新温泉町	久斗山 村の下	山本一幸
	9	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部 大合唱	那倉智行
	9	兵庫	姫路市	姫路城 数匹 力強く鳴く	瓜生隆宏
	9	兵庫	西宮市	国見台4丁目 雨の合間に細い声で	浜の上史子
	9	兵庫	朝来市	●立脇	近藤伸一
9	11	兵庫	明石市	●大久保町 現在 まだ鳴いている	久保弘幸
	11	岡山	美作市	市原	藤本出
	11	京都	福知山市	猪崎	山段眞彦
	13	京都	京都市	伏見区 伏見桃山城 多数	那倉智行
	14	京都	京都市	左京区松ヶ崎山間部 多数	那倉智行
	16	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部	那倉智行
	19	京都	福知山市	上川口 六十内山	金谷栄子
	19	兵庫	豊岡市	祥雲寺 県立コウノトリの郷公園 1頭	菅村定昌
	19	兵庫	神戸市	須磨区竜が台 1匹	瓜生隆宏
	20	兵庫	豊岡市	京町 亀山	正木詔一

9	20	三重	鈴鹿市	高岡台 alt.10m 線路脇のアカメガシワ葉にて	前川和則
	21	京都	京都市	左京区松ヶ崎 山間部 数匹	那倉智行
	21	兵庫	豊岡市	×京町 亀山 聞こえず	正木詔一
	21	兵庫	丹波篠山市	今田町 県立陶芸美術館 1匹だが力強く鳴く	瓜生隆宏
	22	三重	伊勢市	宇治館町	前川和則
	22	兵庫	豊岡市	京町 亀山	正木詔一
	24	兵庫	豊岡市	京町 亀山山中	正木詔一
	24	兵庫	明石市	●魚住町 現在 まだ鳴いている	久保弘幸
	26	兵庫	高砂市	●曾根町日笠山	島崎正美
10	27	兵庫	佐用町	●昆虫館 まだ鳴いている	久保弘幸
	1	京都	綾部市	●高津町 鳴きおさめ	児玉裕美
	1	兵庫	豊岡市	但東町相田	永井英司
	1	兵庫	豊岡市	三宅 1頭が断続的に鳴く	菅村定昌
	6	東京	三鷹市	井の頭公園	野口明美
11	京都	福知山市	猪崎 1頭	山段眞彦	

#### エゾゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
7	16	石川	珠洲市	上戸町	江田敏昭
	20	兵庫	養父市	氷ノ山大段平～大屋避難小屋 数頭	菅村定昌
	20	兵庫	香美町	村岡区板仕野トロ川 トロ川氷ノ山林道沿い スギ林	尾崎真也
8	3	兵庫	新温泉町	扇の山 畑が平登山口～山頂 少ない 標高 1060～1080 1頭 / 標高 1180～1200 2頭 / 標高 1280 3頭	菅村定昌
	7	京都	与謝野町	与謝 与謝峠	山段眞彦
	12	兵庫	神河町	川上 とのみね高原	尾崎真也

#### チツゼミ 2020

月	日	府県	市町	記事	氏名
9	21	京都	福知山市	猪崎 二段池	山段眞彦

## 姫路市内で得られたキンイロネクイハムシと寄主植物ミクリ類について

宮下直也<sup>1)</sup>

### はじめに

キンイロネクイハムシ *Donacia japana* Chujo et Goecke, 1956 は、環境省 (2020) で準絶滅危惧 (NT), 兵庫県 (2012) の県版レッドリストでCランクに選定されており、兵庫県内では存続基盤が脆弱な種とされている。本種の寄主植物であるミクリ類もまた、環境省と兵庫県の各レッドリストに選定されており、絶滅が危惧されている。キンイロネクイハムシは兵庫県内において、宝塚市、三田市、三木市、加東市、養父市で記録されているものの (兵庫県, 2012), その後の報告はない。筆者は本種を姫路市内で2020年に確認, 2021年に採集しており, 姫路市初記録であると思われるため報告する。なお先に述べた事情から, 現段階では発見場所の詳細な記述は控え, 生息環境や生息状況の記載にとどめる。

1ex, 兵庫県姫路市, 1-V-2020, 筆者確認 (図1);

2exs, 兵庫県姫路市, 3-V-2021, 筆者採集 (図2)

### 2020年 キンイロネクイハムシ発見

2020年5月1日, 姫路市内の住宅街に位置する公園 (A公園とする) の植え込みでキンイロネクイハムシを発見した。当時虫屋ではなかった筆者は, 見慣れない甲虫だと思い写真を撮った。後日調べてみたところ, ネクイハムシの仲間であることが分かった。林 (2004)



図1 キンイロネクイハムシ (2020年5月1日)。

に従って検索を行ったところ本種であることが判明した。

しかし, A公園の周囲にはミクリ類の生育は見られず, 発生場所に疑問が残った。A公園には河川 (B川とする) が流れている。B川はA公園付近では, 流路幅20mほどのコンクリート3面張り水路となっている。キンイロネクイハムシの発生場所として, B川の上流域を疑い, 何らかの要因で下流側へ流された本種が, たまたま植え込みに飛来したものと予想した。翌年, 本種を採集して発生場所を特定すべく, B川の上流域の調査を行った。

### 2021年 ミクリ類発見とキンイロネクイハムシ採集

B川の上流域は住宅街を流れる水路のようになっており, 護岸にはコンクリートが施されているが底面は泥や砂利となっている点でA公園付近とは河川環境が異なる。いくつかの地点でミクリ類 (ミクリとナガエミクリだと思われる) の群生が見られたため, その付近を中心にキンイロネクイハムシを搜索した。結果, 2021年5月3日, B川の2地点でそれぞれ1個体ずつキンイロネクイハムシを発見し, 採集することができた。底面が泥質で水流が滞留しているような環境で得られた (図3)。

### B川的环境とミクリ類の分布について

追加調査としてミクリ類の分布状況を知るべく, B川の流路を調べてみると, 付近の河川 (C川とする) の水が水路を通じて流入していることが分かった (図4)。B川でミクリ類が見られたのはこの水路よりも下流側であった。C川ではこの水路の上流側と下流側の両方でミクリ類の生育を確認しており (キンイロネクイハムシは未発見), C川のミクリ類の種子や地下茎がこの水路を通じて運ばれ, B川にミクリ類が繁茂するようになったと考えられる。B・C川はともに同一の河川の旧河道に位置し, その伏流水を水源としている。B・C川はともに住宅街を流れており, ゴミの投棄が目立つため富栄養に見えるが, この湧水によりミクリ類が生育できる環境が保たれていると考えられる。現在は湧水量が減少しているが, 古い時代は豊かな水環境だったようである (姫

<sup>1)</sup> Naoya MIYASHITA 姫路科学館



図2 キンイロネクイハムシ (2021年5月3日).

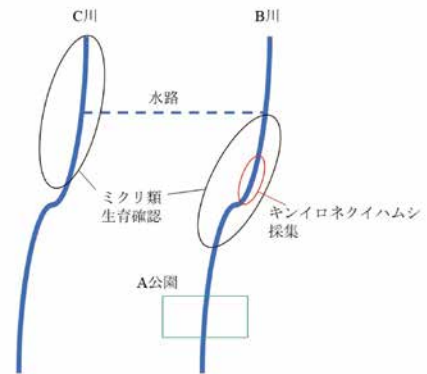


図4 A公園・B川・C川の位置関係.



図3 生息環境.

本種は、水流が弱く底面が泥質でぬかるんだような環境を好むのではないかと、筆者は考えている。これについては、B川において幼虫を採集して確認する必要がある。

### 今後の展望

今回の採集状況から、B川におけるキンイロネクイハムシの個体数は決して多くないと考えられるが、このような街中においてB川は本種のレフュージアとして機能していると見られ、貴重な環境が残されていると言える。また、B川以外にも、先に述べたC川や市北部の水路にもミクリ類が生育していることが知られており、さらなるキンイロネクイハムシの発見に期待が持てる。キンイロネクイハムシの分布と生態について、引き続き調査を続けたい。

### 謝辞

最後に、調査にあたり助言を賜り、加えて、本稿をご校閲いただいた森正人氏にお礼申し上げる。

### 参考文献

- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. (<http://www.env.go.jp/press/107905.html>)
- 国土交通省国土地理院. 地理院地図. (<https://www.gsi.go.jp/>) 2021年5月確認.
- 林 成多, 2004. 日本産ネクイハムシ亜科の絵解き検索による同定. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 127-136.
- 姫路市史編集専門委員会, 1998. 姫路市史 第七巻上 資料編 自然. 208-223.
- 兵庫県, 2012. 兵庫県版レッドリスト (昆虫類). ([https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg\\_240/leg\\_289/leg\\_709](https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/leg_709))

路市史編集専門委員会, 1998).

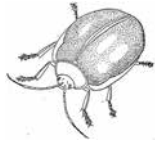
### キンイロネクイハムシの移動について

今回(2021年)本種を採集した場所は、昨年(2020年)本種を発見したA公園からは流路長にして2 km以上上流側であった。また、A公園の周囲の田畑などを確認したが、ミクリ類は発見できなかった。今回の発見場所からA公園に本種が飛来するとは考えづらく、A公園付近で発生している可能性も低いことから、上流側から流された可能性が示唆された。上流側では水路脇が遊歩道のようになっており、5月ごろに草刈りが行われる。この草刈りによって流された草体上に、本種がとまっていたものと推測される。場合によっては下流域へ分布を広げうる、1つの仮説として提唱する。

### キンイロネクイハムシの発生生態について

今回採集された個体はいずれも図3に示したような生息環境で得られたが、B川ではミクリ類がより高密度に繁茂している場所も見られた。しかしそのような場所ではキンイロネクイハムシを発見できていない。ミクリ類の生育以外にも、流速や底質環境といった要因が、発生や幼虫の生存に影響を及ぼしているものと考えられる。

# たんぽう



## 小野市でキマダラコヤガを確認

柴田 剛

キマダラコヤガ *Acontia trabealis* (Scopoli, 1763) は、北海道から九州にかけて広く分布するが局地的な種とされている。兵庫県では2003年においては未記録(高島, 2003)とされ、その後の確認情報は見つけることができなかった。幼虫の食草はヨーロッパではセイヨウヒルガオが知られているが、本邦における食草は未知である。

筆者は本種を2018年に小野市で撮影しており、このたび更に同市の別の場所で撮影・採集することができたので報告する。

### 【確認情報】

1 写真撮影：小野市下大部町(加古川の河川敷)(図)

撮影年月日：2018年8月11日

2 採集・写真撮影：小野市黍田町(加古川の河川敷)

採集・撮影年月日：2020年7月23日



図 兵庫県小野市下大部町, 2018年8月11日

### ○引用文献

高島昭, 2003. 兵庫県のコヤガ亜科. きべりはむし 31(1): 81-95

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

## 2010年および2016年の西宮市および宝塚市におけるクロマダラソテツジミの記録

宇野宏樹

クロマダラソテツジミ *Chilades pandava* は2007年以降関西圏で発生が確認されている南方系のシジミチョウである。兵庫県において、本種は2007年に川西市・伊丹市・宝塚市で記録されたのをはじめとして、その後は2008年に西宮市・宝塚市・明石市・川西市・伊丹市・三田市・芦屋市・神戸市・加古川市・姫路市・たつの市・相生市・赤穂市・淡路市で、2016年に神戸市・伊丹市で、2018年に神戸市・姫路市・西宮市・芦屋市で、2019年に神戸市・姫路市・芦屋市でそれぞれ記録されている(森地, 2009; 三木, 2009; 浅田, 2017; 脇村, 2017; 広畑, 2018; 永原, 2019; 広畑, 2019; 浅田, 2019; 神吉, 2020)。

筆者は公式には空白期となっている2010年に宝塚市、西宮市で本種を採集しているのが自然史の資料として報告しておきたい(もっとも、インターネット上のブログでは2010年9月26日に神戸市中央区兵庫県公館で本種を撮影したという情報を見ることができる)。また、2016年において、本年に記録のない西宮市における本種の標本を所持しているため、あわせて報告する。

1♂(図1), 兵庫県西宮市相生町オアシスロード. 14.X.2010.

1♀(図2), 兵庫県宝塚市逆瀬台一丁目. 24.X.2010.

2♂, 兵庫県西宮市門戸東町. 16.X.2016

上記の記録について、標本はすべて筆者が採集・保管している。なお、正確な日時は記録できていないのだが、2019年秋には西宮市門戸岡田町にある民家のソテツ付近において、2020年には神戸市北区山田町上谷上で、それぞれ本種を確認していることを付け加えておきたい。末筆ながら、文献の入手に協力くださった甲陽学院高等学校生物部顧問の谷本雅昭先生に厚くお礼申し上げる。

### ○参考文献

浅田 卓, 2017. 神戸市・相楽園で発生したクロマダラソテツジミ, きべりはむし, 39(2): 69-70.

浅田 卓, 2019. 神戸市・相楽園のクロマダラソテツジミ 2018-2019. きべりはむし, 42(2): 12-14.

神吉正雄・神吉弘視, 2020. 芦屋市の昆虫調査報告 I - 芦屋市のチョウについて -. きべりはむし, 43(1): 9-17.

永原壮規, 2019. 甲陽学院高校およびその周辺で見られる昆虫. 生物甲陽 2019, 1-4.

広畑政巳, 2018. 兵庫県姫路市でクロマダラソテツジミを撮影. きべりはむし, 41(1): 25.



- 広畑政巳, 2019. 姫路市白鳥台と書写にてクロマダラソテツシジミを撮影. きべりはむし, 42 (2): 57.
- 法西浩, 2009. 兵庫県西宮市・宝塚市に侵入したクロマダラソテツシジミの野外観察と飼育記録. 人と自然, 20: 133-137.
- 三木 進, 2009. クロマダラソテツシジミの明石市西部における観察例, きべりはむし, 32 (1): 57-58.
- 森地重博, 2009. 兵庫県における 2007・2008 年のクロマダラソテツシジミの記録, きべりはむし, 32 (1): 4-13.
- 脇村涼太郎, 2017. 兵庫県伊丹市でクロマダラソテツシジミを採集・観察, きべりはむし, 39 (2): 70-71.

○参考にしたブログ

クロマダラソテツシジミ@神戸市中央区 2010. 虫と鉄.  
<http://erbaf.blog95.fc2.com/blog-entry-623.html?sp>

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)



図1 クロマダラソテツシジミ♂



図2 クロマダラソテツシジミ♀

明石市内でシルビアシジミの生息地を確認

久保弘幸

2020年5月1日に, 明石市内でシルビアシジミ (*Zizina emelina*) の新生息地を確認したので報告しておく. 確

認場所は兵庫県明石市魚住町である.

シルビアシジミは環境省レッドリスト I b 類, 兵庫県レッドリスト A ランクに登録されている蝶である. 兵庫県の蝶 (広畑・近藤 2007) によれば, 明石市内では明石川河口近くで採集されている.

今回確認した生息地は, ため池の堤防である. 年間を通じて草刈り, 野焼きなどの手入れがなされており, 生息環境は安定していると思われる. 隣接する神戸市西区にも生息地が存在する可能性があり, 今後の調査が期待される.

なお, 魚住町周辺のため池群では堤防が厳格に管理されており, 特に堤防斜面への進入は厳しく規制されている. 採集・観察をされる際は, 堤防斜面への立ち入りをお控えいただくようお願いしたい.

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一 2007 『兵庫県の蝶』 331pp.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市  
 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

明石市内でウラゴマダラシジミを採集

久保弘幸

2020年5月に, 明石市内でウラゴマダラシジミ (*Artoptoetes pryeri*) の生息を確認したので報告する.

【確認場所】 兵庫県明石市大久保町松陰

【確認日】 2020年5月27日

【個体数】 1♂

ウラゴマダラシジミはイボタを食樹としており, 湿潤な場所を好むイボタが生育する, 丘陵地帯の谷筋などに広く分布している. 明石市内では大蔵谷に 1963 年の記録はあるものの (広畑政巳・近藤伸一 2007), その他に記録がなく, 明石市レッドリストの作成にあたっても要調査種とされていた.

明石市内では, 本種の生息に適した環境はわずかに残るのみと考えられ, 種としての生息状況は安定したもののとは言い難い. 今後の生息状況に注目したい.

○参考文献

広畑政巳 近藤伸一 2007 『兵庫県の蝶』 331pp.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市  
 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

## 稲美町でシルビアシジミを目撃

久保弘幸

2020年6月に、稲美町内でシルビアシジミ (*Zizina emelina*) を目撃したので報告しておく。

【目撃場所】 兵庫県加古郡稲美町国安 (稲美中央公園内)

【確認日】 2020年6月20日

【個体数】 1ex.

シルビアシジミは環境省レッドリスト I b 類、兵庫県レッドリスト A ランクに登録されている蝶である。兵庫県の蝶 (広畑・近藤 2007) によれば、稲美町内での採集例は知られていない。

今回目撃した場所は、周辺にミヤコグサは認められないことから、近隣より飛来したものと思われる。隣接地域に生息地が存在する可能性が高く、その確認が期待される。

### ○参考文献

広畑政巳 近藤伸一 2007 『兵庫県の蝶』 331pp.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市  
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

## 神戸市中央区市街地におけるミカドアゲハの記録

山崎由美子

2020年6月7日11時30分ごろ、兵庫県神戸市中央区中山手6丁目関西国際大学神戸山手キャンパス3号館付近にて、ミカドアゲハ (*Graphium doson albidum*) 1頭を観察した (図1)。約2分間街路樹の葉の上に静止していたため、撮影に成功した。腹部の形状、黒帯の入り方からオスとみられる (日本チョウ類保全協会, 2012)。裏面基部の斑紋がある部分に薄い黄色が見えるが、明瞭ではない。

ミカドアゲハは本来南方系の蝶であり、兵庫県内のミカドアゲハの目撃や採集は早くも1958年、1964年に記録があったものの (2例とも淡路市)、これらは四国或いは和歌山から飛来したと考えられた (近藤, 2020)。2008年以降、たつの市、赤穂市、宝塚市、加古川市、西宮市、伊丹市、芦屋市、神戸市で記録が相次いだ (長田ら, 2015)。定着については、1994年前後に香川県 (出嶋, 2012)、2000年代に岡山県で確認されたが (近藤, 2020)、兵庫県では近年に至るまで確認されていなかった。しかし、2019年5月には伊丹市で

産卵が確認され (角正ら, 2020)、西宮市甲山森林公園内で2019年、2020年の2度にわたり記録された状況は、公園内での定着を強く示唆していた (近藤, 2020)。

本例観察付近において2021年4月時点で定着を確認できていないが、撮影場所は神戸市立相楽園に隣接しており、園内、園外の街路にはタイサンボク *Magnolia grandiflora* が植えてある。タイサンボクは北米原産で、モクレン科に属し、神戸市街地に多く見られる。日本では本州から沖縄にかけてミカドアゲハが食樹としており (長田ら, 2015)、伊丹市では産卵が確認された木である (角正ら, 2020)。香川県内のミカドアゲハ分布拡大の一要因としてタイサンボクの植樹増加が挙げられており (出嶋, 2012)、同様のことが神戸を含む他の地域でも生じているかどうか、ミカドアゲハの分布変化を調査する上で今後検討すべき課題の一つと言えよう。

本報告をまとめるにあたり、近藤伸一氏よりご助言を賜った。ここに改めて御礼申し上げる。

### ○参考文献

長田庸平・矢後勝也・矢田脩・広渡俊哉, 2015. 雌雄交尾器とDNAバーコーディングに基づくミカドアゲハ日本産亜種の再検討, 特に沖縄島と対馬個体群の所属について. 蝶と蛾, 66 (1): 26-42.

角正美雪・大櫃成章・尾崎由紀・尾崎雄二・松本好子・松尾雅仁・田淵千里・大橋昭仁・坂本昇・前畑真実, 2020. 兵庫県伊丹市におけるミカドアゲハ (チョウ目, アゲハチョウ科) の記録. 伊丹市昆虫館研究報告, 8 (3), 25-26.

近藤伸一, 2020. ミカドアゲハ兵庫県内の記録3例. きべりはむし, 43(2): 52-53.

出嶋利明, 2012. 香川県におけるミカドアゲハの分布拡大. やどりが, 234: 26-27.

日本チョウ類保全協会 (編), 2012. フィールドガイド日本のチョウ. 誠文堂新光社.



(Yumiko YAMAZAKI  
兵庫県神戸市)

図1 観察時の状況

## ウスムラサキチビナミシヤク兵庫県市川町に産す

高橋輝男

2016年10月6日午後9時半頃、兵庫県神崎郡市川町屋形の播但連絡自動車道路市川サービスエリアでウスムラサキチビナミシヤク *Gymnoscelis deleta* を撮影した。撮影場所は当サービスエリアの上下線を繋ぐ地下通路から地上に上がる階段の鉄フェンスである。

撮影した当初は名前が分からないままであったが、最近、図鑑やインターネットで調べていく内にウスムラサキチビナミシヤクであることが判明した。本種は南方系の珍しい種であり、インターネットを調べても沖縄産蛾類幼虫の図説と食草(2006年投稿)が見いだせる唯一のものであった。国外ではインド、スリランカに分布するようだ。本種の記録としては宮崎県小林市が最北の記録である。

食草はシマサルトリイバラやサツマサンキライであるがそのような植物は自生していない。当地で多く見られる同属のサルトリイバラ(別名サンキライ)で発生したとも考えられるが疑問である。

## ○参考文献

井上寛・杉繁郎・黒子浩・森内茂・川辺湛・大和田守, 1982. 日本産蛾類大図鑑(第1巻). 株式会社講談社. 966pp.

井上寛・杉繁郎・黒子浩・森内茂・川辺湛・大和田守, 1982. 日本産蛾類大図鑑(第2巻). 株式会社講談社. 352pls+552pp.

沖縄産蛾類幼虫の図説と食草, 2006年12月4日投稿(最終閲覧日:2021年5月3日). ウスムラサキチビナミシヤク. <https://ga1996.ti-da.net/e1186404.html>

(Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町)



図1 市川町産ウスムラサキチビナミシヤク

## サザナミフユナミシヤクを相生市で採集

高橋弘樹

2021年1月3日20時頃、兵庫県相生市ひかりが丘の住宅の窓灯りに飛来したサザナミフユナミシヤク *Operophtera japonaria* (Leech, 1891) 1♂を採集したので報告する。

本種の分布は関東地方の他、岩手・秋田・山梨・長野・岐阜・福井の各県となっており(中島・小林, 2017)、近畿以西の記録は対馬のもの以外発見できなかった。

発見地は1990年代に丘陵を削って造成された住宅地であるが、周囲に本種の食樹となるクヌギ・コナラが少なからず残っている。



図 相生市産サザナミフユシヤク

なお、写真が非常に見苦しい状態であるが、これは筆者が標本作成に取り組み始めたばかりで展翅技術を欠くことによるものであり、捕獲時には翅の損傷は無かったことを付記しておく。

最後に、同定をしてくださった神戸大学大学院農学研究科、阪上洸多氏と記録の公表を助めてくださった兵庫県立人と自然の博物館、八木剛氏にお礼申し上げます。

## ○参考文献

中島秀雄・小林秀紀, 2017, 『月刊むし・昆虫図説シリーズ11 日本の冬尺蛾』有限会社むし社

岸田泰則, 2020, 『日本の蛾』学研

神奈川県レッドデータブック2006Web版 サザナミフユナミシヤク <http://conservation.jp/tanzawa/rdb/rdblists/detail?spc=782>

みんなで作る日本産蛾類図鑑V2 サザナミフユナミシヤク <http://www.jpmoth.org/>

(Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市)

## 神戸市西区におけるメスアカケバエの追加記録

池田健一

メスアカケバエ *Bibio japonica* (Motschulsky, 1866) は雌では中胸背板と腹部が赤褐色であることで特徴づけられる種で、成虫は3-6月に出現する (Hardy & Takahashi, 1960). 兵庫県では「少数ながら近年でも確認され、地域によっては多産する可能性がある」として「注目すべき双翅目」の1種として挙げられている (吉田・八木, 2012). 兵庫県内では尼崎市、神戸市、加古川市で記録がある (吉田, 2015).

筆者は2006年4月29日15時頃、神戸市西区押部谷町福住で本種♀を撮影したのでここに報告する。明石川の河川敷に生えたクズの茎に静止した所を撮影した。本種は西区では2012年に押部谷町木津で♂個体の記録がある (吉田, 2015).

### ○引用文献

Hardy, D.E. & Takahashi, M., 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Nematocera). *Pacific Insects*, 2(4): 383-449.

吉田浩史, 2015. 兵庫県の双翅目 8. ケバエ科・トゲナシケバエ科. はなあぶ, 39: 77-84.

吉田浩史・八木剛, 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目. きべりはむし, 34(2): 12-25.

(Kenichi IKEDA 生態情報)



図1 神戸市西区押部谷町福住, 2006年4月29日.

## サツマヒメカマキリを京都府(京都市)で採集

今邑宏樹

筆者は、サツマヒメカマキリ (*Acromantis satsumensis* Matsumura, 1913) を京都府京都市で採集したので、京都府初記録として報告する (図1).

### <採集データ>

サツマヒメカマキリ (*Acromantis satsumensis* Matsumura, 1913)

2020年12月19日 幼虫5頭 (雌4令16mm黒褐色, 雌4令15mm赤褐色, 雄4令18mm褐色, 雌4令18mm茶褐色, 雌4令茶褐色17mm) 京都市右京区

### <発見の経過>

#### \*初発見 (情報)

2020年12月15日、京都市右京区在住の池上拓人氏より自宅庭で摘んだハーブに本種と思われるカマキリ幼虫を採集したとの情報を得た。送信画像を見ると、本種の形態的特徴である「頭頂部の角状突起、複眼の縞模様、後腿脚内側前方のひれ状の突起 (図2)」が確認され本種であると判断した。また、幼虫越冬するという本種の生態的特徴から考えても発見種はサツマヒメカマキリだと確信した。

#### \*追調査

2020年12月19日午前11時から14時まで、京都市右京区の池上氏自宅に隣接する丘陵地を探索した。

<遊歩道沿いは日当たりがよく、常緑広葉樹やコナラなどの落葉広葉樹が混生した雑木林であった。>

その結果、本種幼虫5頭 (雄1頭, 雌4頭) を採集した。カマキリはいずれも木の枝やシダの葉に引っかかった枯葉をビーティングして得られた。4頭はツバキの枝に絡まった枯葉やクモの巣の塊から得た。1頭はシダに絡まる枯葉から得た。

2021年1月5日現在、5頭とも青少年科学センターにて飼育中。

### <考察>

本種の分布域は、本州南西部、四国、九州、南西諸島であるとされている (岡田, 2008)。今回の発見については、人為的な持ち込みによる可能性も否定できないが、近年隣接する兵庫県や大阪府での採集記録があり京都市内での発見もその連続ではないかと推測され、分布域を拡大し北上傾向を示しているように思われた。

### <課題>

今後の課題として、現地を起点にさらに調査地を拡大し、京都市における本種の分布域と動向を詳しく調べたい。

<謝辞>

本報告において、本種同定等に関わりご指導、ご助言賜りました京都教育大学名誉教授松良俊明先生、京都大学教授松浦健二先生、京都大学大学院生小西堯生氏、箕面公園昆虫館館長中峰空氏、京都府内の第一発見者でありご連絡くださった池上拓人氏、追調査の採集でご協力頂いた京都市青少年科学センター主任主事辻礼史先生には心より感謝を申し上げます。

○文献

日本直翅類学会(編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp. 学研プラス, 東京.  
岡田正哉, 2008. 昆虫ハンターカマキリのすべて. 63pp. トンボ出版, 大阪.

(Hiroki IMAMURA 京都市青少年科学センター  
指導室 生物領域)



図1 サツマヒメカマキリの幼虫 京都市右京区, 2020年12月19日.



図2 後腿脚内側前方に見えるひれ状の突起.

兵庫県淡路市でホシミスジの2例目を確認

矢口芽生

ホシミスジ *Neptis pryeri* は、ユキヤナギやコデマリなどが庭先や公園に植栽されたことにより、人為的に作られた環境にも進出し定着しつつあるタテハチョウ科の一種で本州、四国、九州に分布するが、淡路島には分布していなかった。しかし、2003年に淡路市岩屋で植栽されたユキヤナギから幼虫と蛹の羽化殻が確認され(伊藤2004)、2004年には洲本市五色町都志と南あわじ市沖ノ島で確認されるなど、人為的要因により淡路島に分布を拡大している。



図 淡路市産ホシミスジ

筆者は、2020年に兵庫県淡路市の岩屋以外で本種の成虫を確認したため、報告する。4地点全てにユキヤナギが植栽されていたことから、このユキヤナギに付着して侵入したものとする。

【採集データ】

確認場所：兵庫県淡路市野島常盤

確認日：2020年6月15日, 7月15日, 8月15日, 8月30日

確認場所：兵庫県淡路市富島

確認日：2020年5月21日

確認場所：兵庫県淡路市多賀

確認日：2020年9月29日

確認場所：兵庫県淡路市生穂新島

確認日：2020年5月25日

○参考文献

伊藤寿, 2004. 兵庫県淡路島でホシミスジを採集. 蝶研フィールド, 19 (2) : 28.

(Mei YAGUCHI 東京都練馬区)

## 兵庫県淡路市でヤクシマルリジミを確認

矢口芽生

ヤクシマルリジミ *Acytolepis puspa* は、1972年に兵庫県内初記録という形で、南あわじ市で確認されて以降、洲本市と南あわじ市各所で確認されている（広畑・近藤 2007）が、淡路市での正式な記録は確認されなかった。

筆者は、2020年に本種の成虫を兵庫県淡路市で確認したため、報告する。



図 淡路市産ヤクシマルリジミ

### 【採集データ】

確認場所：兵庫県淡路市多賀

確認日：2020年8月5日, 9月29日

### ○参考文献

広畑政巳, 近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶, p154, 岩峰社, 東京

(Mei YAGUCHI 東京都練馬区)

## 兵庫県淡路市でアメリカピンクノメイガを確認

矢口芽生

アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* は、2019年に日本で初めて岐阜県で確認され、同年には滋賀県にて2例目が確認された北米原産のツトガ科ノメイガ亜科の一種である。幼虫の食餌植物はシソ科のサルビア属であることから、株の移入により日本に侵入したと考えられている（宮野 2020, 前田・吉安 2020）。筆



図 淡路市産アメリカピンクノメイガ

者は、2020年に兵庫県淡路市で本種と思われる成虫を確認したため、今後の分布動向調査や普及啓発の際の参考資料として報告する（写真）。

筆者が調べた限りでは、日本国内での正式な記録は、前述の岐阜県および滋賀県のみで、兵庫県の記録は確認されなかった。本種の食餌植物が園芸植物として日本国内で広く流通していることから、今後全国各地への分布拡大および被害発生の可能性があると考えられる。

### 【採集データ】

確認場所：兵庫県淡路市野島常盤

確認日：2020年9月14日, 9月20日

確認場所：兵庫県淡路市多賀

確認日：2020年9月29日, 10月29日

### ○参考文献

宮野昭彦, 2020. 日本未記録のピンク色のノメイガ, 誘蛾燈, 239: 1-2.

前田憲吾, 吉安裕, 2020. 滋賀県守山市で採集された北米からの移入種と思われる *Pyrausta inornatalis* (鱗翅目: ツトガ科, ノメイガ亜科) —日本における2番目の分布記録, 誘蛾燈, 240: 43-45.

(Mei YAGUCHI 東京都練馬区)

## 兵庫県淡路市でウマノオバチを確認

矢口芽生

ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* は、兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類) において、Cランクに指定されており、兵庫県内での分布は、明石市, 加古郡播磨町, 佐用町, 南あわじ市で記録がされているのみであり、淡路市では未記録と思われる (兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2012)。

筆者は、2019年と2020年に兵庫県淡路市で本種を確認したため、報告する。

今回の投稿についておめてくださり、ご指導いただいた兵庫県立人と自然の博物館の八木剛氏に厚くお礼申し上げます。

### 【採集データ】

確認場所：兵庫県淡路市野島常盤

確認日：2019年6月1日

確認個体：1♀

確認場所：兵庫県淡路市野島常盤

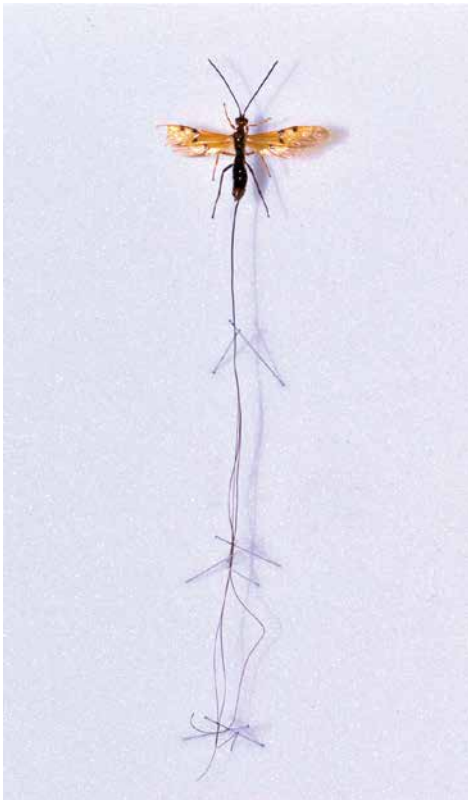


図 淡路市産ウマノオバチ



図1 クズ葉上のムネアカオオクロテントウ.



図2 本種が確認されたクズ群落.

筆者は 2020 年に本種を神戸市灘区の都賀川周辺で確認したので、ここに報告する。

#### データ

コウチュウ目 テントウムシ科 ムネアカオオクロテントウ  
*Synona consanguinea* Poorani, Šlipiński & Booth, 2008

1ex., 神戸市灘区千旦通, 都賀川公園, alt. 30m, 27. X. 2020, 吉田浩史.

本種は、主としてクズに付くマルカメムシを捕食するとされている(初宿, 2021)。このため筆者は、2018 年にも神戸市内においてクズがまとまってみられる 3ヶ所で調査を行ったが(吉田, 2019)、本種の確認には至らなかった。

調査した 3ヶ所のうち、東灘区六甲アイランド南公園については、後に近隣の別の公園で本種が確認された(初宿, 2021)。また残る 2ヶ所は 2020 年 11 月に筆者が再調査を行ったが、須磨区須磨海岸では本種は確認されず、中央区神戸空港島は工事中で以前確認したクズ群落が伐採されてなくなっていた。

#### 謝辞

初宿成彦学芸員(大阪市立自然史博物館)には本種の情報についてご教示頂いた。ここに厚くお礼申し上げる。

#### ○参考・引用文献

中西康介・松原豊・青井光太郎・持田浩治・日高直哉  
2016. 外来種ムネアカオオクロテントウを東京都お

確認日：2020 年 6 月 6 日

確認個体：1 ♀

#### ○参考文献

兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類)  
<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/index.html>

(最終閲覧：2021 年 5 月)

(Mei YAGUCHI 東京都練馬区)

#### 神戸市内からのムネアカオオクロテントウの記録

吉田浩史

ムネアカオオクロテントウは、中国南部・台湾・東南アジアを原産とするテントウムシ科の外来種である。

国内では 2016 年に初めて報告され、2014 年から採集記録がある事が判明した(齋藤ら, 2016; 中西ら, 2016; 初宿, 2021)。

2020 年の時点で、関西では大阪府、関東では東京都を中心として分布を拡大している。兵庫県では、大阪府から 2019 年に分布拡大したと考えられるものが西宮市、三木市、伊丹市から神戸市東部で記録されたほか、2018 年から姫路市を中心に飛地的に分布を拡大している(初宿, 2021)。

よび神奈川県で発見. さやばね (N. S.), (21): 58.

齋藤琢巳・春沢圭太郎・初宿成彦 2016. 大阪府下における *Synona* 属テントウムシの記録. 月刊むし, (539): 46-47.

初宿成彦 2021. 大阪市立自然史博物館・外来生物調査プロジェクト (Project A) によるムネアカオオクロテントウ・ユーカリハムシ・ヨツモンカメノコハムシの市民調査報告. 大阪市立自然史博物館研究報告, (75): 53-77.

吉田浩史 2019. 神戸市とその周辺における分布拡大中の昆虫についての調査記録. きべりはむし, 41(2): 32-35.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

## 神戸市内からのタケクマバチの記録

吉田浩史

はじめに

タケクマバチは、膜翅目ミツバチ科に属するハナバチの一種であり (多々内・村尾, 2014), 2006 年に愛知県及び岐阜県から初めて確認された外来種である (矢田, 2007).

筆者は、2020 年に本種を神戸市南東部の 3 ケ所で目撃・写真撮影した. ネット上の情報を検索した結果, 前年 2019 年の記録を発見したため, 記録者の許可を得てここに合わせて報告する.

なお, 本種の和名についてはタイワンタケクマバチが使われる事が多いが, 今回は松本・西本 (2020) の見解に従いタケクマバチを使用した.

生態等

本来はアジア大陸及び台湾に分布する (川添, 2019). 成虫は 4 ~ 9 月に出現し, 各種植物を訪花する (多々内・村尾, 2014).

日本国内では, 2006 年に愛知県及び岐阜県から記録 (矢田, 2007) された後, 東京・埼玉・静岡・長野・石川・福井・三重・滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・岡山・鳥取と, 関東地方から中国地方東部にかけて分布を拡大している (柴田, 2020).

兵庫県では, 大草伸治氏の私信として 2011 年に赤穂市で確認されたと記録されている (間野, 2012). その後, 尼崎市 (上森, 2018) 及び明石, 三木, 加古川の各市 (柴田, 2020) から記録されている. 神戸市においては 2015 年の時点で未記録 (神戸市, 2015) で, その後の記録もないようであった.

データ

膜翅目 ミツバチ科 タケクマバチ

*Xylocopa tranquebororum tranquebororum* (Swederus, 1787)

2 ♂ (目撃), 神戸市須磨区板宿町, alt.50m, 5. V. 2019, 山下雅司; 1 ♂ (写真 1), 神戸市須磨区大手, alt.60m, 5. V. 2019, 山下雅司; 1 ♂ (写真 2), シャリンバイ訪花, 神戸市灘区新在家北町, alt.5m, 8. V. 2020, 吉田浩史; 1 ♀ (目撃), デュランタ訪花, 神戸市東灘区岡本 (阪急岡本駅南側), alt.30m, 29. VII. 2020, 吉田浩史; 1 ♀ (目撃), 神戸市東灘区岡本 (阪急岡本駅北側), alt.35m, 6. IX. 2020, 吉田浩史.

2019 年には山下雅司氏により, 神戸市須磨区の 2 ケ所においてホバリング中のオス計 3 個体が確認された. うち 1 個体については, 山下氏が標本を保管している.

2020 年には筆者により, 灘区及び東灘区の市街地 3 ケ所において植栽を訪花中または飛翔中の個体が目撃された. いずれも確認当時捕虫網を持っていなかったため, 標本は残されていない.

このように神戸市の南西部から南東部にかけて複数の地点で確認されたことから, 2020 年の時点ですでに市内の広い範囲に生息している可能性が高いと考えられる.

謝辞

山下雅司氏にはデータ引用の許可のほか, 写真をご提供頂いた. 松本吏樹郎学芸員 (大阪市立自然史博物館) には文献情報をご教示頂いた. 河合正人氏には訪花植物



図1 タケクマバチ (オス) 標本写真 (山下雅司氏撮影).



図2 シャリンバイを訪花するタケクマバチ (オス) (筆者撮影).



についてご教示頂いた。ここに厚くお礼申し上げる。

○参考・引用文献

- 川添和英 2019. 本州中部に定着した外来種タイワンタケクマバチの遺伝子解析に基づく原産地の推定. なごやの生物多様性, 6: 29-31.
- 神戸市 2015. 神戸市動植物確認種リスト. 神戸市環境局環境保全部自然環境共生課. ([http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/all\\_list.pdf](http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/all_list.pdf)).
- 間野隆裕 2012. タイワンタケクマバチ. 愛知県移入種データブック検討会 (編), 愛知県の移入動植物—ブルーデータブックあいち 2012: p.111. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 松本吏樹郎・西本大作 2020. 大阪府のタケクマバチ. Nature Study, 66(8): 2-3.
- 柴田剛 2020. 小野市と明石市でタイワンタケクマバチを確認. きべりはむし, 43(2): 55.
- 多々内修・村尾竜起 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版.
- 上森教慈 2018. 兵庫県尼崎市でタイワンタケクマバチを採集. きべりはむし, 41(1): 31.
- 矢田直樹 2007. 愛知県と岐阜県におけるタイワンクマバチの採集記録. 月刊むし, (439): 39-40.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

サトクダマキモドキの雌雄型と思われる奇形個体の採集記録

池田大

サトクダマキモドキ *Holochlora japonica* Brunner von Wattenwyl, 1878 の雌雄型 (雌雄モザイク) と思われる奇形個体を採集しているので報告しておく。

1ex., 兵庫県三田市福島 有馬富士公園, 25. VIII. 2018, 筆者採集, 保管 (図1・2)

当時, 三田市有馬富士自然学習センター (キッピー山のラボ) で勤務していた筆者は, 園内で生き物を観察しながら通勤していた。その道中, 翅の不自然なサトクダマキモドキを発見し, 違和感を覚えたため手に取って確認したところ奇形個体であると判明した次第である。

本個体は全体にメスの特徴が強く表れるが, 尾端部周辺において左右非対称となっている。左の尾肢は太く先端部が滑らかなメスの特徴であるのに対し, 右の尾肢は先端部が黒く尖るオスの特徴を有している。また左側の尾端部は一部奇形となっているがメスの産卵管と思し



図1 全形.

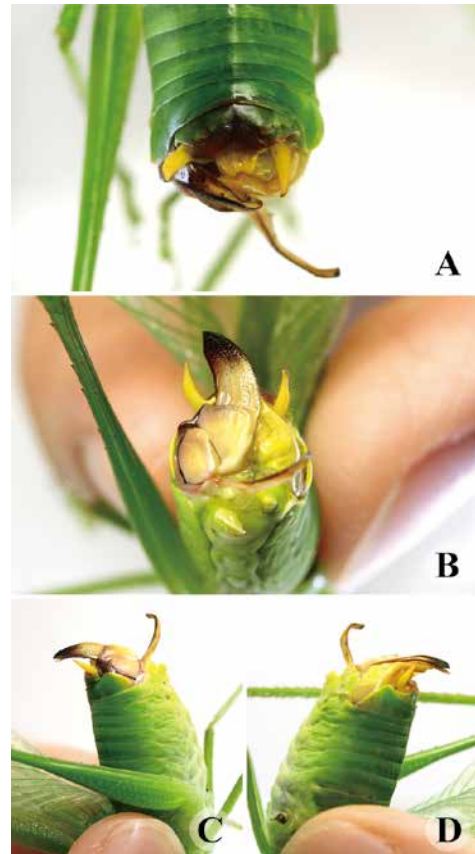


図2 尾端部 (A. 背面; B. 腹面; C. 左側面; D. 右側面).

き構造をしている。一方, 右側の尾端部はメスの産卵管に類似する形態をしているが, 通常とは異なる構造をしており, むしろ色はオスの尾端部突起で見られる色に近い。生殖下板については通常の状態をしておらず, 雌雄どちらの特徴も表れていない。なお, 腹部を解剖したところ卵が確認されたが, いびつな形をしていた。

以上より, 本個体はモザイク状に雌雄の形態が表れる雌雄型ではないかと推定されるが, メスの奇形個体である可能性も捨てきれないため, 本報告では断定を控えさせていただく。

(Hiroshi IKEDA 橿原市昆虫館)

## ミカドアゲハを神戸市東灘区で撮影

新井雅夫

筆者新井は、蝶の撮影を行っているが、コロナの状況により遠征もできないため、昨年10月から冬場にかけて自宅近くの住吉川で鳥も撮影している。カルガモの雛がうまれたので、2021年5月13日撮影に出掛けた。遊歩道を河口から上流まで歩いた帰り、西岡本の花壇のマツバギクで吸蜜する蝶を目撃。アゲハチョウだろうと近づきカメラを向けるとミカドアゲハのメスであった。急いで家に帰り、捕虫網を探して現場に戻ったが、見つけられなかった。



図1.



図2.

人家の庭や43号線沿いには、タイサンボクが植栽されているので、近くで発生している可能性がある。また、近くには神社もあり、食草のオガタマノキが植えられているか今後確認する必要がある。2020年になって、本種は阪神間の宝塚市・西宮市・神戸市灘区の摩耶山で記録されている。今回、新たに神戸市東灘区で撮影出来たので報告する。同月15日には、友人と西宮市甲山の森林公園のオガタマノキとタイサンボクを見て回ったが、新たな発見はできなかった。

### ○参考文献

神吉正雄, 2020. 阪神間におけるミカドアゲハの記録  
2例. きべりはむし 43 (1): 57-58.

近藤伸一, 2020. ミカドアゲハ兵庫県内の記録3例.  
きべりはむし 43 (2): 52-53.

平野心平, 2020. 神戸市内におけるミカドアゲハの記録.  
月刊むし 598: 26-27.

(Masao ARAI 神戸市東灘区)

## きべりはむし 投稿案内

### 1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

### 2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「兵庫昆虫同好会」と「NPO 法人こどもとむしの会」が共同で発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

### 3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

### 4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

### 5. 投稿者

「きべりはむし」には、NPO 法人こどもとむしの会正会員および賛助会員、兵庫昆虫同好会会員、学生（小学生、中学生、高校生、大学生および大学院生）ならびにきべりはむし会員のいずれかが著者に含まれる原稿を投稿することが出来ます。なお、きべりはむし会員が 1 年間に投稿できるのは、報文 2 報・短報 2 報までとなります。

### 6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでお願いします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

#### 1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1 つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) もしくは MS ワード形式 (.docx) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

#### 2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、.jpeg, .psd, .pdf などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外には行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの大きさを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてく

ださい。

### 3) 引用文献

文献を引用する場合、雑誌や単行本は「著者名(年号)」または「(著者名,年号)」、ウェブサイトは「サイト作成者名(年号)」、「(サイト作成者名,年号)」または「(ウェブサイト名)」と、本文の引用箇所には書き、文末に引用文献をまとめて記載してください。引用文献の記載方法は、以下の例を参考にしてください。

・雑誌を引用する場合

(例1) 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃, 2000. 兵庫県産維管束植物 2. 人と自然, 11: 85 - 104.

(例2) 石原誠一, 1959a. トビイロスズメの生活史 (I). 新昆虫, 12 (2): 36 - 39.

(例3) 石原誠一, 1959b. トビイロスズメの生活史 (II). 新昆虫, 12 (7&8): 37 - 39.

(例4) Hardy, D. E., and M. Takahashi. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Namatocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

・単行本を引用する場合

(例5) 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－第2巻(安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編). 全国農村教育協会, 東京. 350pp.

・ウェブサイトを引用する場合

(例6) 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物－神戸版レッドデータ 2015－, (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).

(例7) Web 東奥(東奥日報), 2020年8月25日, 青森県初確認? 深浦町にアカギカメムシ, <https://www.toonippo.co.jp/articles/-/399599> (参照2020年11月26日).

## 7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 [kiberihamushi@konchukan.net](mailto:kiberihamushi@konchukan.net)

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学農学部昆虫多様性生態学研究室

NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

## 8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

## 9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス [kiberihamushi@konchukan.net](mailto:kiberihamushi@konchukan.net) までお願いいたします。

## 10. ISSN について

きべりはむしは第32巻第2号からオンラインジャーナルのPDF版が正式版となりました。これに伴い、ISSN(国際標準逐次刊行物番号:International Standard Serial Number)を取得しました。ISSNとは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

・参考 web サイト

ISSN 日本センター：<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>

きべりはむし 第44巻 第1号

2021年6月25日 発行

編集 きべりはむし編集委員会

発行 兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会

事務局 きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫多様性生態  
科学研究室 NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>

## きべりはむし 第44巻 第1号 目次

### 【報 文】

兵庫県のナガゴミムシ類 (1) . . . . .	森 正人	1-8
宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010年～2020年の昆虫の記録— . . . . .	宇野宏樹	9-25
芦屋市の昆虫調査報告Ⅲ—芦屋市のその他の昆虫について— . . . . .	神吉正雄・篠原 弘・篠原 忠・石川佳史	26-35
井吹台谷口公園の昆虫類と虫こぶ (付録: 神戸市の虫こぶの文献記録) . . . . .	池田健一	36-43
兵庫県で報告の少ないヤガ科について . . . . .	坪田 瑛	44-50
兵庫県西宮市におけるギフチョウ、ミドリシジミ、オオチャイロハナムグリの記録 . . . . .	中本 南・神吉正雄	51-52
兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録 . . . . .	島崎正美・島崎能子	53-57
神戸市摩耶山における2020年度のアサギマダラの標識個体の移動結果 . . . . .	宮武頼夫・一井弘之・徳増実事	58-61
相生市「羅漢の里」におけるフユシヤク類の定点調査記録 . . . . .	高橋弘樹	62-70
ヤツボシシロカミキリ, その後 (2) . . . . .	小西和夫	71-77
サラサヤンマ ( <i>Sarasaenchna pryeri</i> (Martin, 1909)) の変わった場所での羽化殻を採集 . . . . .	相坂耕作・東 輝弥	78-79
みんなで調べようセミの初鳴き、鳴きおさめの日 -2013～2020- . . . . .	近藤伸一	80-91
姫路市内で得られたキンイロネクイハムシと寄主植物ミクリ類について . . . . .	宮下直也	92-93

### 【短 報】

小野市でキマダラコヤガを確認 . . . . .	柴田 剛	94
2010年および2016年の西宮市および宝塚市におけるクロマダラソテツシジミの記録 . . . . .	宇野宏樹	94-95
明石市内でシルビアシジミの生息地を確認 . . . . .	久保弘幸	95
明石市内でウラゴマダラシジミを採集 . . . . .	久保弘幸	95
稲美町でシルビアシジミを目撃 . . . . .	久保弘幸	96
神戸市中央区市街地におけるミカドアゲハの記録 . . . . .	山崎由美子	96
ウスムラサキチピナミシヤク兵庫県市川町に産す . . . . .	高橋輝男	97
サザナミフユナミシヤクを相生市で採集 . . . . .	高橋弘樹	97
神戸市西区におけるメスアカケバエの追加記録 . . . . .	池田健一	98
サツマヒメカマキリを京都府 (京都市) で採集 . . . . .	今邑宏樹	98-99
兵庫県淡路市でホシミスジの2例目を確認 . . . . .	矢口芽生	99
兵庫県淡路市でヤクシマルリシジミを確認 . . . . .	矢口芽生	100
兵庫県淡路市でアメリカピンクノメイガを確認 . . . . .	矢口芽生	100
兵庫県淡路市でウマノオバチを確認 . . . . .	矢口芽生	100-101
神戸市内からのムネアカオオクロテントウの記録 . . . . .	吉田浩史	101-102
神戸市内からのタケクマバチの記録 . . . . .	吉田浩史	102-103
サトクダマキモドキの雌雄型と思われる奇形個体の採集記録 . . . . .	池田 大	103
ミカドアゲハを神戸市東灘区で撮影 . . . . .	新井雅夫	104

投稿案内 . . . . .		105-106
----------------	--	---------